

JP1 Version 9

# JP1/Integrated Management - Navigation Platform

解説・手引・文法・操作書

3020-3-R95

## 対象製品

P-242C-4P94 JP1/Integrated Management - Navigation Platform 09-50 (適用 OS : Windows Server 2008 R2 ( x64 ), Windows Server 2008 ( x64 ), Windows Server 2008 )

注 Windows Server 2008 R2 ( x64 ), Windows Server 2008 ( x64 ) は、WOW64 環境だけで使用できません。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

BSAFE は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

RSA は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、および Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Andy Clark.

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <[rse@engelschall.com](mailto:rse@engelschall.com)> for use in the mod\_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications

Research, Inc (Bellcore).



JP1/Integrated Management - Navigation Platform は、EMC Corporation の RSA BSAFE(R) ソフトウェアを搭載しています。

**HITACHI**  
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



### マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

### マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Internet Explorer	Internet Explorer 6	Microsoft(R) Internet Explorer(R) 6
	Internet Explorer 7	Windows(R) Internet Explorer(R) 7
	Internet Explorer 8	Windows(R) Internet Explorer(R) 8
	Internet Explorer 9	Windows(R) Internet Explorer(R) 9
Windows	Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter 32-bit
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit

表記	製品名
Windows Server 2008 ( x64 )	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
Windows Server 2008 R2 ( x64 )	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
Windows Vista	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
Windows XP	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

## 発行

2011 年 12 月 3020-3-R95

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, Hitachi, Ltd.

# はじめに

---

このマニュアルは、JP1/Integrated Management - Navigation Platform の機能、操作方法について説明したものです。

このマニュアルでは、上記の製品をナビゲーション プラットフォームと呼びます。

## 対象読者

このマニュアルは、次のユーザを対象としています。

- ナビゲーション プラットフォームのシステムを構築、運用するユーザ
- ナビゲーション プラットフォームで業務コンテンツを作成するユーザ

ナビゲーション プラットフォームのシステムを構築、運用するユーザは、次に示す知識を持っていることを前提としています。

- Windows のシステム管理に関する知識
- リレーショナルデータベースに関する基本的な知識

ナビゲーション プラットフォームで業務コンテンツを作成するユーザは、次に示す知識を持っていることを前提としています。

- Windows の基本的な操作方法
- 使用する Web ブラウザの基本的な操作方法

## 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて次の個所をお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



: 必ず読む項目



: 必要に応じて読む項目

**このマニュアルの画面や操作の説明で使用している記号**  
 このマニュアルでは、次に示す記号を使用して画面や操作を説明しています。

記号	説明
< >	キーボードのキーを表します。
[ ]	ダイアログ名、メニュー項目名、ボタン名、および画面に表示されている項目名を表します。
[ ] - [ ]	- の前に示したメニューから、- の後ろのメニューを選択することを表します。
<i>文字列</i>	文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

**このマニュアルのコマンドおよび URL の説明で使用している記号**  
 このマニュアルのコマンドおよび URL の説明で使用する記号について次に示します。

記号	説明
[ ]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。
	半角スペースであることを示します。
...	直前の値を繰り返すことを示します。





# 目次

## 第1編 概要編

<b>1</b>	<b>ナビゲーション プラットフォームの概要</b>	<b>1</b>
1.1	ナビゲーション プラットフォームとは	2
1.2	構築から運用までの流れ	6

## 第2編 構築編

<b>2</b>	<b>ナビゲーション プラットフォームのインストール</b>	<b>9</b>
2.1	インストールの流れ	10
2.2	システム構成	11
2.3	前提条件	12
2.3.1	推奨マシンスペック	12
2.3.2	Web ブラウザを操作するときの注意事項	12
2.4	インストール手順	16
2.5	アンインストール手順	19
2.5.1	Windows の機能でアンインストールする場合	19
2.5.2	日立総合インストーラでアンインストールする場合	20

<b>3</b>	<b>ナビゲーション プラットフォームのセットアップ</b>	<b>21</b>
3.1	セットアップ	22
3.1.1	セットアップ前の注意点	22
3.1.2	セットアップ手順	22
3.2	アンセットアップ	24

## 第3編 運用編

<b>4</b>	<b>ナビゲーション プラットフォームの運用</b>	<b>25</b>
4.1	ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL	26
4.2	システムの起動と停止	28
4.2.1	起動手順	28
4.2.2	停止手順	29
4.3	セットアップ後にホスト名を変更した場合の設定変更	30
4.4	バックアップとリストア	31
4.4.1	バックアップ手順	31
4.4.2	リストア手順	32
4.5	データベースの運用	35
4.6	トラブルが発生した場合の対処	37
<b>5</b>	<b>業務コンテンツの作成</b>	<b>39</b>
5.1	業務コンテンツの作成の概要	40
5.1.1	業務コンテンツの作成の流れ	40
5.1.2	サンプルの業務コンテンツ	45
5.2	業務フローの追加	48
5.2.1	業務フローを新規に追加する	48
5.2.2	業務フローの名称を変更する	49
5.3	業務フローの作成	50
5.3.1	業務フローを作成する前に	50
5.3.2	ターミナルノードを配置する	52
5.3.3	プロセスノードを配置する	56
5.3.4	関連線を引く	62
5.3.5	分岐合流ノードを配置する	65
5.3.6	固定テキストを配置する	68
5.3.7	画像を配置する	71
5.3.8	ノードやフローパーツを変更する	76
5.3.9	複数のノードやフローパーツを選択する	76
5.3.10	ノードやフローパーツを前面/背面へ移動する	76
5.4	ガイドの作成	79
5.4.1	ガイドを作成する前に	79
5.4.2	固定テキストを配置する	80

5.4.3	画像を配置する	83
5.4.4	チェックボックスを配置する	87
5.4.5	ハイパーリンクを配置する	90
5.4.6	インラインフレームを配置する	94
5.4.7	HTML パーツを配置する	97
5.4.8	ガイドパーツを変更する	104
5.4.9	複数のガイドパーツを選択する	105
5.5	業務コンテンツの変更，複製，削除	106
5.5.1	業務コンテンツの変更	106
5.5.2	業務コンテンツの複製	106
5.5.3	業務コンテンツの削除	107

<b>6</b>	<b>ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ</b>	<b>109</b>
6.1	メニュー領域のカスタマイズ	110
6.1.1	メニュー領域の表示形式を変更する	110
6.1.2	メニュー領域の表示幅を変更する	113
6.2	その他のカスタマイズ	114

## 第4編 リファレンス編

<b>7</b>	<b>プロパティ</b>	<b>115</b>
7.1	設定が必要なプロパティファイル	116
7.2	プロパティファイルの記述形式	117
7.2.1	プロパティファイルを記述する際の注意事項	117
7.2.2	エスケープシーケンスの指定	117
7.3	ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の設定	119
7.3.1	ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) のプロパティ一覧	119
7.3.2	ユーザセットアッププロパティファイルの格納先	119
7.3.3	ユーザセットアッププロパティファイルの記述例	120
7.3.4	ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細	120
7.4	ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定	122
7.4.1	ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) のプロパティ一覧	122

7.4.2 ユーザプロパティファイルの格納先	123
7.4.3 ユーザプロパティファイルの記述例	124
7.4.4 ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細	124

## 8

### コマンド 141

8.1 コマンドの概要	142
8.1.1 コマンド一覧	142
8.1.2 全コマンド共通の注意事項	142
8.2 npdatabackup コマンド (環境退避)	144
8.3 npdatarestore コマンド (環境復元)	146
8.4 npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート)	148
8.5 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)	151
8.6 npreorg コマンド (データベース再編成)	156
8.7 npsetup コマンド (セットアップ)	157
8.8 npstart コマンド (起動)	159
8.9 npstop コマンド (停止)	160
8.10 npunsetup コマンド (アンセットアップ)	161
8.11 npsnapshotlog コマンド (トラブルシュート情報の収集)	162

## 9

### JavaScript 関数 167

9.1 ucnp_menu_show_flow	168
9.2 ucnp_menu_get_contentId	169

## 10

### メッセージ 171

10.1 メッセージの出力先と形式	172
10.1.1 出力先	172
10.1.2 形式	173
10.2 KDCZ00000 ~ KDCZ09999 のメッセージ	174
10.3 KDCZ10000 ~ KDCZ19999 のメッセージ	187
10.4 KDCZ50000 ~ KDCZ79999 のメッセージ	207

## 付録

付録 A このマニュアルの参考情報	245
	246

付録 A.1 関連マニュアル	246
付録 A.2 このマニュアルでの表記	246
付録 A.3 英略語	246
付録 A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	247
付録 B 用語解説	248

## 索引

251



# 1

## ナビゲーションプラットフォームの概要

この章では、ナビゲーションプラットフォームの特長と、ナビゲーションプラットフォームを構築してから運用するまでに必要な作業の概要を説明します。

---

1.1 ナビゲーションプラットフォームとは

---

1.2 構築から運用までの流れ

---

## 1.1 ナビゲーション プラットフォームとは

---

ナビゲーション プラットフォームとは、業務の流れと操作手順を可視化するための製品です。分散した手順書を一つにまとめたり、個人が持っている知識・ノウハウを組織で共有したりして、正確かつ効率良く業務を実施できるようにします。

例えば、システムの運用管理や監視などの業務では、利用者からの問い合わせや障害に対して、だれが対応してもすみやかに問題を解決する必要があります。しかし、担当者のスキルや経験によって対応に差が出てしまうことも少なくありません。

このような業務にナビゲーション プラットフォームを適用すると、担当者の経験や勘に任されていた部分が可視化され、担当者ごとに作業の質や効率にばらつきが出るのを抑えられます。

### (1) 特長

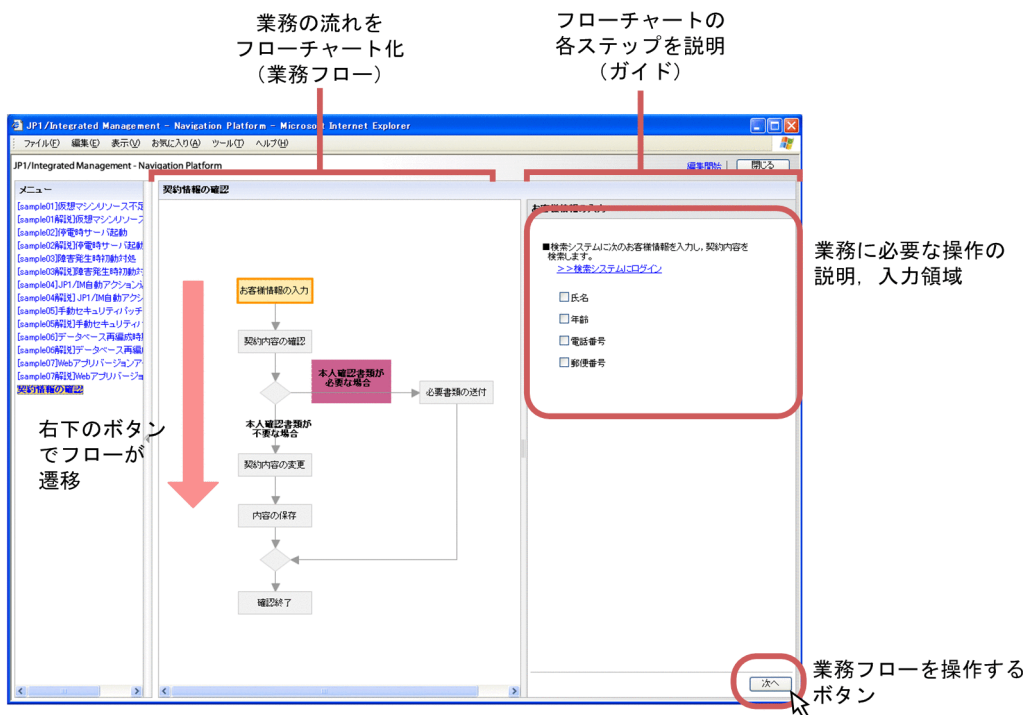
直感的な操作で業務を実行できる

ナビゲーション プラットフォームでは、業務の流れをフローチャート形式で表示できます。また、フローチャートの各ステップに必要な作業を順番にガイド表示できます。ナビゲーション プラットフォームの利用者は、フローチャートに沿って Web ブラウザ上で操作するだけで、正確かつ効率良く業務を実行できます。

ナビゲーション プラットフォームの操作の概要を次に示します。



図 1-1 ナビゲーション プラットフォームの操作の概要



ナビゲーション プラットフォームの画面に表示される業務情報のうち、フローチャートの部分を業務フロー、フローチャートの各ステップに必要な作業を説明する部分をガイドといいます。

プログラミングなしで画面を作成できる

ナビゲーション プラットフォームの画面に表示される業務情報（業務フローおよびガイド）のことを業務コンテンツといいます。業務コンテンツは、編集用の画面を Web ブラウザ上で操作することで作成できます。編集用のパレットからパーツを選択して、業務フローおよびガイドに配置していきます。

業務の流れや作業手順に変更が発生しても、編集用の画面で業務フローの配置やガイドの説明を見直すことで手軽に対応できます。

## (2) 機能

ナビゲーション プラットフォームの業務コンテンツを利用するには、Web ブラウザから業務実行画面を操作します。また、業務コンテンツを作成するには、Web ブラウザから業務編集画面を操作します。

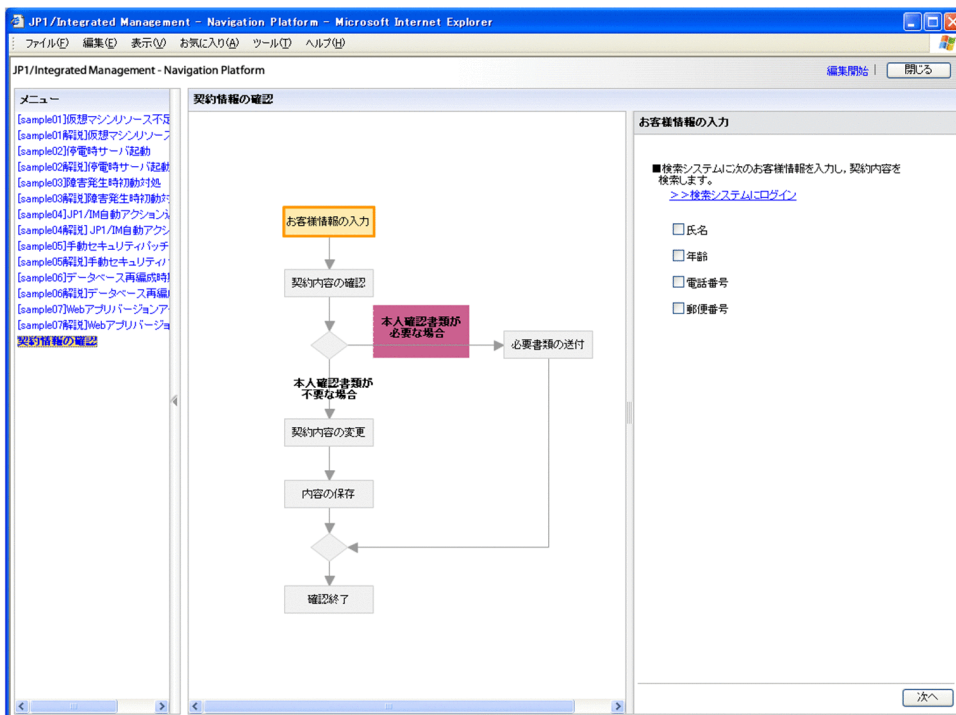
### 業務実行画面

業務実行画面では次のことができます。

- 業務フローを参照して、業務の手順を理解する
- ガイドに表示される説明を参照しながら、業務を実行する

## 1. ナビゲーション プラットフォームの概要

図 1-2 業務実行画面



### 注

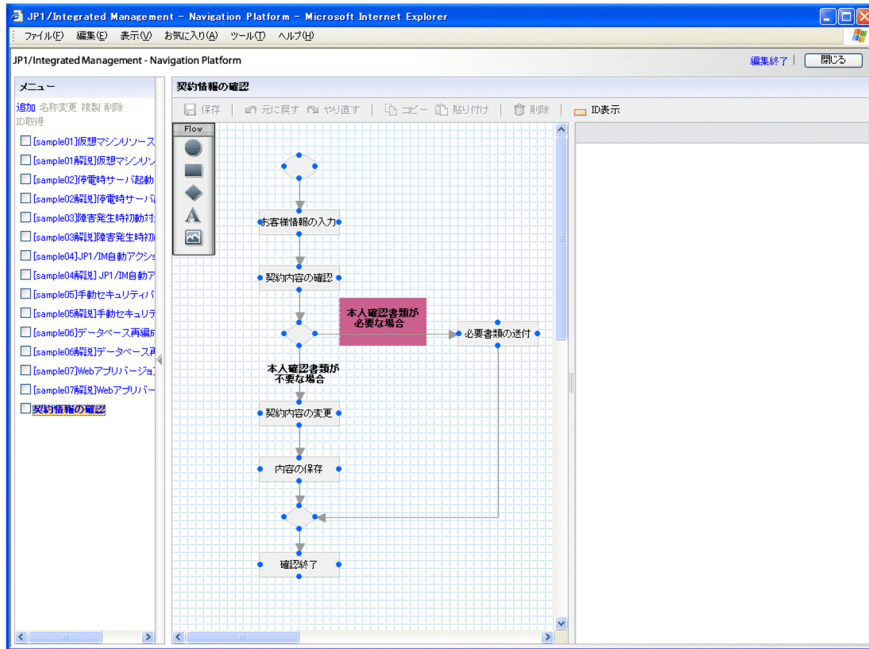
ユーザプロパティファイルの設定によって、メニューや業務フローを非表示にすることができます。

### 業務編集画面

業務編集画面では次のことができます。

- 業務コンテンツを新規に作成する
- 作成した業務コンテンツを変更，複製，削除する

図 1-3 業務編集画面

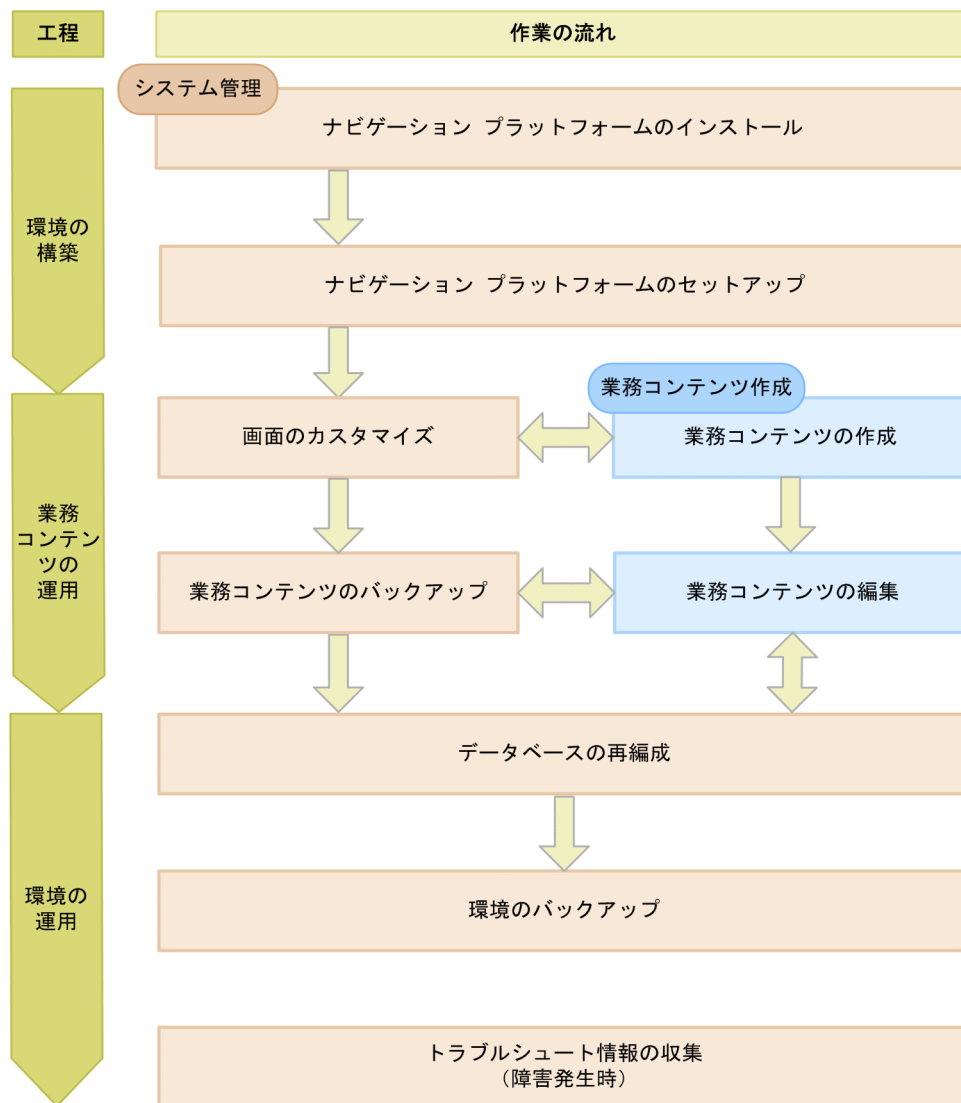


業務実行画面と業務編集画面の見映えはカスタマイズできます。カスタマイズの方法および例については、「6. ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ」を参照してください。

## 1.2 構築から運用までの流れ

ナビゲーション プラットフォームの構築と運用の作業の流れを次に示します。

図 1-4 構築から運用までの作業の流れ



次に、図に示した作業の概要と詳細の参照先を説明します。

環境の構築と運用は、システム管理者の作業です。業務コンテンツの運用も、原則としてシステム管理者が実施しますが、業務コンテンツ作成に関しては必要に応じてシステム管理者以外のユーザに作業を割り当てることもできます。

## (1) 環境の構築

ナビゲーションプラットフォームをインストールして、セットアップします。インストールを始める前には、マシンのスペックなどの前提条件も確認しておく必要があります。また、セットアップの前には、ポート番号の確認も必要になります。

インストールとセットアップの手順の詳細は、「2.4 インストール手順」および「3.1 セットアップ」を参照してください。

## (2) 業務コンテンツの運用

ナビゲーションプラットフォームの画面のカスタマイズ、および業務コンテンツのバックアップは、必ずシステム管理者が実施します。画面のカスタマイズは任意ですが、業務コンテンツのバックアップは定期的実施することを推奨します。

なお、システム管理者以外のユーザが業務コンテンツを作成または編集する場合は、システム管理者はユーザに業務編集画面にアクセスするための URL を通知する必要があります。通知する URL については、「4.1 ナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。

また、業務コンテンツの運用に関する作業については、それぞれこのマニュアルの次の個所を参照してください。

画面のカスタマイズ

「6. ナビゲーションプラットフォームの画面のカスタマイズ」

業務コンテンツのバックアップ

「4.4.1 バックアップ手順」

業務コンテンツの作成、編集

「5. 業務コンテンツの作成」

## (3) 環境の運用

業務コンテンツの情報が格納されているデータベースの状態を適正に保ち、アクセス効率を低下させないために、システム管理者は定期的にデータベースを再編成する必要があります。

また、マシンの移行や障害対応のために、必要に応じて環境のバックアップを取得します。障害対応の場合は、さらにトラブルシュート情報も収集します。

環境の運用に関する作業については、それぞれこのマニュアルの次の個所を参照してください。

データベースの再編成

「4.5 データベースの運用」

環境のバックアップ

「4.4.1 バックアップ手順」

## 1. ナビゲーション プラットフォームの概要

トラブルシュート情報の収集

「4.6 トラブルが発生した場合の対処」

# 2

## ナビゲーション プラット フォームのインストール

この章では、ナビゲーション プラットフォームのインストール手順とアンインストール手順を説明します。また、ナビゲーション プラットフォームをインストールする前に知っておく必要がある、システム構成と前提条件についても説明します。

---

2.1 インストールの流れ

---

2.2 システム構成

---

2.3 前提条件

---

2.4 インストール手順

---

2.5 アンインストール手順

---

## 2.1 インストールの流れ

---

ナビゲーション プラットフォームのインストールの流れを次に示します。括弧内は、この章での参照先を示しています。

1. システム構成の確認 (2.2)
2. 前提条件の確認 (2.3)
3. ナビゲーション プラットフォームのインストール (2.4)

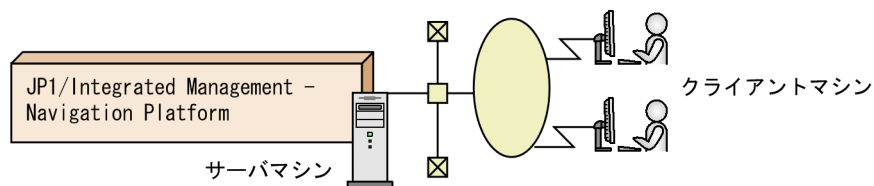


## 2.2 システム構成

ナビゲーション プラットフォームのシステムは、ナビゲーション プラットフォームをセットアップするサーバマシン、Web ブラウザ経由でナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするクライアントマシンで構成されます。

ナビゲーション プラットフォームのシステム構成を次に示します。

図 2-1 ナビゲーション プラットフォームのシステム構成



### サーバマシン

システム管理者は、サーバマシンにナビゲーション プラットフォームをインストールしてセットアップします。サーバマシンには、システムの設定や業務コンテンツのデータなどが保存されます。

### クライアントマシン

Web ブラウザでナビゲーション プラットフォームの画面を表示して、業務コンテンツを操作するためのマシンです。なお、業務実行画面から業務コンテンツを操作するユーザのことを、このマニュアルでは利用者と呼びます。

Web ブラウザはナビゲーション プラットフォームに同梱されていません。別途用意してください。サーバマシンおよびクライアントマシンの推奨スペック、使用できる Web ブラウザについては、「2.3 前提条件」を参照してください。

## 2.3 前提条件

---

ナビゲーション プラットフォームのシステムの前提条件について説明します。

### 2.3.1 推奨マシンスペック

ナビゲーション プラットフォームでの推奨マシンスペックを次に示します。

#### サーバマシンの推奨スペック

CPU：インテル Core2 Duo 3GHz 以上

メモリ：2GB 以上

ハードディスク：10GB 以上

#### クライアントマシンの推奨スペック

CPU：インテル Core2 Duo 3GHz 以上

メモリ：1GB 以上

ハードディスク：1GB 以上

なお、各マシンの画面の色は 24 ビット以上を推奨します。24 ビット未満の場合、画面の色にむらが出る場合があります。

### 2.3.2 Web ブラウザを操作するときの注意事項

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするクライアントマシンで使用できる Web ブラウザと OS の組み合わせを次に示します。なお、Web ブラウザには、必ず最新の更新プログラムを適用してください。

表 2-1 使用できる Web ブラウザと OS

Web ブラウザ名	OS
Internet Explorer 6	Windows XP
Internet Explorer 7	Windows XP
	Windows Vista
Internet Explorer 8	Windows XP
	Windows Vista
	Windows 7
Internet Explorer 9	Windows Vista
	Windows 7

次に、すべての Web ブラウザに共通の注意事項と、Web ブラウザのバージョンごとの注意事項を説明します。

## (1) 共通

すべての Web ブラウザに共通する、設定と操作に関する注意事項を示します。

### (a) 設定に関する注意事項

システムフォントのサイズは「標準」に設定してください。システムフォントのサイズを「標準」以外に設定している場合、予期しない個所で文字列が改行されるなど、正常に表示されないおそれがあります。

ナビゲーション プラットフォームを使用するときは、Web ブラウザの文字サイズを「中」以下に設定することを推奨します。文字サイズを「中」より大きくすると、Web ブラウザに表示される文字が欠けるおそれがあります。

Web ブラウザのインターネット一時ファイルの設定は「自動的に確認する」を推奨します。「自動的に確認する」以外に設定すると、画像が正常に表示されないおそれがあります。

Web ブラウザのセキュリティの設定で、アクティブスクリプトの設定は「有効にする」を設定してください。

Web ブラウザの [ 互換表示 ] ボタンは無効にしてください。有効にすると、画面の表示が崩れることがあります。

### (b) 操作に関する注意事項

ナビゲーション プラットフォームの操作では、Web ブラウザの [ 戻る ] ボタンを使用しないでください。最新の情報が表示されない場合があります。

業務実行中に < F5 > キーや Web ブラウザの [ 更新 ] ボタンを使用して画面を更新しないでください。有効期限切れのエラーが発生するなど、正常に動作しないおそれがあります。

Web ブラウザを操作中に次のメッセージが表示された場合、[ キャンセル ] ボタンをクリックして実行を続けてください。[ OK ] ボタンをクリックして中断した場合、正常に動作しないことがあります。

「このページのスクリプトが、Internet Explorer の実行速度を遅くしています。スクリプトを実行し続けると、コンピュータが反応しなくなる可能性があります。スクリプトを中断しますか？」

メッセージダイアログに表示されるメッセージが画面の下をはみ出して、[ OK ] ボタンをクリックできない状態になった場合、次のどちらかの操作でメッセージダイアログを閉じてください。

- メッセージダイアログの [ × ] ボタンをクリックする。
- メッセージダイアログにフォーカスが当たっていることを確認して、< Enter > キーまたは < Esc > キーを押す。

Web ブラウザを閉じる場合は、[ × ] ボタンではなく [ 閉じる ] ボタンを使用してください。ただし、Web ブラウザの印刷プレビューを表示したあとで [ 閉じる ] ボタン

## 2. ナビゲーション プラットフォームのインストール

をクリックすると、画面に何も表示されなくなり、Web ブラウザが閉じなくなることがあります。この場合は、[ × ] ボタンで Web ブラウザを閉じてください。

Web ブラウザの印刷プレビュー画面を [ × ] ボタンで閉じた場合は、印刷しようとした画面が閉じなくなることがあります。この場合は、印刷しようとした画面を [ × ] ボタンで閉じてください。

Internet Explorer 6 と Internet Explorer 7 以上の Web ブラウザでは、固定テキストパーツの改行の高さが異なるため、どちらかでレイアウトが崩れて見えるおそれがあります。両方の Web ブラウザを使用する場合は、固定テキストパーツで改行を使用しないなど、どちらでも問題なく表示できるよう配慮してください。

Internet Explorer 7 以下と Internet Explorer 8 以上を両方使用する場合、Internet Explorer 8 以上で作成した業務コンテンツを、Internet Explorer 7 以下で参照すると、リサイズによって縮小された画像が粗く見えます。プロセスノードで画像を使用する場合、プロセスノードの大きさに合わせて画像がリサイズされるので、Internet Explorer 7 以下の Web ブラウザで問題なく画像が見られるかどうかを確認してください。

同じ Web ブラウザから繰り返しナビゲーション プラットフォームを操作した場合、Windows から「仮想メモリ不足 システムの仮想メモリが少なくなってきました。Windows が正しく動作するために、仮想メモリ ページ ファイルのサイズを増やしてください。詳細はヘルプを参照してください。」という警告メッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、Web ブラウザを閉じて、再度起動してください。

### (2) Internet Explorer 6 を使用する場合

配置した順序とは関係なく、次のパーツは常にほかのパーツよりも前面に表示されません。

- インラインフレームパーツのドロップダウン
- HTML パーツのドロップダウン

業務編集画面では、インラインフレームパーツのドロップダウンおよび HTML パーツのドロップダウンを操作しないでください。操作すると、パーツの編集に失敗することがあります。

### (3) Internet Explorer 7 を使用する場合

ズーム機能を使用して画面の表示内容を拡大すると、スクロールバーに文字が重なる場合があります。

一部のスクリプトが動作しない場合があります。この場合は、必要に応じて、ナビゲーション プラットフォームの URL を信頼済みサイトに追加してください。ただし、この設定によってセキュリティレベルが下がりますので、ご注意ください。

#### (4) Internet Explorer 8 を使用する場合

ズーム機能を使用して画面の表示内容を拡大すると、スクロールバーに文字が重なる場合があります。

一部のスクリプトが動作しない場合があります。この場合は、必要に応じて、ナビゲーション プラットフォームの URL を信頼済みサイトに追加してください。ただし、この設定によってセキュリティレベルが下がりますので、ご注意ください。

インラインフレームパーツで指定した外部サイトが表示されない場合があります。表示されるかどうかは、指定した外部サイトの設定によって異なります。

#### (5) Internet Explorer 9 を使用する場合

ズーム機能を使用して画面の表示内容を拡大すると、スクロールバーに文字が重なる場合があります。

一部のスクリプトが動作しない場合があります。この場合は、必要に応じて、ナビゲーション プラットフォームの URL を信頼済みサイトに追加してください。ただし、この設定によってセキュリティレベルが下がりますので、ご注意ください。

インラインフレームパーツで指定した外部サイトが表示されない場合があります。表示されるかどうかは、指定した外部サイトの設定によって異なります。

#### (6) Windows Vista または Windows 7 で Web ブラウザを使用する場合

ナビゲーション プラットフォームは、Windows Vista または Windows 7 で拡張された文字 (JIS X0213) に含まれる、Unicode の補助文字には対応していません。

ナビゲーション プラットフォームが対応していない文字を次に示します。

- 基本多言語面 ( BMP ) 以外の文字
- Unicode のコードポイント U+10000 ~ U+10FFFF の文字
- UTF-16 エンコーディングのサロゲート・ペアで表される文字

## 2.4 インストール手順

---

この節では、ナビゲーション プラットフォームを新規にインストールする手順を説明します。インストールの操作は、必ず Windows の管理者権限があるユーザで実施してください。

インストールを始める前に

次のことを確認してください。

マシンの条件

IPv4 をサポートしている必要があります。その他のスペックについては、「2.3.1 推奨マシンスペック」のサーバマシンのスペックを参照してください。

ディスクの空き容量

ナビゲーション プラットフォームをインストールするディスクには、10GB 以上の空き容量が必要です。

ディスクの空き容量は、余裕を持って確保することを推奨します。必要最低限の空き容量しかない場合、運用を開始してすぐに容量が不足してしまうなどのトラブルが発生するおそれがあります。

Windows Firewall のサービスの状態

Windows Firewall のサービスが起動していることを確認します。Windows Firewall のサービスが停止していると、インストール処理が中断してしまいます。

インストール先のディレクトリ

インストール先のディレクトリには、次に示す条件があります。条件を満たさない場合、動作は保証されません。

- ディレクトリには、次の文字だけを使用し、40 文字以内になるようにしてください。
  - 半角英数字 (A ~ Z, a ~ z, 0 ~ 9)
  - 半角スペース
  - 半角の円マーク (¥)
  - 半角コロンの (:)
- パス区切り文字には「¥」を使用します。「¥¥」は使用できません。
- Windows Server 2008 R2 (x64) または Windows Server 2008 (x64) でデフォルトのディレクトリにインストールする場合は、上記のインストール先のディレクトリに使用できる文字に加えて、半角丸括弧も使用できます。
- ネットワークドライブまたはドライブの直下をインストール先に指定しないでください。
- ディレクトリ名の先頭または末尾には半角スペースを含めないでください。
- 半角スペースを含める場合、インストール先ディレクトリのパスの先頭から半角スペース直前までのパスと同じパスを持つファイルまたはディレクトリとは、共存できません。例えば、「C:¥Program」というディレクトリが存在

する場合、「C:\Program Files」をインストール先ディレクトリに指定することはできなくなります。

ここでは、日立総合インストーラを使用してナビゲーション プラットフォームをインストールする手順を説明します。

なお、ナビゲーション プラットフォームは、JP1/NETM/DM を使ったりリモートインストールにも対応しています。リモートインストールの詳細は、マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

### リモートインストール時の注意事項

Windows Server 2008 R2 ( x64 ) または Windows Server 2008 ( x64 ) の場合は、システムドライブ以外のドライブにインストールするとエラーとなります。また、ディレクトリを指定しないでインストールした場合もエラーとなるため、注意してください。

### 手順

1. CD-ROM を挿入し、HCD\_INST.EXE を実行します。
2. [ 続行 ] ボタンをクリックして、日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。
3. インストール先のディレクトリを指定します。  
特に必要がないかぎり、デフォルトで表示されるディレクトリをインストール先とすることを推奨します。別のディレクトリにインストールしたい場合は、[ 参照 ] ボタンをクリックしてディレクトリを選択してください。  
なお、サーバマシンを移行する場合は、移行元と移行先（旧マシンと新マシン）とで同じディレクトリを指定する必要があります。
4. ユーザ名と会社名を入力します。
5. プログラムフォルダの名称を入力します。  
ここで入力した内容が、スタートメニューに表示されます。
6. 設定内容を確認し、インストールを開始します。  
ナビゲーション プラットフォームに必要なソフトウェアが順番にインストールされます。
7. インストール完了の画面を確認し、画面を閉じます。
8. サーバマシンを再起動します。

### 注意事項

インストールをキャンセルしたり、処理中にエラーが発生したりした場合、ナビゲーション プラットフォームが不完全な状態でインストールされてしまうことがあります。その場合は、インストールを最初からやり直すか、いったんアンインストール手順を実施してから再度インストールを実施してください。

## 2. ナビゲーション プラットフォームのインストール

### 参考

---

- ナビゲーション プラットフォームをインストールすると、スタートメニューに「Smart Document Management」,「HiRDB XML Extension Version 8\_EP0」および「DABroker」が自動的に登録されますが、これらのメニューを使用する必要はありません。
  - セットアップ後に再インストールをする場合は、npstop コマンド（停止）でいったんシステムを停止しておく必要があります。システムが起動した状態でインストールを実施すると、エラーが発生して処理が中断します。その場合は、npstop コマンドでシステムを停止してからインストール手順をやり直してください。
  - セットアップが完了していない状態でインストールをやり直す場合は、手順 1. の前に「HiRDB/EmbeddedEdition\_EP0」のサービスを停止してください。その後、インストーラが起動したら、[ 修正 ] モードを選択して操作を続けてください。
  - セットアップが完了している状態でインストールをやり直す場合は、手順 1. の前に npstop コマンド（停止）でシステムを停止してから、手順 1. 以降を実施します。インストーラが起動したら、[ 修正 ] モードを選択して操作を続けてください。
-



## 2.5 アンインストール手順

ナビゲーション プラットフォームは、コントロールパネルの「プログラムと機能」を使用してアンインストールするか、日立総合インストーラを使用してアンインストールします。この節では、それぞれのアンインストール手順を説明します。

### 注意事項

- セットアップ時に作成した作業ファイル、システム運用中に生成されたログファイルなどは、アンインストール後も残ります。必要に応じて手動で削除してください。
- アンインストール処理中にほかのユーザがファイルやディレクトリにアクセスしていると、それらのファイルやディレクトリを削除できません。この場合、OS を再起動する必要があるというメッセージが表示されることがあります。

### 2.5.1 Windows の機能でアンインストールする場合

コントロールパネルの「プログラムと機能」を使用してアンインストールする手順を示します。

#### 手順

1. セットアップが完了している場合は、npstop コマンド（停止）でシステムを停止します。

#### コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop

システムが起動した状態でアンインストールを実施すると、エラーが発生して処理が中断します。コマンドの使用方法については、「8.9 npstop コマンド（停止）」を参照してください。

2. セットアップが完了していない場合は、「HiRDB/EmbeddedEdition\_EP0」のサービスを停止します。
3. Windows のコントロールパネルから、「プログラムと機能」を選択します。
4. 「JP1/Integrated Management - Navigation Platform」を選択して、削除します。  
次に示すプログラムは選択しないでください。

#### 選択してはいけないプログラム

DocumentBroker Version 3 Smart Document Management  
 DocumentBroker Text Search Index Loader Version 3  
 HiRDB XML Extension Version 8\_EP0  
 DABroker for C++  
 DABroker  
 TPBroker

#### 注意事項

プログラムによっては、削除（アンインストール）してよいかどうかを確認するダイ

## 2. ナビゲーション プラットフォームのインストール

アログが表示されるので、[ はい ] を選択してください。間違っ  
て [ いいえ ] を選択してしまった場合は、手順 4. をやり直す必要  
があります。

### 2.5.2 日立総合インストーラでアンインストールする場合

日立総合インストーラを使用してナビゲーション プラットフォームをアンインストールする手順を次に示します。

#### 手順

1. セットアップが完了している場合は、npstop コマンド（停止）でシステムを停止します。

#### コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop

システムが起動した状態でアンインストールを実施すると、エラーが発生して処理が中断します。コマンドの使用方法については、「8.9 npstop コマンド（停止）」を参照してください。

2. セットアップが完了していない場合は、「HiRDB/EmbeddedEdition\_EP0」のサービスを停止します。
3. CD-ROM を挿入し、HCD\_INST.EXE を実行します。
4. [ 続行 ] ボタンをクリックして、日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。
5. [ 削除 ] モードのラジオボタンを選択して、アンインストールを開始します。  
プログラムによっては、削除（アンインストール）してよいかどうかを確認するダイアログが表示されるので、[ はい ] を選択してください。  
間違っ  
て [ いいえ ] を選択してしまった場合は、手順 1. からやり直す必要  
があります。
6. アンインストール完了の画面を確認し、画面を閉じます。

# 3

## ナビゲーション プラット フォームのセットアップ

この章では、ナビゲーション プラットフォームのセットアップとアンセットアップについて説明します。

---

3.1 セットアップ

---

3.2 アンセットアップ

---

## 3.1 セットアップ

---

この節では、セットアップ前に知っておく必要のある注意点とセットアップ手順を説明します。

### 3.1.1 セットアップ前の注意点

セットアップを始める前に、次のことを確認してください。

#### (1) ポート番号

デフォルト値でセットアップをする場合、ナビゲーション プラットフォームは、24700 ~ 24704、および 24709 のポート番号を使用します。これらのポート番号が、ほかのアプリケーションによって使用されていないかどうかを確認してください。

ほかのアプリケーションが該当のポート番号を使用中の場合は、そのアプリケーションのポート番号の設定を変更するか、セットアップ時にナビゲーション プラットフォームのポート番号をデフォルトから変更する必要があります。

ポート番号の指定については、「7.3.4 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細」を参照してください。

#### (2) 空き容量

セットアップには、インストール時と同等のディスク空き容量が必要になります。再セットアップの場合も「2.4 インストール手順」のディスクの空き容量を参照して、十分な空き容量が残っていることを確認してください。

#### (3) コマンドプロンプトの表示とログオフ時の注意

セットアップ後、システムは自動的に起動して「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥PRF¥bin¥cprfd.exe」というコマンドプロンプトが表示されます。このコマンドプロンプトは閉じないでください。閉じてしまった場合は、システムを再起動する必要があります。また、システムの起動操作を実行したユーザがサーバマシンからログオフすると、ナビゲーション プラットフォームを使用できなくなるため、注意が必要です。

これらの問題は、一度 npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止したあと、Windows のタスクスケジューラ機能を使用して npstart コマンドを実行することで回避できます。詳細は、「4.2.1 起動手順」を参照してください。

### 3.1.2 セットアップ手順

ここでは、セットアップの手順を説明します。

手順

1. ナビゲーション プラットフォームが使用するポート番号を変更する場合は、ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) のサンプルファイルを次に示すディレクトリにコピーします。

コピー元ファイル (サンプルファイル)

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥sample¥conf¥ucnp\_setup\_user.properties

コピー先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

2. コピーしたユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) を編集します。

プロパティ値の詳細は、「7.3.4 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細」を参照してください。

3. npsetup コマンド (セットアップ) でセットアップを実行します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsetup

エラーが発生した場合は、表示されたメッセージに従った対処を実施したあとに、いったんアンセットアップしてから再度セットアップを実行する必要があります。メッセージについては「10. メッセージ」を、アンセットアップについては「3.2 アンセットアップ」を参照してください。

4. Web ブラウザからナビゲーション プラットフォームの画面が表示できることを確認します。

画面を表示するための URL については、「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。正しい URL を入力すると、「図 1-2 業務実行画面」または「図 1-3 業務編集画面」で示すような画面が表示されます。

5. エラーメッセージが表示された場合は、次の対処を実施してください。

KDCZ50857-E の場合

メッセージの内容に従い、問題を解決します。その上で、いったんアンセットアップ手順を実施してから、再度セットアップ手順を実施します。問題を解決できない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

KDCZ50857-E 以外の場合

メッセージの内容に従い、問題を解決してから、再度セットアップ手順を実施します。

## 3.2 アンセットアップ

---

この節では、アンセットアップ手順を説明します。

### ! 注意事項

アンセットアップを実施すると、業務コンテンツのデータはすべて削除されます。また、アンセットアップ後に再度セットアップを実施すると、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) が上書きされて、デフォルト値に戻ります。

アンセットアップ後に再度セットアップを実施してナビゲーション プラットフォームを引き続き利用する場合は、npdatabackup コマンド (環境退避) で既存の環境のバックアップを取得しておいてください。コマンドの使用方法については、「8.2 npdatabackup コマンド (環境退避)」を参照してください。

---

### 手順

1. npstop コマンド (停止) でシステムを停止します。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*¥bin¥npstop

2. バックアップを取得します。

npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) では、システム的环境設定に関するデータはバックアップできません。必ず npdatabackup コマンド (環境退避) を使用してください。手順の詳細は、「4.4.1 バックアップ手順」を参照してください。

3. npunsetup コマンド (アンセットアップ) でアンセットアップを実行します。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*¥bin¥unsetup

アンセットアップを実行してもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

4. KDCZ50847-Q のメッセージが表示されたら、半角で「Y」と入力して、< Enter > キーを押します。
5. エラーメッセージが表示された場合は、次の対処を実施してください。

KDCZ50858-E の場合

OS を再起動してからナビゲーション プラットフォームをアンインストールし、ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリを削除します。アンインストール手順については、「2.5 アンインストール手順」を参照してください。

KDCZ50858-E 以外の場合

メッセージの内容に従い、問題を解決してから、再度アンセットアップ手順を実施します。

# 4

## ナビゲーションプラットフォームの運用

この章では、ナビゲーションプラットフォームの日常的な運用やシステムの変更に必要な作業について説明します。

---

4.1 ナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするための URL

---

4.2 システムの起動と停止

---

4.3 セットアップ後にホスト名を変更した場合の設定変更

---

4.4 バックアップとリストア

---

4.5 データベースの運用

---

4.6 トラブルが発生した場合の対処

---

## 4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面 にアクセスするための URL

---

この節では、業務コンテンツを操作するために、Web ブラウザからナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするときに必要な URL について説明します。

なお、URL に含まれるホスト名とポート番号は、ナビゲーション プラットフォームをセットアップした Web サーバの設定値です。ポート番号については、ユーザセットアッププロパティファイルの `ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port` プロパティの設定値を確認してください。

### (1) 業務実行画面にアクセスするための URL

業務コンテンツを利用するだけのユーザ（業務編集画面を使用しないユーザ）には、次の URL を通知します。この URL でナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスした場合、[ 編集開始 ] メニューが表示されないため、利用者は業務コンテンツを変更できません。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser
```

### (2) 業務編集画面にアクセスするための URL

業務コンテンツを利用および編集するユーザ（業務編集画面を使用するユーザ）には、次の URL を通知します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/  
PLoginUser?start_editor=true&open_editor=true
```

この URL でナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスした場合、業務編集画面が直接開きます。[ 編集開始 ] メニューが表示された状態の業務実行画面を開きたい場合は、次の URL を使用してください。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/  
PLoginUser?start_editor=true
```

### (3) 特定の業務コンテンツに直接アクセスするための URL

特定の業務コンテンツを利用することが多い場合、または特定の業務コンテンツを必ず最初に使用する場合などは、該当する業務コンテンツを直接表示する URL を通知すると、ユーザの作業効率が高まります。

特定の業務コンテンツを直接表示して、その業務コンテンツを利用するだけのユーザ（業務実行画面だけを使用するユーザ）には、次の URL を通知します。



```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/  
PLoginUser?contentId=業務コンテンツのID
```

また、特定の業務コンテンツを直接表示して、その特定の業務コンテンツを利用および編集するユーザ（業務編集画面を使用するユーザ）には、次の URL を通知します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/  
PLoginUser?start_editor=true&contentId=業務コンテンツのID
```

業務コンテンツのコンテンツ ID を取得するには、ID を取得したい業務コンテンツを表示した状態で、業務編集画面のメニュー領域にある [ ID 取得 ] メニューをクリックしてください。[ ID 取得 ] メニューをクリックすると、コンテンツ ID がクリップボードにコピーされます。

## 4.2 システムの起動と停止

この節では、ナビゲーション プラットフォームのシステムの起動方法および停止方法について説明します。

なお、システムの起動と停止の操作は、必ず Windows の管理者権限があるユーザで実施してください。また、起動と停止に使用する各コマンドの使用方法については、「8. コマンド」を参照してください。

### 4.2.1 起動手順

通常、セットアップ完了後にナビゲーション プラットフォームは自動的に起動します。npstop コマンド（停止）で停止させたシステムを再起動する場合などは、次に示す手順に従い、手動で起動してください。

#### ！ 注意事項

システム起動時は、次の点に注意してください。

- npstart コマンドでシステム（ナビゲーション プラットフォーム）を起動した場合、起動操作を実行したユーザがサーバマシンからログオフすると、ナビゲーション プラットフォームを使用できなくなります。  
ログオフ後もナビゲーション プラットフォームを使用するためには、Windows のタスクスケジューラ機能を利用して、npstart コマンドを実行するタスクを作成し、そのタスクを実行することでナビゲーション プラットフォームを起動する必要があります。タスクを作成するときに、「ユーザがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」という設定を有効にしてください。
- システム起動後に表示される「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %PP%\uCPSB%\PRF%\bin%\cprfd.exe」というコマンドプロンプトは閉じないでください。閉じてしまった場合は、システムを再起動する必要があります。  
システム起動後にコマンドプロンプトを表示させたくない場合は、Windows のタスクスケジューラ機能を利用して、npstart コマンドを実行するタスクを作成し、そのタスクを実行することでナビゲーション プラットフォームを起動してください。

#### 手順

1. npstart コマンド（起動）でシステムを起動します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %bin%\npstart

2. エラーメッセージが表示された場合は、次の対処を実施してください。

KDCZ50859-E の場合

失敗した原因を取り除いた上で、npstop コマンドでシステムを停止します。その後、再度 npstart コマンドを実行してください。

KDCZ50859-E 以外の場合

メッセージの内容に従って問題を解決してから、再度 `npstart` コマンドを実行してください。

コマンドの使用方法については、「8.8 `npstart` コマンド (起動)」を参照してください。

## 4.2.2 停止手順

コマンドを実行したり、サーバマシンをシャットダウンしたりする場合は、あらかじめシステムを停止させてください。ナビゲーション プラットフォームの停止手順を次に示します。

手順

1. `npstop` コマンド (停止) でシステムを停止します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥bin¥npstop`

2. エラーメッセージが表示された場合は、次の対処を実施してください。

KDCZ50860-E の場合

メッセージの内容に従って問題を解決してから、再度 `npstop` コマンドを実行してください。

ただし、ナビゲーション プラットフォームを至急停止する必要があるときは、`npstop` コマンドの `-f` オプションを指定すると、強制的にナビゲーション プラットフォームを停止できます。

KDCZ50860-E 以外の場合

メッセージの内容に従って問題を解決してから、再度 `npstop` コマンドを実行してください。

コマンドの使用方法については、「8.9 `npstop` コマンド (停止)」を参照してください。

注意事項

システムを停止しないでサーバマシンをシャットダウンしてしまった場合は、システムが正常に停止していないおそれがあります。そのため、次にサーバマシンを起動してコマンドを実行する前に、次の操作を実行してください。

- システムを停止してから実行する必要があるコマンドを実行する前に、`npstop` コマンドを実行する。
- システムを起動した状態で実行する必要があるコマンドを実行する前に、`npstart` コマンドを実行する。

## 4.3 セットアップ後にホスト名を変更した場合の設定変更

---

ここでは、セットアップ後にサーバマシンのホスト名を変更した場合に必要な、設定変更の手順を説明します。

手順

1. npstop コマンド（停止）でシステムを停止します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npstop

2. Web サーバの設定ファイルの「ServerName」の値を、変更後のホスト名に変更します。

設定ファイルの格納場所

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥PP¥uCPSB¥httpsd¥conf¥httpsd.conf

3. 「4.2.1 起動手順」に従い、システムを起動します。

## 4.4 バックアップとリストア

---

この節では、バックアップを取得するデータと、データをリストアするタイミングについて説明します。

サーバマシンを移行したり、障害が発生してデータが破損した場合は、取得したバックアップデータをリストアし、データを復旧します。

### 4.4.1 バックアップ手順

次に示すデータのバックアップを取得します。

1. システムの設定に関するデータ（プロパティファイルなど）
2. 業務コンテンツのデータ
3. 業務コンテンツまたはメニュー領域のカスタマイズなどに使用されている静的ファイル

npdatabackup コマンド（環境退避）を実行すると、1. ~ 3. のデータをまとめて取得できます。npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）を実行すると、2. のデータだけを取得できます。ここでは両方の手順を説明します。コマンドの使用方法については、「8.2 npdatabackup コマンド（環境退避）」および「8.4 npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）」を参照してください。

バックアップは、月に 1 回を目安に定期的に取得することを推奨します。運用に合わせて、バックアップを取得するタイミングを検討してください。

#### ポイント

---

npdatabackup コマンドと npexport コマンドのどちらを使用するかは、リストア時の運用も考慮して決定することをお勧めします。

npdatabackup コマンドでバックアップしたデータは、npdatarestore コマンド（環境復元）でリストアします。npdatarestore コマンドおよび npdatarestore コマンドを実行するには、システムをいったん停止する必要があるため、実行のタイミングを慎重に計画しなければなりません。

一方、npexport コマンドでバックアップした業務コンテンツのデータは、npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）でリストアします。npexport コマンドおよび npimport コマンドはシステムを起動したまま実行できるため、npdatarestore コマンドと比べて手軽に使用できます。

なお、npdatabackup コマンドでまとめてバックアップデータを取得しておき、リストア時に npimport コマンドで業務コンテンツだけを復元するという方法もあります。

---

まず、npdatabackup コマンドでバックアップを取得する手順を次に示します。

#### 手順

1. npstop コマンド（停止）でシステムを停止します。

#### 4. ナビゲーション プラットフォームの運用

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npstop

2. バックアップ先のディスクに 30MB 以上の空き容量を確保します。

必要な空き容量は、業務コンテンツの数および内容によって異なります。業務コンテンツで静的ファイルを使用している場合は、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs 以下の容量分も加えて、空き容量を確保する必要があります。

バックアップ先のディスクの空き容量が不足していたり、コマンド実行時に必要な一時ディレクトリのための空き容量が不足していた場合は、コマンドが異常終了します。コマンド実行前に十分な空き容量を確保してください。

3. npdatabackup コマンドを実行します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥bin¥npdatabackup

4. npstart コマンド（起動）でシステムを起動します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npstart

npexport コマンドで業務コンテンツだけをバックアップする手順を次に示します。

手順

1. npexport コマンドで業務コンテンツのデータをエクスポートします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npexport  
すべての業務コンテンツ、またはオプションで指定した業務コンテンツのデータが、ZIP 形式のファイルに出力されます。

2. 業務コンテンツで画像や PDF などの静的ファイルを使用している場合、それらのファイルを手動でコピーします。

静的ファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs

### 4.4.2 リストア手順

システム障害の発生や、ハードウェアの故障などでデータが破損した場合は、「4.4.1 バックアップ手順」で取得したデータを、npdatarestore コマンド（環境復元）を使ってリストアします。

なお、システム障害などではなく、単に削除してしまった業務コンテンツを復元したい場合には、npdatarestore コマンドではなく、npimport コマンド（業務コンテンツのイ

ンポート)を使用した方が簡単にリストアできます。ここでは両方の手順を説明します。コマンドの使用方法については、「8.3 npdatarestore コマンド (環境復元)」および「8.5 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)」を参照してください。

まず、業務コンテンツを含む、システム全体をリストアする手順を次に示します。

#### 手順

1. npstop コマンド (停止) でシステムを停止します。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*¥bin¥npstop

2. 必要に応じて npdatabackup コマンド (環境退避) で業務コンテンツのデータ、静的ファイル、およびシステム設定をバックアップします。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*

¥bin¥npdatabackup

この手順は任意ですが、リストア時にはすべてのデータがいったん削除されるため、先にバックアップを取得することをお勧めします。

3. npdatarestore コマンド (環境復元) でナビゲーション プラットフォームのデータをリストアします。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*

¥bin¥npdatarestore

#### 注意事項

npdatarestore コマンドの処理が終了すると、システムは自動的に起動します。システム起動後に表示される「*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*¥PP¥uCPSB¥PRF¥bin¥cprfd.exe」というコマンドプロンプトは閉じないでください。閉じてしまった場合は、システムを再起動する必要があります。また、システムの起動操作を実行したユーザがサーバマシンからログオフすると、ナビゲーション プラットフォームを使用できなくなるため、注意が必要です。

これらの問題は、一度 npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止したあと、Windows のタスクスケジューラ機能を使用して npstart コマンドを実行することで回避できます。詳細は、「4.2.1 起動手順」を参照してください。

4. Web ブラウザからナビゲーション プラットフォームにアクセスして、バックアップ時と同じ環境が復元されていることを確認します。  
ナビゲーション プラットフォームにアクセスするための URL については、「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。

#### 4. ナビゲーション プラットフォームの運用

- Windows のタスクスケジューラ機能でシステムを起動したい場合は、npstop コマンドでいったんシステムを停止してから、npstart コマンドでシステムを再起動します。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ* \bin\npstart

業務コンテンツだけをリストアする手順を次に示します。

手順

- npimport コマンドで最新の業務コンテンツをインポートします。

コマンドのパス

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ* \bin\npimport

- 業務コンテンツで画像や PDF などの静的ファイルを使用している場合、それらのファイルを手動でコピーします。

静的ファイルの格納先

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*

\PP\CPSB\httpsd\htdocs



## 4.5 データベースの運用

業務コンテンツの追加や削除を繰り返すと、データベースへのアクセス効率や格納効率が低下することがあります。この問題は、定期的に `npreorg` コマンド（データベース再編成）を実行することで軽減できます。

`npreorg` コマンドは、月に 1 回を目安に実施することを推奨します。また、1 か月以内であっても、業務コンテンツを頻繁に追加、更新、または削除した場合は、`npreorg` コマンドを実施するとアクセス効率や格納効率の改善が期待できます。コマンドの使用方法については、「8.6 `npreorg` コマンド（データベース再編成）」を参照してください。

データベースを再編成する手順を次に示します。

### 手順

1. `npstop` コマンド（停止）でシステムを停止します。  
ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ  $\$$ bin $\$$ `npstop`
2. ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリに 1,200MB 以上の空き容量があることを確認します。  
空き容量が不足していると、コマンドが異常終了します。必ず事前に空き容量を確認して、空き容量が不足している場合は、データを整理して容量を増やすなどの対処をしてください。
3. `npreorg` コマンドでデータベースを再編成します。  
ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ  $\$$ bin $\$$ `npreorg`
4. `npstart` コマンド（起動）でシステムを起動します。  
ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ  $\$$ bin $\$$ `npstart`

### ！ 注意事項

`npreorg` コマンドが異常終了した場合は、ほかの操作をする前に再度 `npreorg` コマンドを実行してください。ほかの操作をしてしまうと、データベースの状態が不正になるおそれがあります。詳細を次に示します。

- KDCZ70004-I メッセージが表示されている間は、`npreorg` コマンドを強制的に終了しないでください。
- `npreorg` コマンド終了時に KDCZ78001-E、KDCZ78002-E、または、KDCZ78003-E のメッセージが表示された場合は、ほかの操作をする前に再度 `npreorg` コマンドを実行してください。

#### 4. ナビゲーション プラットフォームの運用

##### ポイント

---

データベース運用の際に、考慮するとよい点を次に示します。

- データベースの再編成は、定期的を実施することが大切です。Windows のタスクスケジューラ機能を利用するなどして、再編成に必要なコマンドがまとめて自動実行されるようにしておくとう便利です。
  - データベースの再編成には時間が掛かることがあります。業務コンテンツの利用率が低い時間帯にシステムを停止するようにして、業務コンテンツの利用者にはシステムが停止することを事前に通知しておきましょう。
-

## 4.6 トラブルが発生した場合の対処

---

ナビゲーション プラットフォームの運用中にトラブルが発生した場合は、次の情報を参照してください。

- 標準出力、標準エラー出力、トレースファイルに出力されたメッセージ
- トレースファイル
- npsnapshotlog コマンド (トラブルシュート情報の収集) で取得する情報

npsnapshotlog コマンドで取得する情報は、1 次資料と 2 次資料に分類できます。

### 1 次資料

トラブルの概要を把握するためのログと、システムの主要な設定ファイルが含まれます。簡単なトラブルであれば、1 次資料だけで対処できます。

### 2 次資料

レジストリ情報や、1 次資料では取得されないシステムの詳細な設定ファイルが含まれます。1 次資料だけでは解決できない、難易度の高いトラブルの場合は、2 次資料も活用します。

メッセージおよびトレースファイルの出力先については、「10.1 メッセージの出力先と形式」を参照してください。メッセージの要因や対処については、「10. メッセージ」を参照してください。

また、npsnapshotlog コマンドの使用方法については、「8.11 npsnapshotlog コマンド (トラブルシュート情報の収集)」を参照してください。



# 5

## 業務コンテンツの作成

この章では、業務編集画面を操作して業務コンテンツを作成する方法について説明します。

---

5.1 業務コンテンツの作成の概要

---

5.2 業務フローの追加

---

5.3 業務フローの作成

---

5.4 ガイドの作成

---

5.5 業務コンテンツの変更，複製，削除

---

## 5.1 業務コンテンツの作成の概要

---

この節では、業務コンテンツを作成する流れ、および業務コンテンツを作成する前に知っておく必要があることについて説明します。

なお、作成できる業務コンテンツの上限値は 500 個です。

### 5.1.1 業務コンテンツの作成の流れ

業務コンテンツ作成の前に、完成した業務コンテンツのイメージをつかむため、サンプルの業務コンテンツを確認することをお勧めします。サンプルの業務コンテンツとは、あらかじめインストールされている作成済みの業務コンテンツのことです。もしサンプルの業務コンテンツのうち、これから作成する業務コンテンツに似ているものがあれば、複製して流用することもできます。

また、サンプルの業務コンテンツには、解説付きと解説なしのものがあります。解説付きの業務コンテンツは、[sampleXX 解説] という言葉で始まる名称になっています。解説付きでは、業務コンテンツ作成のための TIPS や、業務コンテンツを複製して流用するときに変更が必要な箇所などが盛り込まれています。業務コンテンツの作成時に参考にしてください。解説なしの業務コンテンツは、業務コンテンツを流用する際に使うと、TIPS や変更部分へのガイドなどを削除する手間が省けます。

続いて、業務コンテンツを作成する流れを、新規作成する場合とサンプルを流用する場合に分けて説明します。また、業務コンテンツを作成する際に主に使用する業務編集画面の詳細についても説明します。

#### (1) 業務コンテンツを新規作成する場合の流れ

##### 1. 業務コンテンツのフォーマットの作成

コンテンツ編集者は、あらかじめ業務コンテンツのフォーマットを作成しておくとう便利です。ここでいうフォーマットとは、注意事項に使用するアイコンや背景、作業手順の書き方などの業務コンテンツの見栄えのルールのことです。コンテンツ利用者は、一度フォーマットについて理解すれば、そのほかの業務コンテンツも同じ要領で操作できるので、内容が理解しやすくなります。コンテンツ編集者も、業務コンテンツごとに見栄えを工夫する手間が省けます。

##### 2. 業務編集画面の表示

ナビゲーション プラットフォームにアクセスして、業務編集画面を表示します。アクセスする URL については、「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。

##### 3. 業務フローの追加

業務編集画面で、業務フローを新規に追加します。  
「5.2 業務フローの追加」を参照してください。

##### 4. 業務フローの作成

業務編集画面で、業務の流れをフローチャート化します。

「5.3 業務フローの作成」を参照してください。

5. ガイドの作成

業務編集画面で、業務で実施する個々の作業の説明（ガイド）を作成します。

「5.4 ガイドの作成」を参照してください。

6. 業務実行画面への切り替え

業務編集画面から業務実行画面へ切り替えます。

7. 業務コンテンツのテスト

業務実行画面で、業務コンテンツが正しく作成できているか、意図したとおりの操作ができるか、などのテストを実施します。

(2) サンプルの業務コンテンツを流用する場合の流れ

1. サンプルの業務コンテンツの複製

サンプルの業務コンテンツを複製します。「5.5.2 業務コンテンツの複製」を参照してください。

2. 業務編集画面の表示

ナビゲーション プラットフォームにアクセスして、業務編集画面を表示します。

「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。

3. サンプルの業務コンテンツの変更

サンプルの業務コンテンツを実際の業務に合わせて変更します。

「5.5.1 業務コンテンツの変更」を参照してください。

4. 業務コンテンツのテスト

業務実行画面で、業務コンテンツが正しく作成できているか、意図したとおりの操作ができるか、などのテストを実施します。

(3) 業務編集画面の詳細

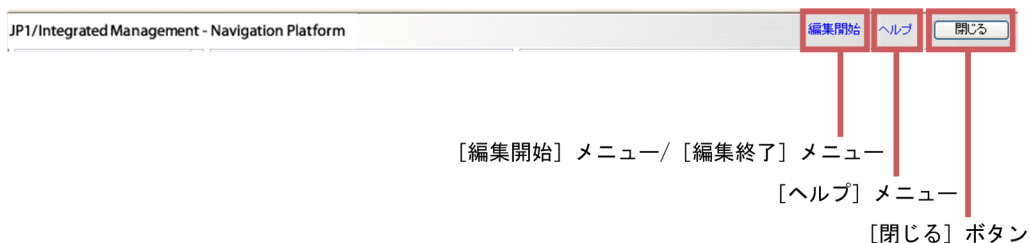
業務コンテンツの作成には業務編集画面を使用します。業務編集画面は、ヘッダ領域、メニュー領域、ツールバーと三つの領域に分けられます。それぞれの詳細について次に説明します。

(a) ヘッダ領域

ヘッダ領域を次の図に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-1 ヘッダ領域



各項目の詳細を説明します。

### [編集開始]メニュー

選択すると、業務編集画面に切り替わります。

### [編集終了]メニュー

選択すると、業務実行画面に切り替わります。

### [ヘルプ]メニュー

選択すると、ヘルプが表示されます。システム管理者が HTML マニュアルを登録していない場合は、このメニューは表示されません。

### [閉じる]ボタン

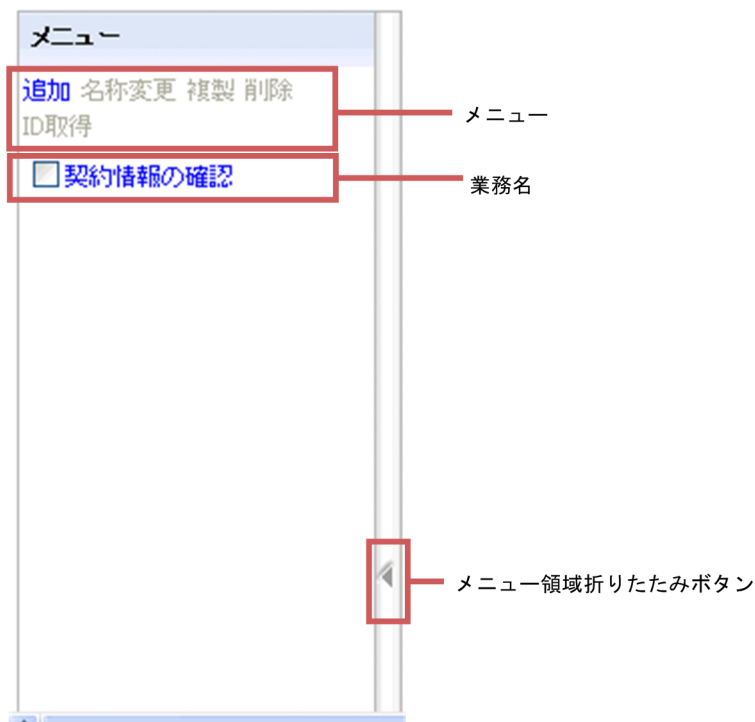
クリックすると、業務編集画面を閉じます。

## (b) メニュー領域

メニュー領域を次の図に示します。



図 5-2 メニュー領域



各項目について説明します。

#### [ 追加 ] メニュー

選択すると、メニュー領域に新しい業務コンテンツが追加されます。また、業務フロー領域およびガイド領域の内容が、追加された業務コンテンツの内容に切り替わります。

#### [ 名称変更 ] メニュー

選択すると、名称を入力するためのダイアログが表示されて、チェックボックスをチェックした業務コンテンツの名称を変更できます。

#### [ 複製 ] メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックした業務コンテンツが複製されます。複製された業務コンテンツの名称は「業務名のコピー」となります。例えば、「旅費申請」という名称の業務コンテンツを複製した場合、名称は「旅費申請のコピー」となります。

#### [ 削除 ] メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックした業務コンテンツが削除されます。

#### [ ID 取得 ] メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックした業務コンテンツ ID がクリップボード

## 5. 業務コンテンツの作成

にコピーされます。

### 業務名

業務コンテンツの名称が表示されます。

業務名をクリックすると、該当する業務コンテンツが業務フロー領域に表示されます。

チェックボックスをチェックすると、チェックした業務コンテンツの名称変更、複製、削除、および ID 取得を実行できます。ただし、名称変更、または ID 取得を実行する場合は、チェックボックスを一つだけチェックしてください。チェックボックスを複数チェックしてから名称変更、または ID 取得を実行すると、チェックボックスをチェックした業務コンテンツのいちばん上のものだけが対象になります。なお、新規作成した業務名（[追加]メニューで実行）は、すべて「新規フロー」となります。作成後に任意の業務名へ変更してください。

### 業務コンテンツの表示順序についての注意事項

同名の業務コンテンツが複数ある場合、エクスポートした業務コンテンツをインポートしたときなどに、表示される順序が入れ替わることがあります。

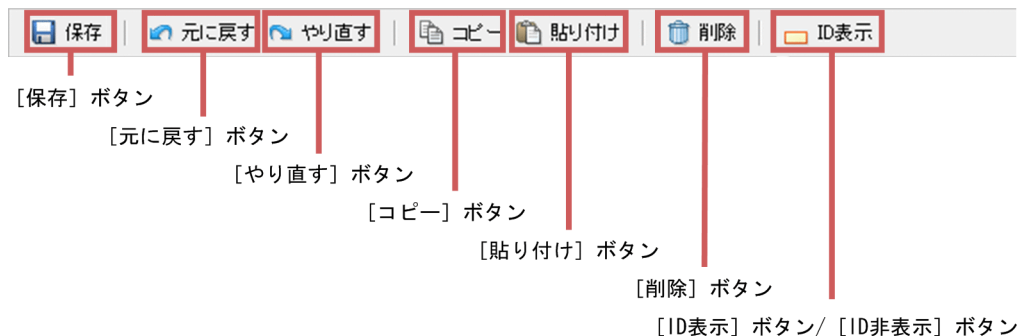
### メニュー領域折りたたみボタン

クリックすると、メニュー領域の表示 / 非表示が切り替わります。

## (c) ツールバー

ツールバーを次の図に示します。

図 5-3 ツールバー



各項目について説明します。

### [保存] ボタン

クリックすると、編集中の業務コンテンツが保存されます。

### [元に戻す] ボタン

クリックすると、直前に実行した操作が元に戻ります。

### [やり直す] ボタン

クリックすると、直前に実行した操作がやり直されます。

## [ コピー ] ボタン

クリックすると、選択したノード、関連線、およびガイドパーツがコピーされます。関連線だけを選択して、コピーする操作および貼り付ける操作はできません。

## [ 貼り付け ] ボタン

クリックすると、[ コピー ] ボタンでコピーしたノード、関連線、およびガイドパーツが貼り付けられます。関連線だけを選択して、コピーする操作および貼り付ける操作はできません。

## [ 削除 ] ボタン

クリックすると、選択したノード、関連線、およびガイドパーツが削除されます。

## [ ID 表示 ] ボタン

クリックすると、配置したノードの左上にノード ID が表示されます。

## [ ID 非表示 ] ボタン

クリックすると、ノード ID が非表示となります。

## 5.1.2 サンプルの業務コンテンツ

ここでは、サンプルの業務コンテンツについて次の内容を説明します。

サンプルの業務コンテンツの概要

サンプルの業務コンテンツのインポート手順

サンプルの業務コンテンツの注意事項

---

### 参考

サンプルの業務コンテンツの見映えは、次の環境を想定して最適化しています。

- ディスプレイのサイズ：17 インチ以上
  - 解像度：1,280 × 1,024 ピクセル
- 

### (1) サンプルの業務コンテンツの概要

サンプルの業務コンテンツの概要を次の表に示します。

表 5-1 サンプルの業務コンテンツの概要

項番	名称	概要
1	仮想マシンリソース不足時対処	仮想マシンのリソース不足を調整する手順です。JP1/IM が、障害の予兆として仮想マシンのリソース不足を検知した場合に実施します。
2	停電時サーバ起動	停電によって停止したサーバを起動する手順です。

## 5. 業務コンテンツの作成

項番	名称	概要
3	障害発生時初動対応	システムの停止を JP1/IM で検知した時、現状の把握と担当者への情報の引き継ぎを行う場合に実施する手順です。JP1/IM が障害によるシステムの停止を検知した場合に実施します。
4	JP1/IM 自動アクション遅延解消	JP1/IM の自動アクションで実行されるコマンドの遅延について対処し、その対処の結果を管理者へ報告する手順です。JP1/IM がコマンドの遅延を示すエラーを検知した場合に実施します。
5	手動セキュリティパッチ適用	セキュリティパッチの自動更新を設定していないサーバに対し、セキュリティパッチをサーバに手動で適用する場合の手順です。
6	データベース再編成時期判定	データベースの再編成が必要かどうかの判断に使う情報の取得、および判断に応じた対処を実施する手順です。ログファイルにデータベースのページ利用効率の悪化を知らせるメッセージが出力された場合に実施します。
7	Web アプリバージョンアップ	Web アプリケーションのシステムをバージョンアップする場合に実施する手順です。

### (2) サンプルの業務コンテンツのインポート手順

サンプルの業務コンテンツは、ZIP ファイルでも提供しています。サンプルの業務コンテンツを誤って削除してしまった場合や編集後に元の状態に戻したい場合などに、ZIP ファイルをインポートしてお使いください。サンプルの業務コンテンツのインポート手順を次に示します。

#### 手順

1. npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）でサンプルの業務コンテンツをインポートします。

サンプルの業務コンテンツを直接編集した場合など、同じ ID の業務コンテンツが存在するとインポートできません。その場合は、`-f` オプションを付けて npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）を実行すると、指定した ZIP ファイルの内容で上書きしてインポートできます。編集後の業務コンテンツを残しておきたい場合は、編集後の業務コンテンツを複製し ID を変更してから、ZIP ファイルをインポートしてください。

#### コマンドのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %bin%npimport
```

#### サンプルの業務コンテンツのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ
```

```
%sample%contents%IMNP0950_contents.zip
```

npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）の詳細は「8.5 npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）」を参照してください。

### (3) サンプルの業務コンテンツの注意事項

サンプルの業務コンテンツについての注意事項を次に示します。

利用者が誤って業務コンテンツを操作することを防ぐため、ナビゲーションプラットフォームの運用を開始する際には、解説付きのサンプルの業務コンテンツは削除することをお勧めします。コンテンツ編集者用にサンプルの業務コンテンツを残しておきたい場合は、業務実行画面のメニュー領域をカスタマイズすることも検討してください。メニュー領域のカスタマイズについては、「6.1 メニュー領域のカスタマイズ」を参照してください。

サンプルの業務コンテンツに記載されている内容は、特定の条件のシステムを想定しており、汎用的な運用手順を保証するものではありません。サンプルの業務コンテンツを流用する場合、実際の運用を十分考慮して編集してください。

## 5.2 業務フローの追加

---

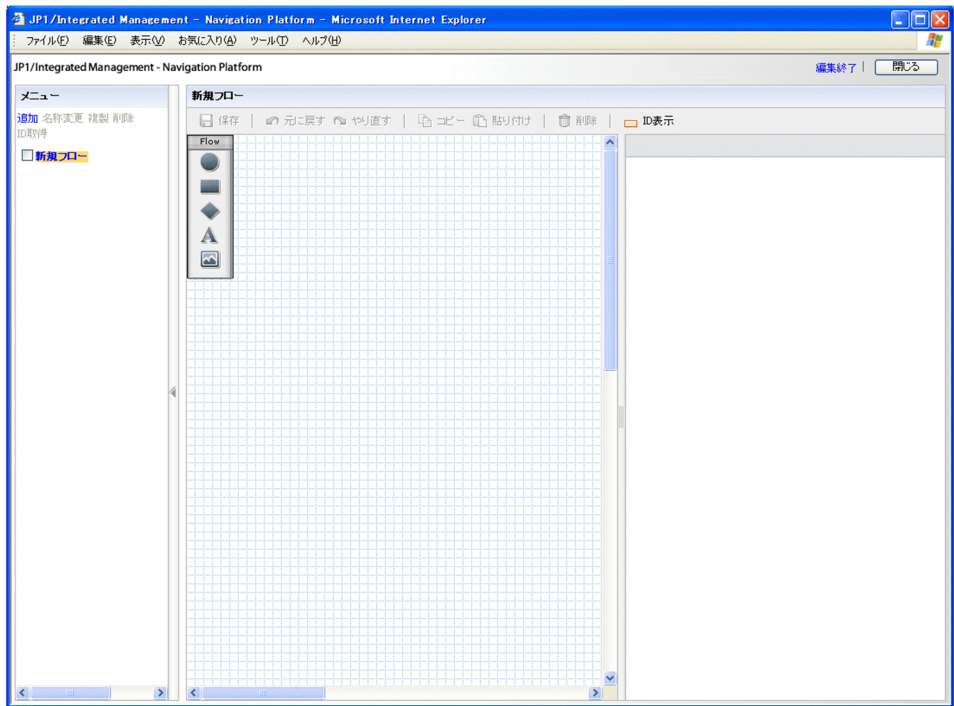
業務編集画面を表示したあと、業務フローを新規追加するまでの手順について説明します。また、追加した業務フローの名称を変更する手順について説明します。

### 5.2.1 業務フローを新規に追加する

業務編集画面上に、作成する業務フローを新規に追加します。

手順

1. 業務編集画面のメニュー領域で、[ 追加 ] メニューを選択します。  
メニュー領域に追加した業務フローの名称が表示されます。デフォルトでは、業務フローの名称は「新規フロー」となります。なお、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティ (一意の業務コンテンツ名称の指定可否) が true の場合、「新規フロー *n* 」となります。  
注 *n* は 1 以上の整数です。
2. 業務編集画面のメニュー領域で、追加した業務フロー「新規フロー」のチェックボックスをチェックして、[ 名称変更 ] メニューを選択します。  
名称を入力するためのダイアログが表示されます。
3. ダイアログに業務名を入力して、[ OK ] ボタンをクリックします。  
メニュー領域の [ 新規フロー ] が入力した名称に変更されます。  
なお、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティ (一意の業務コンテンツ名称の指定可否) が true の場合、業務フローの名称を一意にする必要があります。  
次のことはできません。
  - 128 バイトを超える文字列を入力すること (全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください)
  - 制御文字 (ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含む文字列を入力すること
4. 変更後の業務フローの名称をクリックします。  
業務フロー領域に [ Flow ] パレットが表示されます。



## 5.2.2 業務フローの名称を変更する

業務フローの名称を変更する場合、次の手順で変更します。

手順

1. 業務編集画面のメニュー領域で、名称を変更したい業務フローのチェックボックスをチェックして、[ 名称変更 ] メニューを選択します。  
名称を入力するためのダイアログが表示されます。
2. ダイアログに業務名を入力して、[ OK ] ボタンをクリックします。  
チェックした業務フローの名称が、入力した名称に変更されます。  
なお、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の  
ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティ (一意の業務コンテンツ名称の指定可否) が true の場合、業務フローの名称を一意にする必要があります。  
次のことはできません。
  - 128 バイトを超える文字列を入力すること (全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください)
  - 制御文字 (ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含む文字列を入力すること

## 5.3 業務フローの作成

---


業務フローは、業務フロー領域上でノードを配置したり、関連線を引いたりしながら作成します。

### 5.3.1 業務フローを作成する前に

ここでは、業務フローを作成する流れ、作成できる業務フローの例、および使用するボタンについて説明します。

#### (1) 業務フローを作成する流れ

業務フローを作成する流れを次に示します。

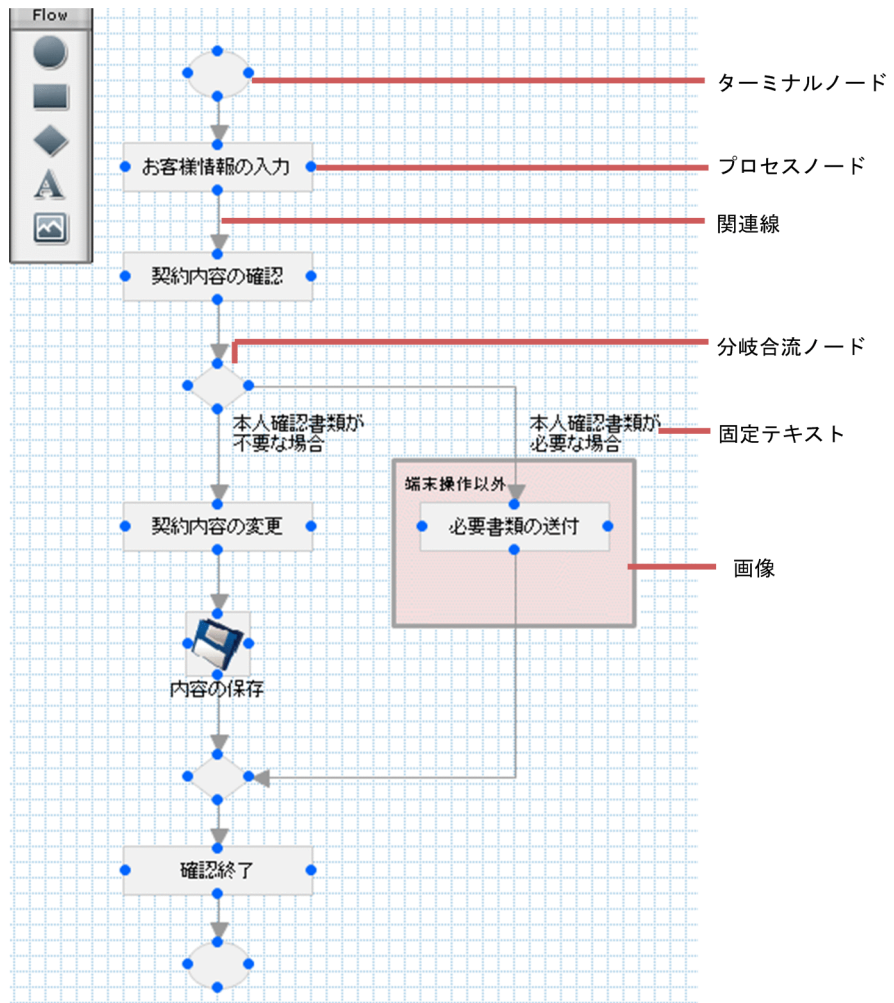
1. 業務フロー領域でノードを配置します。  
ノードとは、業務フローを構成する部品のことです。工程や分岐を表します。  
[ Flow ] パレットから配置したいノードを選択します。必要に応じて、配置したノードの属性を設定します。
2. ノードとノードの間に関連線を引きます。  
関連線とは、ノードからノードへの遷移を示す矢印のことです。
3. 固定テキストや画像（フローパーツ）を配置します。  
フローパーツを配置する場合、[ Flow ] パレットから選択します。必要に応じて、配置したフローパーツの属性を設定します。
4. ツールバーの  保存 ([ 保存 ] ボタン) をクリックします。  
業務コンテンツが保存されます。

#### (2) 作成する業務フローの例

この節では、次に示す業務フローを作成します。



図 5-4 作成する業務フローの例（契約情報の変更）








業務フローの始点と終点には、ターミナルノードを配置します。また、始点を表すターミナルノードと終点を表すターミナルノードの間には、業務の工程を表すプロセスノードを配置します。工程の遷移先が条件に応じて分岐する場合は、分岐合流ノードを配置します。

### (3) 使用するボタン

業務フローの作成は、[ Flow ] パレットおよびツールバーを利用します。[ Flow ] パレットの意味について次の表に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

表 5-2 [ Flow ] パレットのボタンの意味

項番	ボタン	説明
1	 ([ ターミナル ] ボタン)	ターミナルノードを配置します。 通常、配置したターミナルノードは業務編集画面だけに表示されます。ただし、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.terminal.display プロパティの設定内容によっては、業務実行画面にターミナルノードが表示されます。
2	 ([ プロセス ] ボタン)	プロセスノードを配置します。
3	 ([ 分岐合流 ] ボタン)	分岐合流ノードを配置します。
4	 ([ 固定テキスト ] ボタン)	固定テキストを配置します。
5	 ([ 画像 ] ボタン)	画像を配置します。

ツールバーに表示されるボタンの意味については、「5.1.1(3)(c) ツールバー」を参照してください。

### 5.3.2 ターミナルノードを配置する


ここでは、業務の開始を表すターミナルノードを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。


#### 参考

業務フローの終点にターミナルノードを配置すると、ガイド領域に [ 完了 ] ボタンが表示されます。ターミナルノードの配置は任意です。[ 完了 ] ボタンを表示させたくない場合は、業務フローの終点をプロセスノードにしても問題ありません。

なお、[ 完了 ] ボタンを表示させないで作業の完了を明示したい場合は、ターミナルノードの代わりに「作業完了」などの名称にしたプロセスノードを配置することをお勧めします。

#### (1) 手順

1. [ Flow ] パレットの  ([ ターミナル ] ボタン) をクリックします。

 ([ ターミナル ] ボタン) が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。

ターミナルノードが配置されます。



ターミナルノードに属性を設定する場合は、以降の手順に進んでください。

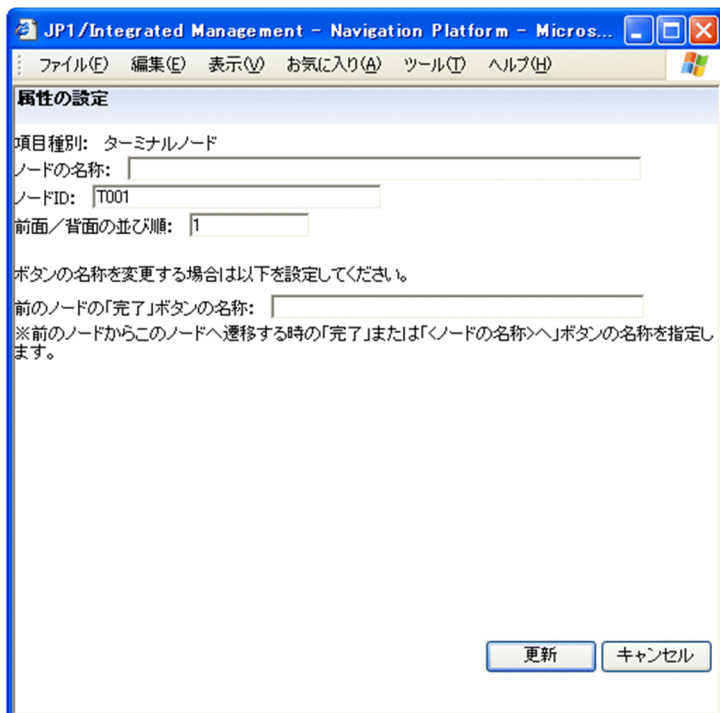
3. ターミナルノードの任意の場所をダブルクリックします。  
[属性の設定]画面が表示されます。
  4. ターミナルノードに関する属性を指定します。  
必要に応じて、次の属性を指定します。
    - ノードの名称
    - ノード ID
    - 前面 / 背面の並び順
    - ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称
- [属性の設定]画面の各項目の詳細は、「(2) [属性の設定]画面の項目」を参照してください。
5. [更新] ボタンをクリックします。  
指定した内容が反映されます。

## (2) [属性の設定]画面の項目

[属性の設定]画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-5 [ 属性の設定 ] 画面 ( ターミナルノードから表示させた場合 )



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ ノードの名称 ] テキストボックス

ノードの名称を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合 ( 全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください )
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

### (b) [ ノード ID ] テキストボックス

ノードを一意に識別するためのノード ID を半角 20 文字以内で入力します。[ ノード ID ] テキストボックスは、自動設定されたノード ID を変更する場合に入力します。

次の場合はエラーになります。

- 半角英数字, 半角ハイフン ( - ), および半角アンダースコア ( \_ ) 以外の文字を使用した場合
- ほかのノードで使用されているノード ID と同じ値を入力した場合

### 注意事項

ノード ID に空文字を指定した場合、ノード ID が無効になります。

## (c) [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックス

このノードを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1 ~ 100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このノードと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したノードは最前面に表示されます。

## 注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。[ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスを指定しても、このノードを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

## (d) [ 前のノードの「完了」ボタンの名称 ] テキストボックス

前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称を全角 40 文字以内で入力します。制御文字 (ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

また、空文字を指定した場合、ボタンの名称には次の文字列が表示されます。

- このノードが前のノードからの唯一の遷移先である場合  
「完了」と表示されます。
- このノードが前のノードからの複数ある遷移先の一つである場合  
このノードの [ ノードの名称 ] テキストボックスに入力した文字列に「へ」を組み合わせた文字列が表示されます。

## 注意事項

- 遷移元のノード (このノードに遷移するノード) が複数ある場合、遷移元ごとに「完了」ボタンの名称を変えることはできません。
- [ 前のノードの「完了」ボタンの名称 ] テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称が長いと、ボタンの名称が表示しきれない場合があります。その場合は、テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称を見直すか、またはユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の `ucnp.base.client.branch.button.width` プロパティまたは `ucnp.base.client.complete.button.width` プロパティでボタンの幅を変更してください。

## (e) [ 更新 ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面で入力された内容がノードに設定されて、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。

## (f) [ キャンセル ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

### 5.3.3 プロセスノードを配置する


プロセスノードには、次の2種類があります。


- 文字列を表示するもの
- 画像を表示するもの

画像を表示する場合で、文字列も表示させたいときは、文字列入りの画像を配置するか、または固定テキストパーツと組み合わせて配置してください。固定テキストパーツについては、「5.3.6 固定テキストを配置する」を参照してください。

ここでは、プロセスノードを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。

#### (1) 手順 ( プロセスノードに文字列を表示する場合 )

1. [ Flow ] パレットの  ([ プロセス ] ボタン) をクリックします。

 ([ プロセス ] ボタン) が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。  
プロセスノードが配置されます。また、ガイド領域に [ Guide ] パレットが表示されます。





ガイドの作成方法については、「5.4 ガイドの作成」を参照してください。

3. プロセスノードの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. プロセスノードに関する属性を指定します。  
次の属性を指定できます。ノードの名称の指定は必須です。ほかの項目は、必要に応じて指定してください。
  - ノードの名称
  - ノード ID
  - 前面 / 背面の並び順
  - ガイド領域に表示される、前のノードに戻るためのボタンの名称
  - ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称

[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(3) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
指定した内容が反映されます。

## (2) 手順 (プロセスノードに画像を表示する場合)

1. [ Flow ] パレットの  ([ プロセス ] ボタン) をクリックします。

 ([ プロセス ] ボタン) が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。  
プロセスノードが配置されます。また、ガイド領域に [ Guide ] パレットが表示されます。



ガイドの作成方法については、「5.4 ガイドの作成」を参照してください。

3. プロセスノードの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. プロセスノードに関する属性を指定します。  
次の属性を指定できます。画像 URL の指定は必須です。ほかの項目は、必要に応じて指定してください。
  - ノードの名称
  - 画像 URL
  - ノード ID
  - 前面 / 背面の並び順
  - ガイド領域に表示される、前のノードに戻るためのボタンの名称
  - ガイド領域に表示される、前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称

[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(3) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
指定した内容が反映されます。

## (3) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-6 [ 属性の設定 ] 画面 ( プロセスノードから表示させた場合 )

JP1/Integrated Management - Navigation Platform - Micros...

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

### 属性の設定

項目種別: プロセスノード

ノードの名称:

画像URL:

ノードID: P001

前面/背面の並び順:

ボタンの名称を変更する場合は以下を設定してください。

このノードの「戻る」ボタンの名称:

前のノードの「次へ」ボタンの名称:

※前のノードからこのノードへ遷移する時の「次へ」または「ノードの名称へ」ボタンの名称を指定します。

更新 キャンセル

[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ ノードの名称 ] テキストボックス

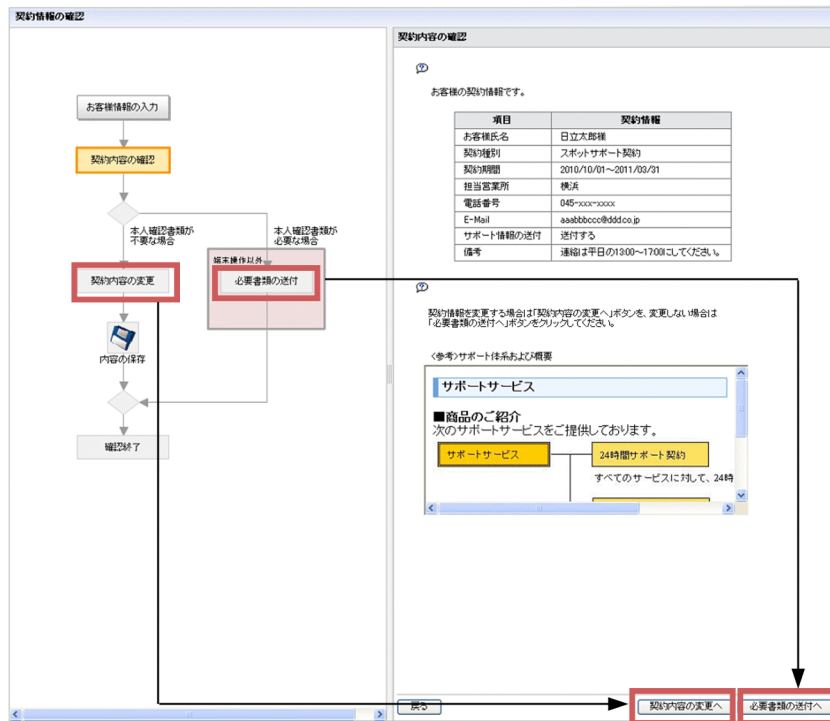
ノードの名称を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合 ( 全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください )
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

### 注意事項

- プロセスノードに画像を表示する場合、ノードの名称は業務フローには表示されません。ただし、ガイド領域のタイトルとして表示されるため、入力しておくことをお勧めします。
- 分岐ノードの次に配置されるプロセスノードのノード名称は、業務実行画面のガイド領域の右下に、遷移用のボタンのラベル ( ボタン名 ) として表示されます。そのため、ノード名称が長いと、ボタンのラベルが途中までしか表示されないのので、注意してください。  
プロセスノードの名称がボタン名として表示されている例を次に示します。





プロセスノードの名称がボタン名に反映される

## (b) [ 画像 URL ] テキストボックス

プロセスノードに表示したい画像ファイルのパスを入力します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルを指定してください。

画像はプロセスノードの大きさに合わせて拡大・縮小表示されますが、縦横の比率は保持されません。したがって、あらかじめ画像の大きさとプロセスノードの大きさを合わせておくことをお勧めします。このとき、プロセスノードのサイズから縦横 6 ピクセルずつ引いたサイズになるようにしてください。また、画像を配置したあとにプロセスノードの大きさを変更する場合、拡大・縮小による画質の劣化を考慮してください。

入力できる URL の形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- ファイルパス  
ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パス

例として、「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ

## 5. 業務コンテンツの作成

「`¥PP¥uCPSB¥https¥htdocs¥images¥ucnp.gif`」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- `/images/ucnp.gif`

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- プロトコル: / ホスト名: ポート番号 / ファイルパス  
プロトコル: `http` または `https`  
ホスト名: Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号: Web サーバのポート番号  
ファイルパス: Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「`http`」、ホスト名が「`host1`」、ポート番号が「`55555`」の Web サーバの「`images`」フォルダにある、「`image1.gif`」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- `http://host1:55555/images/image1.gif`

画像ファイル名のパスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの `0x00` ~ `0x1F` と `0x7F` を含む文字列を入力した場合

---

### 参考

プロセスノードの背景色は、ユーザプロパティファイル (`ucnp_user.properties`) の次のプロパティで変更できます。配置した画像の色とプロセスノードの枠の色とが同化して、利用者がどのプロセスを実行しているのかわからなくなることを防止できます。

- `ucnp.base.client.currentnode.color` プロパティ (選択状態のプロセスノードの色)
  - `ucnp.base.client.node.color` プロパティ (非選択状態 / 直接遷移可能状態のプロセスノードの色)
  - `ucnp.base.client.directjump.design` プロパティ (直接遷移できるプロセスノードのデザイン)
- 

### (c) [ ノード ID ] テキストボックス

ノードを一意に識別するためのノード ID を半角 20 文字以内で入力します。[ ノード ID ] テキストボックスは、自動設定されたノード ID を変更する場合に入力します。

次の場合はエラーになります。

- 半角英数字、半角ハイフン (`-`)、および半角アンダースコア (`_`) 以外の文字を使用した場合
- ほかのノードで使用されているノード ID と同じ値を入力した場合

#### 注意事項

ノード ID に空文字を指定した場合、ノード ID が無効になります。

## (d) [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックス

このノードを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1 ~ 100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このノードと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したノードは最前面に表示されます。

## 注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。[ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスを指定しても、このノードを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

## (e) [ このノードの「戻る」ボタンの名称 ] テキストボックス

このノードから前のノードに遷移するためのボタンの名称を全角 40 文字以内で入力します。制御文字 (ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

また、空文字を指定した場合、ボタンの名称には「戻る」と表示されます。

## 注意事項

- 遷移元のノード (このノードに遷移するノード) が複数ある場合、遷移元ごとに「戻る」ボタンの名称を変えることはできません。
- [ このノードの「戻る」ボタンの名称 ] テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称が長いと、ボタンの名称が表示しきれない場合があります。その場合は、テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称を見直すか、またはユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の `ucnp.base.client.back.button.width` プロパティでボタンの幅を変更してください。

## (f) [ 前のノードの「次へ」ボタンの名称 ] テキストボックス

前のノードからこのノードへ遷移するためのボタンの名称を全角 40 文字以内で入力します。制御文字 (ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

また、空文字を指定した場合、ボタンの名称には次の文字列が表示されます。

- このノードが前のノードからの唯一の遷移先である場合  
「次へ」と表示されます。
- このノードが前のノードからの複数ある遷移先の一つである場合  
このノードの [ ノードの名称 ] テキストボックスに入力した文字列に「へ」を組み合わせた文字列が表示されます。

## 注意事項

- 遷移元のノード (このノードに遷移するノード) が複数ある場合、遷移元ごとに「次へ」ボタンの名称を変えることはできません。
- [ 前のノードの「次へ」ボタンの名称 ] テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称が長いと、ボタンの名称が表示しきれない場合があります。その場

## 5. 業務コンテンツの作成

合は、テキストボックスで指定した名称、またはノードの名称を見直すか、またはユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.client.branch.button.width プロパティまたは ucnp.base.client.next.button.width プロパティでボタンの幅を変更してください。

### (g) [更新] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面で入力された内容がノードに設定されて、[属性の設定] 画面が閉じます。

### (h) [キャンセル] ボタン

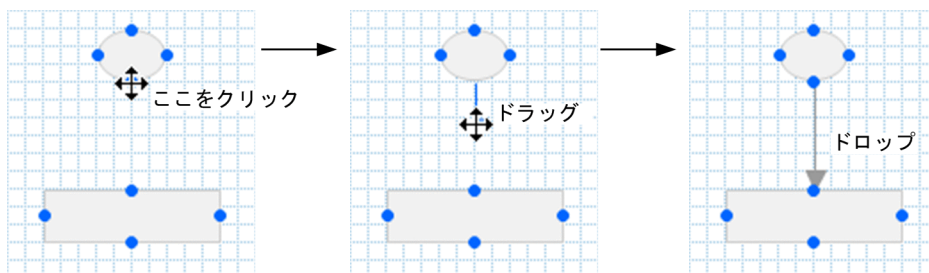
クリックすると、[属性の設定] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

## 5.3.4 関連線を引く

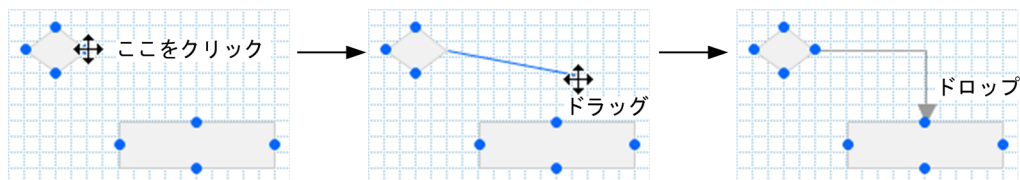
ここでは、関連線を引く手順、および関連線を引く場合の条件について説明します。

### (1) 手順

1. 遷移元のノードのポート (●) を遷移先のノードのポート (●) にドラッグ&ドロップします。  
ノードとノードの間に関連線が引かれます。



なお、関連線は斜めに引けません。例えば、右下のノードに向かって関連線を引くと、次の図に示すように途中で直角に折れ曲がって表示されます。



### (2) 関連線を引く場合の条件

ノードとノードの間に関連線を引く場合の条件について説明します。接続元ノードおよび接続先ノードの種類と、関連線によるノード間の接続可否の対応を次に示します。

表 5-3 関連線の接続可否

項番	接続元ノード	接続先ノード	接続可否	補足説明
1	ターミナルノード	ターミナルノード	×	-
2		プロセスノード		-
3		分岐ノード	×	-
4		合流ノード		合流ノードに対して、すでにほかのターミナルノードとの間に関連線が引かれている場合は接続できません。
5		未確定 <sup>1</sup> の分岐合流ノード		すでにほかのターミナルノードとの間に関連線が引かれている場合は接続できません。
6	プロセスノード	ターミナルノード		-
7		プロセスノード		-
8		分岐ノード		-
9		合流ノード		-
10		未確定 <sup>1</sup> の分岐合流ノード		-
11	分岐ノード <sup>2</sup>	ターミナルノード		-
12		プロセスノード		-
13		分岐ノード	×	-
14		合流ノード		すでに同じ遷移が存在する場合は接続できません。
15		未確定 <sup>1</sup> の分岐合流ノード		-
16	合流ノード <sup>2</sup>	ターミナルノード		すでに合流ノードの接続元として、ターミナルノードがある場合は接続できません。
17		プロセスノード		-
18		分岐ノード	×	-
19		合流ノード	×	-
20		未確定 <sup>1</sup> の分岐合流ノード	×	-

## 5. 業務コンテンツの作成

項番	接続元ノード	接続先ノード	接続可否	補足説明
21	未確定 <sup>1</sup> の 分岐合流ノード <sup>2</sup>	ターミナル ノード		-
22		分岐ノード	×	-
23		合流ノード		-
24		未確定 <sup>1</sup> の 分岐合流ノード		-

(凡例)

- : 接続できます。
- ×
- : 条件付きで接続できます。
- : 補足説明はありません。

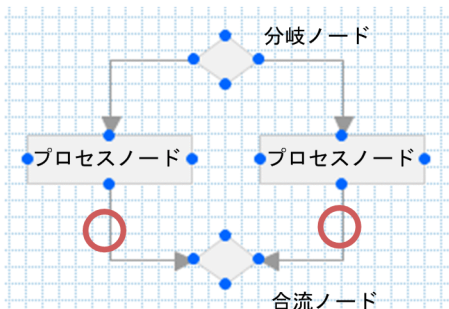
注 1 分岐も合流もしていない状態を指します。

注 2 分岐合流ノードから、分岐および合流するために引ける関連線は3本までです。

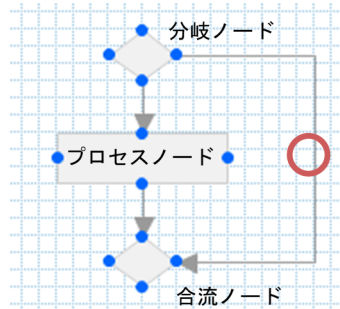
関連線を引いてノードとノードを接続できる場合の例を次の図に示します。

図 5-7 接続できる場合の例

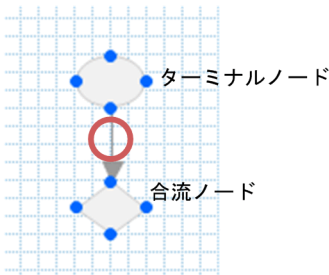
●複数のプロセスノードを接続する



●分岐ノードから合流ノードに接続する



●ターミナルノードから合流ノードに接続する



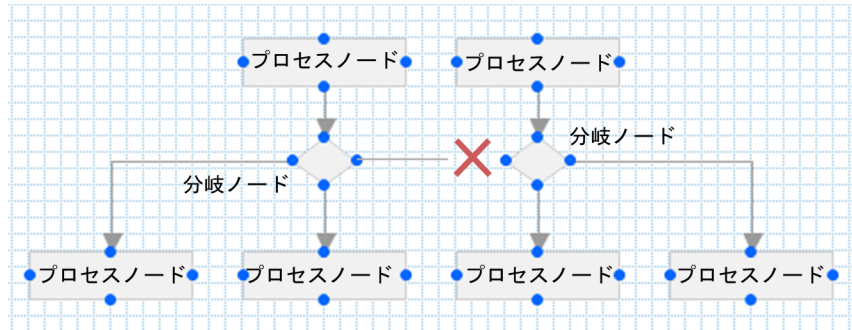
(凡例)

- : 接続できることを表します。

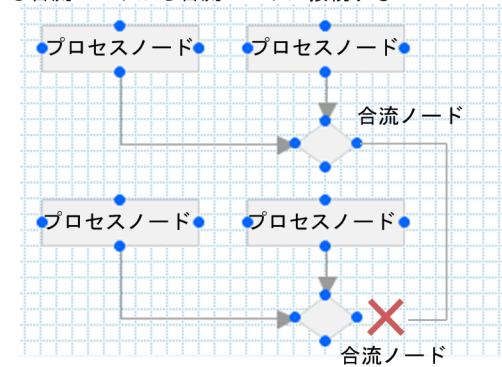
接続できない場合の例を次の図に示します。

図 5-8 接続できない場合の例

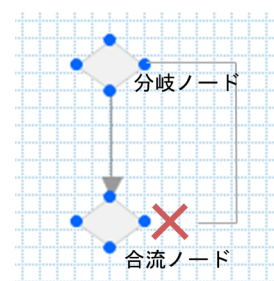
●分岐ノードから分岐ノードに接続する



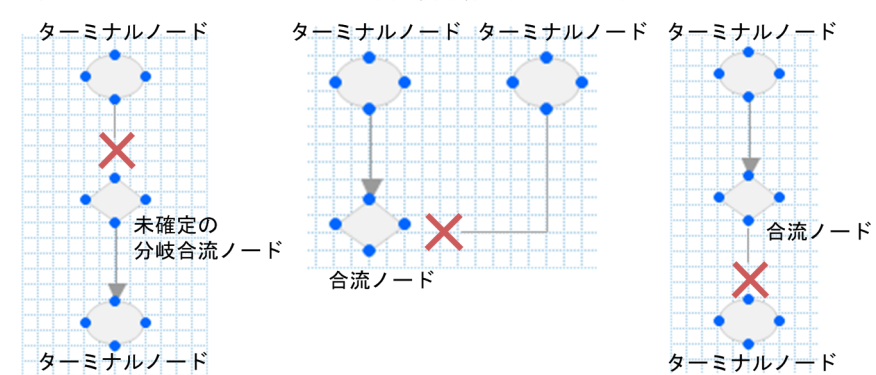
●合流ノードから合流ノードに接続する



●すでに同じ遷移が存在する



●すでにほかのターミナルノードとの間に関連線が引かれている



(凡例)

✕ : 接続できないことを表します。

### 5.3.5 分岐合流ノードを配置する

分岐合流ノードは、利用するポイントによって次に示す種類に分類されます。

## 5. 業務コンテンツの作成

### 分岐ノード


条件を指定して分岐するポイントとなるノードです。


### 合流ノード

一度分岐したノードが合流するポイントとなるノードです。

ここでは、分岐合流ノードを配置する手順、[ 属性の設定 ] 画面、および注意事項について説明します。

### (1) 手順

1. [ Flow ] パレットの  ([ 分岐合流 ] ボタン) をクリックします。

 ([ 分岐合流 ] ボタン) が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。  
分岐合流ノードが配置されます。



分岐合流ノードに属性を設定する場合は、以降の手順に進んでください。

3. 分岐合流ノードの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. 分岐合流ノードに関する属性を指定します。  
必要に応じて、ノードの名称、ノード ID、および前面 / 背面の並び順を指定します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
指定した内容が反映されます。

### ポイント

---

分岐合流ノードを使用する場合のポイントを示します。

- フロー領域に分岐条件を明示する  
業務フローの分岐を工夫すると、分岐条件がユーザに伝わりやすくなり、操作に迷いにくくなります。例えば、作業が無事完了したことを報告するプロセスノードは「完了報告」、エラーが発生し作業が完了しなかったことを報告するプロセスノードは「異常報告」という名称にするなど、分岐条件を簡潔に記載するとわかりやすくなります。また、分岐条件が複雑な場合は、固定テキストを使って分岐の判断を補助する情報を補足すると、ノードの名称を簡潔にできます。
  - 分岐条件の詳細はガイド領域で説明する  
分岐条件が複雑でフロー領域に書ききれない場合は、ガイド領域で詳細を説明すると、業務フローが見やすくなります。
-



## (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

図 5-9 [ 属性の設定 ] 画面 ( 分岐合流ノードから表示させた場合 )

[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

## (a) [ ノードの名称 ] テキストボックス

ノードの名称を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合 ( 全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください )
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

## (b) [ ノード ID ] テキストボックス

ノードを一意に識別するためのノード ID を半角 20 文字以内で入力します。[ ノード ID ] テキストボックスは、自動設定されたノード ID を変更する場合に入力します。

次の場合はエラーになります。

- 半角英数字, 半角ハイフン ( - ), および半角アンダースコア ( \_ ) 以外の文字を使用した場合
- ほかのノードで使用されているノード ID と同じ値を入力した場合

## 5. 業務コンテンツの作成

### 注意事項

ノード ID に空文字を指定した場合、ノード ID が無効になります。

#### (c) [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックス

このノードを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1 ~ 100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。71 以上を入力すると、このノードと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したノードは最前面に表示されます。

### 注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。[ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスを指定しても、このノードを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

#### (d) [ 更新 ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面で入力された内容がノードに設定されて、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。

#### (e) [ キャンセル ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

### (3) 注意事項

分岐合流ノードを使用する場合の注意事項を示します。

#### (a) ガイドパーツで表示される値に関する注意事項

プロセスノードに対応するガイドパーツで表示される値は、ガイドパーツごとに一つの値が共有されます。このため、合流ノードを含む業務フローの場合、一度表示したプロセスノードを別のルートを通して再度表示させると、以前に表示されたときの値がそのまま表示されます。

#### (b) ループする業務フローを作成した場合の注意事項

分岐合流ノードを使用してループする業務フローを作成すると、次のような問題が発生するおそれがあります。ループしない業務フローを作成することを推奨します。


- 業務実行画面で、一度遷移したプロセスノードをクリック操作で戻ろうとすると、利用者は遷移した経路（実行した工程）がわからなくなる。
- 無限にループする可能性があるフローを作成すると、ナビゲーション プラットフォームの動作が遅くなる。


## 5.3.6 固定テキストを配置する

ここでは、固定テキストを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明しま

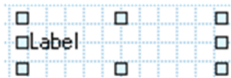
す。

### (1) 手順

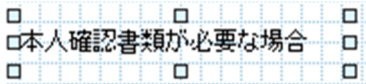
1. [ Flow ] パレットの  ([ 固定テキスト ] ボタン) をクリックします。

 ([ 固定テキスト ] ボタン) が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。  
固定テキストパーツが配置されます。



3. 固定テキストパーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. 固定テキストの表示文字列を入力します。  
必要に応じて文字列の属性および前面 / 背面の並び順を指定します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
業務フロー領域に、入力した文字列が表示されます。

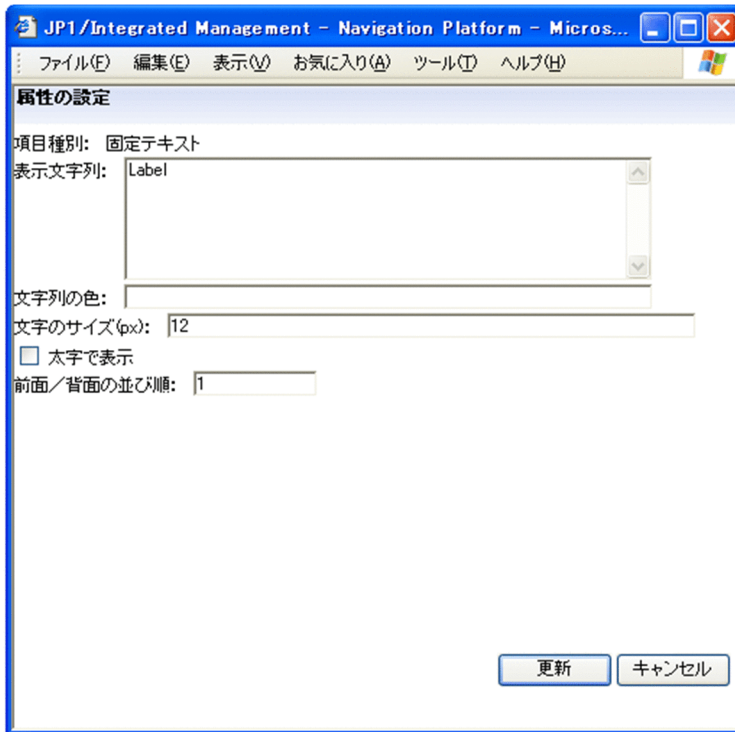


### (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-10 [ 属性の設定 ] 画面 ( 固定テキストパーツから表示させた場合 ) ( 業務フロー領域 )



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ 表示文字列 ] テキストボックス

作業工程や、画面に表示させる項目の説明を入力します。デフォルトでは「Label」と表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E ~ 0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

### (b) [ 文字列の色 ] テキストボックス

[ 表示文字列 ] テキストボックスに入力した文字列の色を 16 進数のカラーコード、または英語のカラーネームで指定します。カラーコードおよびカラーネームは HTML の仕様に従って入力してください。

次の場合は黒色となります。

- 空文字を指定した場合
- スタイルシートで無効となる値を指定した場合

次の場合はエラーになります。

- 128文字を超える文字列を入力した場合
- 半角英数字以外の文字，または「#」以外の記号を入力した場合
- 制御文字（ASCIIコードの0x00～0x1Fと0x7F）を含む文字列を入力した場合

(c) [文字のサイズ(px)] テキストボックス

[表示文字列] テキストボックスに入力した文字列のサイズ（単位：ピクセル）を10進数で指定します。デフォルトでは12です。[文字のサイズ(px)] テキストボックスには、1～128の半角数字（整数）を入力できます。

次の場合はエラーになります。

- 空文字を指定した場合
- 1～128以外の値を入力した場合

(d) [太字で表示] チェックボックス

チェックすると、[表示文字列] テキストボックスに入力した文字が太字で表示されます。デフォルトではチェックされていません。

(e) [前面/背面の並び順] テキストボックス

このパーツを前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を1～100の半角数字で入力します。1を入力すると最前面に、100を入力すると最背面に表示されます。71以上を入力すると、このパーツと重なる関連線よりも背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したパーツは最前面に表示されます。

注意事項

画像パーツは、ほかのノードやパーツよりも常に背面に表示されます。[前面/背面の並び順] テキストボックスを指定しても、このパーツを画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

(f) [更新] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[属性の設定] 画面が閉じます。

(g) [キャンセル] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

### 5.3.7 画像を配置する

ここでは、画像を配置する手順、および [属性の設定] 画面について説明します。

## 5. 業務コンテンツの作成

### (1) 手順

Web サーバ（サーバマシン）に格納されているファイルのうち、配置したい画像の URL を指定します。自分で作成した画像を使用するなど、Web サーバに格納されていない画像を使用する場合は、まず決められたディレクトリに画像を格納する必要があります。Web サーバを直接操作できない場合は、システム管理者に画像の格納を依頼してください。

画像の格納先ディレクトリ、および画像を業務フロー領域に配置する手順について説明します。

#### (a) 画像の格納先ディレクトリ

画像への URL は絶対パスまたは相対パスで指定できます。Web サーバに格納した画像を使用する場合は、相対パスで指定することをお勧めします。絶対パスで指定した場合、Web サーバのサーバ名が変更になったとき、リンク切れとなるおそれがあります。

画像の URL を相対パスで指定する場合、Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリからの相対パスを指定します。相対パスが複雑にならないように、コンテンツ格納先ディレクトリから近いディレクトリに画像を格納することをお勧めします。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリを次に示します。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ


¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs


コンテンツ格納先ディレクトリの注意事項

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs の直下に、「ucnp」で始まるファイルまたはディレクトリを作成しないでください。「ucnp」はナビゲーション プラットフォームのシステムで予約されている名称のためです。この名称のファイルまたはディレクトリを作成した場合の動作は保証しません。

#### (b) 画像を業務フロー領域に配置する手順

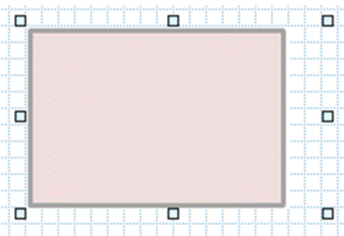
1. [ Flow ] パレットの  ([ 画像 ] ボタン) をクリックします。

 ([ 画像 ] ボタン) が選択されます。

2. 業務フロー領域の任意の場所をクリックします。  
画像パーツが配置されます。



3. 画像パーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. 画像の URL を指定します。  
必要に応じて、画像の説明（ツールチップ）および前面 / 背面の並び順を指定します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
業務フロー領域に、指定した画像が表示されます。



#### 注意事項

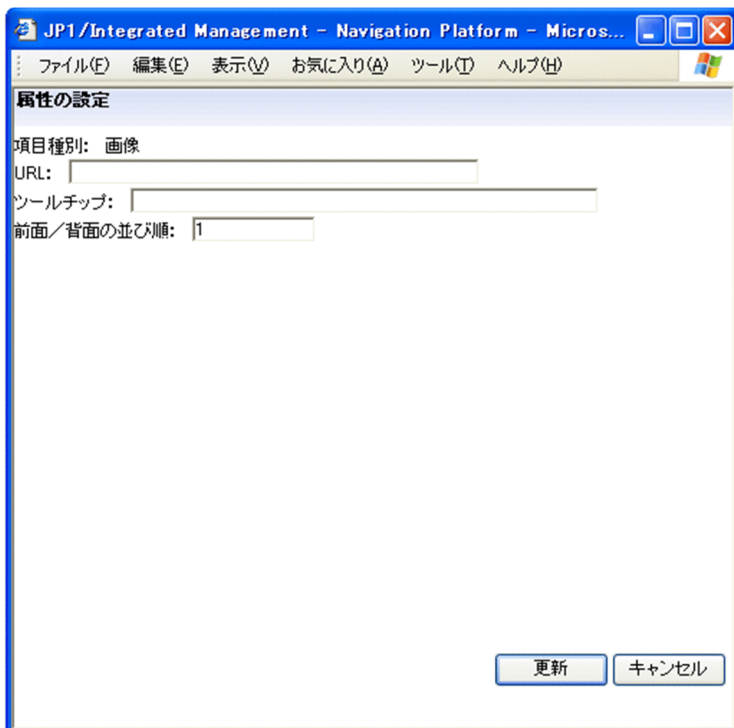
表示される画像の大きさは変更できないため、画像パーツのサイズからはみ出す部分は表示されません。画像パーツのサイズは、画像の大きさに合わせて調整してください。

#### (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-11 [ 属性の設定 ] 画面 ( 画像パーツから表示させた場合 ) ( 業務フロー領域 )



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ URL ] テキストボックス

ガイド領域に表示させたい画像ファイルのパスを入力します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルを指定してください。

なお、表示される画像の大きさは変更できないため、画像パーツのサイズからはみ出す部分は表示されません。画像パーツのサイズは、画像の大きさに合わせて調整してください。

入力できる URL の形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- **ファイルパス**  
ファイルパス: Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ (ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs) からの相対パス

例として、「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥images¥ucnp.gif」というファイルを指定する場合の



パスを次に示します。

- /images/ucnp.gif

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- プロトコル: // ホスト名: ポート番号 / ファイルパス  
 プロトコル: http または https  
 ホスト名: Web サーバのホスト名または IP アドレス  
 ポート番号: Web サーバのポート番号  
 ファイルパス: Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「images」フォルダにある、「image1.gif」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/images/image1.gif

画像ファイル名のパスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

#### (b) [ ツールチップ ] テキストボックス

画像の説明を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください）
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

空文字を指定した場合はツールチップが表示されません。

#### (c) [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックス

このパーツをほかの画像パーツよりも前面または背面に表示したい場合に、最前面からの並び順を 1 ~ 100 の半角数字で入力します。1 を入力すると最前面に、100 を入力すると最背面に表示されます。

デフォルトは「1」です。新規に追加したパーツは最前面に表示されます。

#### 注意事項

ここで設定できるのは、画像パーツ同士の並び順だけです。[ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスを指定しても、このパーツを画像パーツ以外のパーツやノードよりも前面へ移動することはできません。

#### (d) [ 更新 ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。

## 5. 業務コンテンツの作成

### (e) [キャンセル] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

## 5.3.8 ノードやフローパーツを変更する

ここでは、ノードやフローパーツの属性および大きさを変更する手順について説明します。

### (1) 手順 ( ノードやフローパーツの属性を変更する場合 )

1. 属性を変更したいノードまたはフローパーツをダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
2. ノードまたはフローパーツの属性を入力して、[ 更新 ] ボタンをクリックします。  
入力した属性が更新されます。  
ノードまたはフローパーツごとに、表示される [ 属性の設定 ] 画面が異なります。それぞれの [ 属性の設定 ] 画面の項目については、この節の各ノード・フローパーツの配置方法を説明している項を参照してください。

### (2) 手順 ( ノードやフローパーツの大きさを変更する場合 )

1. 大きさを変更するノードまたはフローパーツをクリックして選択します。
2. ノードまたはフローパーツの四隅・上下左右にあるハンドル ( □ ) をドラッグします。  
ノードまたはフローパーツが拡大、または縮小されます。

#### ■ 拡大する場合



#### ■ 縮小する場合



## 5.3.9 複数のノードやフローパーツを選択する

複数のノードやフローパーツを選択する場合は、< Shift > キーを押しながら一つずつ選択してください。同じ方法で関連線も複数選択できます。

## 5.3.10 ノードやフローパーツを前面 / 背面へ移動する

ノードやフローパーツを前面または背面へ移動するには、[ 属性の設定 ] 画面の [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスで並び順を設定します。

## (1) 最前面 / 最背面へ移動するには

最前面へ移動するには、[ 属性の設定 ] 画面の [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスを次のとおりに設定してください。

- 最前面へ移動させたいノードまたはフローパーツの並び順を「1」にします。
- ほかのノードやフローパーツの並び順を「1」よりも大きい値にします。

最背面へ移動するには、[ 属性の設定 ] 画面の [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスを次のとおりに設定してください。

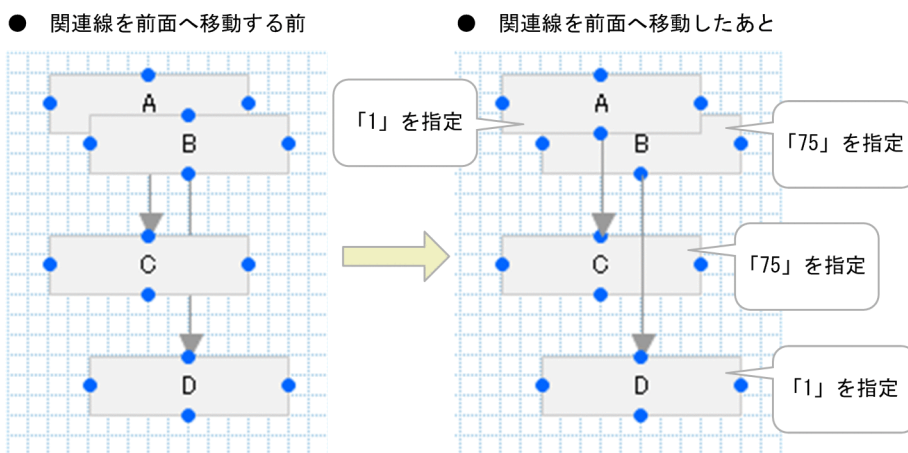
- 最背面へ移動させたいノードまたはフローパーツの並び順を「100」にします。
- ほかのノードやフローパーツの並び順を「100」よりも小さい値にします。

## (2) 関連線を前面へ移動するには

ノードを重ねて配置するなど、複雑な業務フローを作成する場合、関連線がどのノードと接続されているのかわかりにくいことがあります。このとき、関連線よりも背面へ移動したいノードやフローパーツの [ 属性の設定 ] 画面で [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスの指定値を 70 よりも大きくすると、関連線が前面へ移動します。

関連線を前面へ移動する例を次に示します。

図 5-12 関連線を前面へ移動する例



この例で設定しているのは次の 2 か所です。

- ノード A・ノード C の関連線をノード B よりも前面へ移動するために、ノード B の [ 属性の設定 ] 画面で [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスに「75」を指定する。
- ノード B・ノード D の関連線をノード C よりも前面へ移動するために、ノード C の [ 属性の設定 ] 画面で [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスに「75」を指定する。

## 5. 業務コンテンツの作成

### (3) 画像パーツについての注意事項

画像パーツは、画像パーツ以外のパーツやノードよりも常に背面に表示されます。画像パーツ以外のパーツやノードを、画像パーツよりも背面へ移動することはできません。

画像パーツの [ 属性の設定 ] 画面の [ 前面 / 背面の並び順 ] テキストボックスで指定した並び順は、画像パーツ同士の並び順となります。

## 5.4 ガイドの作成

ガイド領域で、業務フローに対応するガイドを作成します。


### 5.4.1 ガイドを作成する前に

ここでは、ガイドを作成する流れ、ガイドの例、および使用するボタンについて説明します。

ガイドは、業務フロー領域のプロセスノードに対して作成できます。ターミナルノード、および分岐合流ノードに対しては作成できません。

#### (1) ガイドを作成する流れ

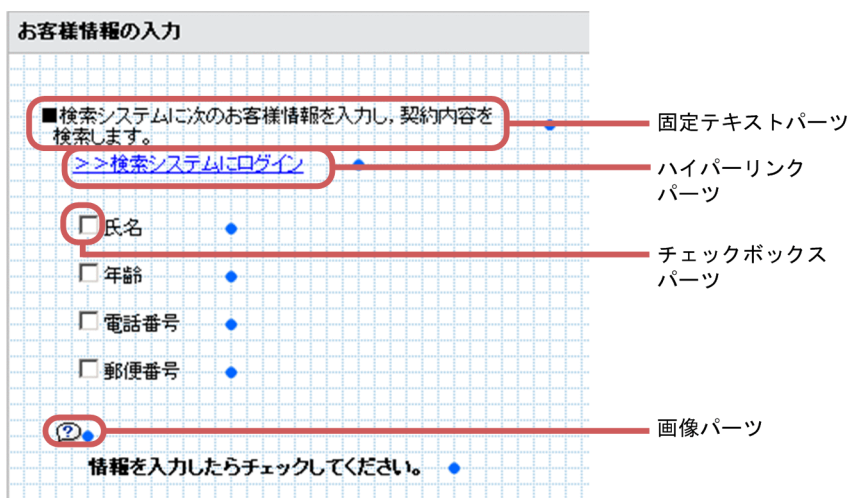
ガイドを作成する流れを次に示します。

1. 業務フロー領域で配置したプロセスノードを選択します。  
ガイド領域に [ Guide ] パレットが表示され、ガイドパーツが配置できるようになります。
2. ガイドパーツを配置します。  
必要に応じて、配置したガイドパーツの属性を設定します。
3. ツールバーの  保存 ([ 保存 ] ボタン) をクリックします。  
業務コンテンツが保存されます。

#### (2) ガイドの例

ガイドの例を次に示します。





図 5-13 ガイドの例



### (3) 使用するボタン

ガイドの作成は、[ Guide ] パレットおよびツールバーを利用します。[ Guide ] パレットのボタンの意味について次の表に示します。

表 5-4 ガイドの作成で使用するボタンの意味


項番	ボタン	対応するガイドパーツ	説明
1	 ([ 固定テキスト ] ボタン)	固定テキストパーツ	固定テキストを配置できます。
2	 ([ 画像 ] ボタン)	画像パーツ	画像を配置できます。
3	 ([ チェックボックス ] ボタン)	チェックボックスパーツ	チェックボックスを配置できます。
4	 ([ ハイパーリンク ] ボタン)	ハイパーリンクパーツ	ハイパーリンクを配置できます。
5	 ([ インラインフレーム ] ボタン)	インラインフレームパーツ	外部サイトのコンテンツを表示するインラインフレームを配置できます。
6	 ([ HTML ] ボタン)	HTML パーツ	ユーザが入力したソースコードを HTML コンテンツとして配置できます。


ツールバーに表示されるボタンの意味については、「5.1.1(3)(c) ツールバー」を参照してください。

## 5.4.2 固定テキストを配置する

ここでは、固定テキストを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。

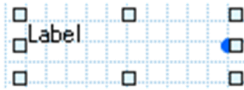
### (1) 手順

1. [ Guide ] パレットの  ([ 固定テキスト ] ボタン) をクリックします。

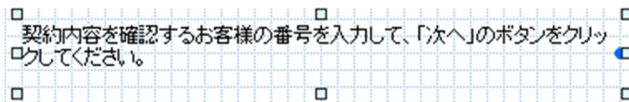
 ([ 固定テキスト ] ボタン) が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。

固定テキストパーツが配置されます。



3. 固定テキストパーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. 固定テキストの表示文字列を入力します。  
必要に応じて文字列の属性を指定します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
ガイド領域に、入力した文字列が表示されます。

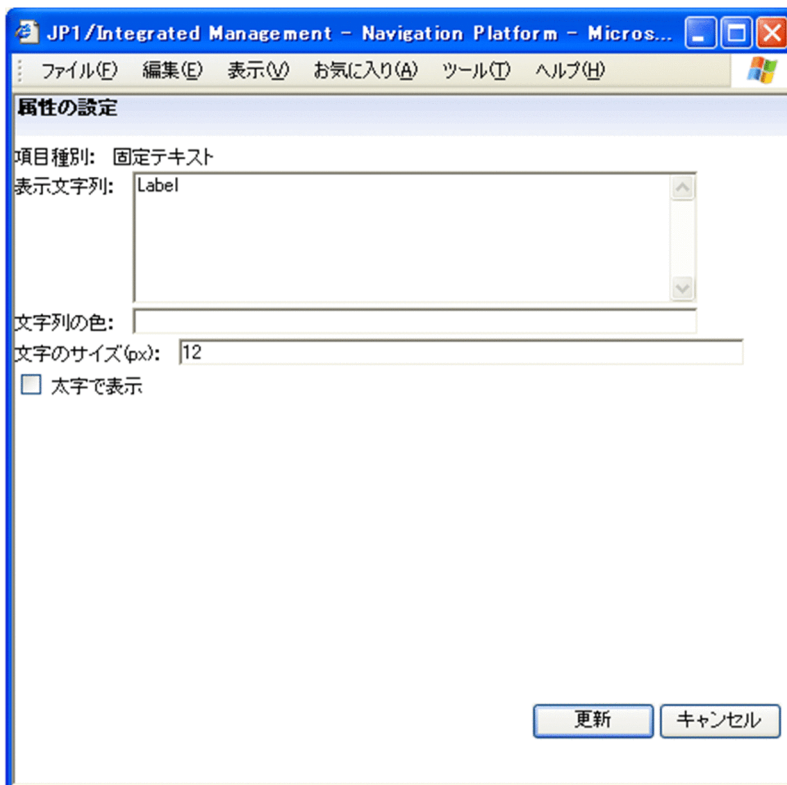


## (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-14 [ 属性の設定 ] 画面 ( 固定テキストパーツから表示させた場合 ) ( ガイド領域 )



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ 表示文字列 ] テキストボックス

作業工程や、画面に表示させる項目の説明を入力します。デフォルトでは「Label」と表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E ~ 0x1F, および 0x7F を含む文字列を入力した場合

### (b) [ 文字列の色 ] テキストボックス

[ 表示文字列 ] テキストボックスに入力した文字列の色を 16 進数のカラーコード、または英語のカラーネームで指定します。カラーコードおよびカラーネームは HTML の仕様に従って入力してください。

次の場合は黒色となります。

- 空文字を指定した場合



- スタイルシートで無効となる値を指定した場合

次の場合はエラーになります。

- 128 文字を超える文字列を入力した場合
- 半角英数字以外の文字，または「#」以外の記号を入力した場合
- 制御文字（ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F）を含む文字列を入力した場合

#### (c) [文字のサイズ (px)] テキストボックス

[表示文字列] テキストボックスに入力した文字列のサイズ（単位：ピクセル）を 10 進数で指定します。デフォルトでは 12 です。[文字のサイズ (px)] テキストボックスには、1 ~ 128 の半角数字（整数）を入力できます。

次の場合はエラーになります。

- 空文字を指定した場合
- 1 ~ 128 以外の値を入力した場合

#### (d) [太字で表示] チェックボックス

チェックすると、[表示文字列] テキストボックスに入力した文字が太字で表示されません。デフォルトではチェックされていません。

#### (e) [更新] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[属性の設定] 画面が閉じます。

#### (f) [キャンセル] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

### 5.4.3 画像を配置する

ここでは、画像を配置する手順、および [属性の設定] 画面について説明します。

#### (1) 手順

Web サーバ（サーバマシン）に格納されているファイルのうち、配置したい画像の URL を指定します。自分で作成した画像を使用するなど、Web サーバに格納されていない画像を使用する場合は、まず決められたディレクトリに画像を格納する必要があります。Web サーバを直接操作できない場合は、システム管理者に画像の格納を依頼してください。

画像の格納先ディレクトリ、および画像をガイド領域に配置する手順について説明します。

## 5. 業務コンテンツの作成

### (a) 画像の格納先ディレクトリ

画像への URL は絶対パスまたは相対パスで指定できます。Web サーバに格納した画像を使用する場合は、相対パスで指定することをお勧めします。絶対パスで指定した場合、Web サーバのサーバ名が変更になったとき、リンク切れとなるおそれがあります。

画像の URL を相対パスで指定する場合、Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリからの相対パスを指定します。相対パスが複雑にならないように、コンテンツ格納先ディレクトリから近いディレクトリに画像を格納することをお勧めします。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリを次に示します。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs


コンテンツ格納先ディレクトリの注意事項

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

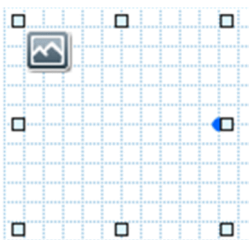
¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs の直下に、「ucnp」で始まるファイルまたはディレクトリを作成しないでください。「ucnp」はナビゲーション プラットフォームのシステムで予約されている名称のためです。この名称のファイルまたはディレクトリを作成した場合の動作は保証しません。

### (b) 画像をガイド領域に配置する手順

1. [ Guide ] パレットの  ([ 画像 ] ボタン) をクリックします。

 ([ 画像 ] ボタン) が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。  
画像パーツが配置されます。



3. 画像パーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. 画像の URL を指定します。  
必要に応じて、画像の説明 ( ツールチップ ) を入力します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。

ガイド領域に、指定した画像が表示されます。



#### 注意事項

表示される画像の大きさは変更できないため、画像パーツのサイズからはみ出す部分は表示されません。画像パーツのサイズは、画像の大きさに合わせて調整してください。

#### ポイント

---

ガイド領域に配置すると効果的な画像の例を示します。

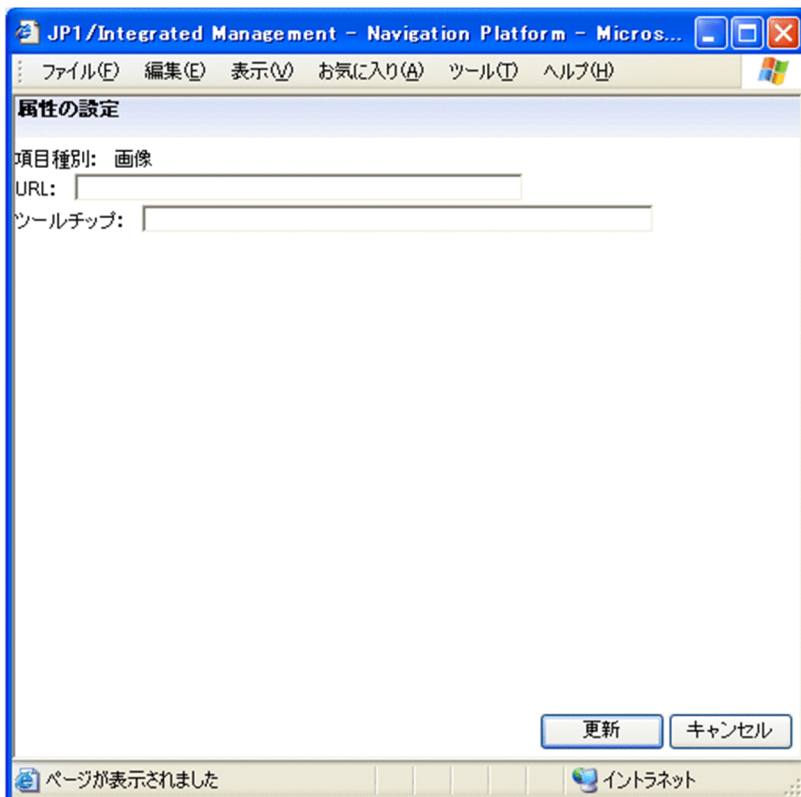
- 画面のスクリーンショット  
アプリケーションや Web システムなどの操作手順を説明する場合、画面のスクリーンショットを載せると、操作する個所がユーザにわかりやすくなります。
  - 電源やケーブルの写真  
マシンの電源を切ったり、ケーブルが差し込まれているか確認したりする手順を説明する場合、実際のマシンの写真を載せると、操作や確認個所がユーザにわかりやすくなります。
- 

## (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-15 [ 属性の設定 ] 画面 ( 画像パーツから表示させた場合 ) ( ガイド領域 )



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ URL ] テキストボックス

ガイド領域に表示させたい画像ファイルのパスを入力します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルを指定してください。

なお、表示される画像の大きさは変更できないため、画像パーツのサイズからはみ出す部分は表示されません。画像パーツのサイズは、画像の大きさに合わせて調整してください。

入力できる URL の形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- **ファイルパス**  
ファイルパス: Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ ( ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs ) からの相対パス

例として、「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ  
¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥images¥ucnp.gif」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /images/ucnp.gif

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- プロトコル: // ホスト名: ポート番号 / ファイルパス  
プロトコル: http または https  
ホスト名: Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号: Web サーバのポート番号  
ファイルパス: Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「images」フォルダにある、「image1.gif」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/images/image1.gif

画像ファイル名のパスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

#### (b) [ ツールチップ ] テキストボックス

画像の説明を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください）
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

空文字を指定した場合はツールチップが表示されません。

#### (c) [ 更新 ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。

#### (d) [ キャンセル ] ボタン


クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。


### 5.4.4 チェックボックスを配置する

ここでは、チェックボックスを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。

## 5. 業務コンテンツの作成

### (1) 手順

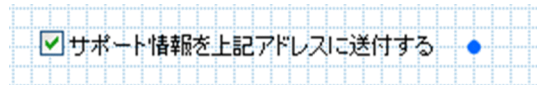
1. [ Guide ] パレットの  ([ チェックボックス ] ボタン) をクリックします。

 ([ チェックボックス ] ボタン) が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。  
チェックボックスパーツが配置されます。



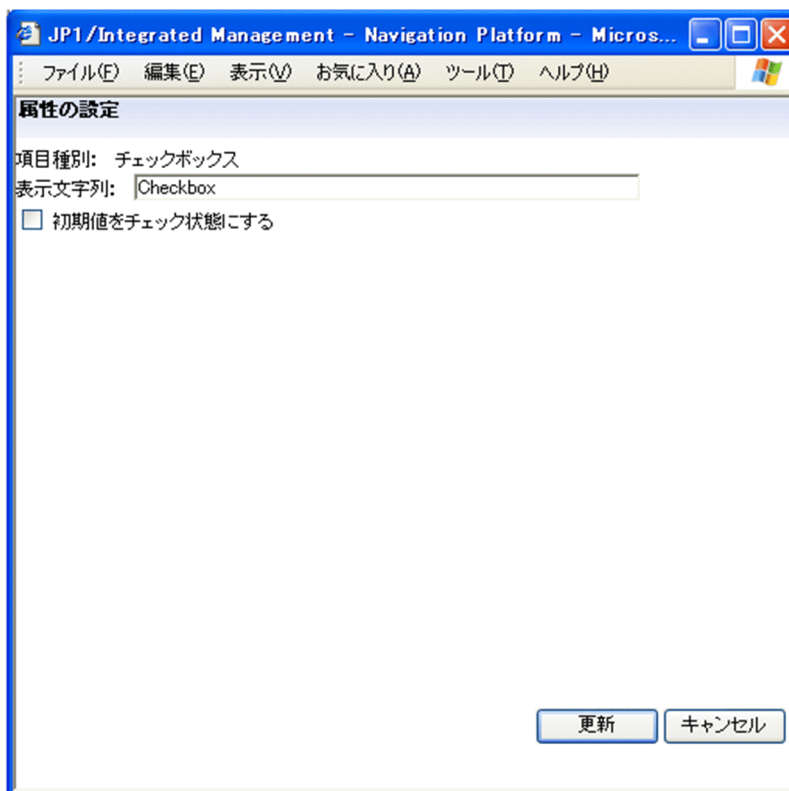
3. チェックボックスパーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. チェックボックスのラベル ( 表示文字列 ) を入力します。  
必要に応じて、チェックボックスの初期値を指定します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
チェックボックスのラベルが入力した文字列に変更されます。



### (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

図 5-16 [属性の設定]画面 (チェックボックスパーツから表示させた場合)



[属性の設定]画面の各項目について説明します。

(a) [表示文字列] テキストボックス

チェックボックスのラベルを入力します。デフォルトでは「Checkbox」と表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合 (全角の場合は 340 文字までを目安に入力してください)
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

(b) [初期値をチェック状態にする] チェックボックス

チェックすると、チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。デフォルトではチェックされていません。

(c) [更新] ボタン

クリックすると、[属性の設定]画面で入力された内容がパーツに設定されて、[属性の設定]画面が閉じます。

## 5. 業務コンテンツの作成

### (d) [キャンセル] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

## 5.4.5 ハイパーリンクを配置する

ここでは、ハイパーリンクを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。

### (1) 手順

ハイパーリンクの URL を指定します。自分で作成した手順書など、Web サーバに格納されていないファイルへのハイパーリンクを配置する場合は、まず決められたディレクトリにファイルを格納する必要があります。Web サーバを直接操作できない場合は、システム管理者にファイルの格納を依頼してください。

ファイルの格納先ディレクトリ、およびハイパーリンクをガイド領域に配置する手順について説明します。

#### (a) ファイルの格納先ディレクトリ

ファイルへの URL は絶対パスまたは相対パスで指定できます。Web サーバに格納したファイルを使用する場合は、相対パスで指定することをお勧めします。絶対パスで指定した場合、Web サーバのサーバ名が変更になったとき、リンク切れとなるおそれがあります。

URL を相対パスで指定する場合、Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリからの相対パスを指定します。相対パスが複雑にならないように、コンテンツ格納先ディレクトリから近いディレクトリに画像を格納することをお勧めします。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリを次に示します。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ


¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs

コンテンツ格納先ディレクトリの注意事項

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs の直下に、「ucnp」で始まるファイルまたはディレクトリを作成しないでください。「ucnp」はナビゲーション プラットフォームのシステムで予約されている名称のためです。この名称のファイルまたはディレクトリを作成した場合の動作は保証しません。

#### (b) ハイパーリンクをガイド領域に配置する手順

1. [ Guide ] パレットの  ([ ハイパーリンク ] ボタン) をクリックします。





([ ハイパーリンク ] ボタン) が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。  
ハイパーリンクパーツが配置されます。



3. ハイパーリンクパーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. アンカーの文字列およびリンク先の URL を入力します。  
必要に応じて、リンク先の説明 (ツールチップ) を入力します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
ハイパーリンクとして、指定した文字列が表示されます。



ポイント

---

ガイド領域には、業務コンテンツで使用する Web システムや資料へのハイパーリンクを配置しておくことで、ユーザが操作を進めやすく便利です。

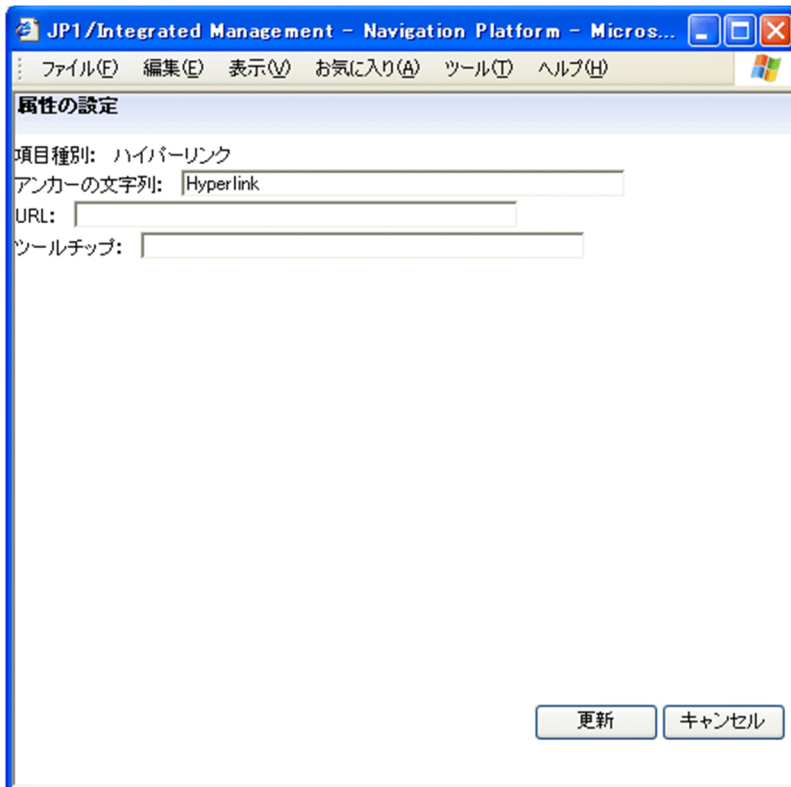
---

## (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次に示します。

## 5. 業務コンテンツの作成

図 5-17 [ 属性の設定 ] 画面 (ハイパーリンクパーツから表示させた場合)



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ アンカーの文字列 ] テキストボックス

アンカー表示させる文字列を入力します。デフォルトでは「Hyperlink」と表示されません。アンカーの文字列は必ず入力してください。次の場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合 (全角の場合は 340 文字までを目安に入力してください)
- 空白文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

### (b) [ URL ] テキストボックス

リンク先の URL を入力します。

入力できる URL の形式を次に示します。リンク先がナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルへのリンクを指定する場合

- ファイルパス  
ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パス

例として、「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥html¥index.html」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /html/index.html

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバへのリンクを指定する場合

- プロトコル:| ホスト名: ポート番号| ファイルパス  
プロトコル：http または https  
ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号：Web サーバのポート番号  
ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「html」フォルダにある、「index.html」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/html/index.html

テキストボックスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

#### (c) [ ツールチップ ] テキストボックス

リンク先の説明を入力します。次の場合はエラーになります。

- 128 バイトを超える文字列を入力した場合（全角の場合は 42 文字までを目安に入力してください）
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

空文字を指定した場合はツールチップが表示されません。

#### (d) [ 更新 ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。

#### (e) [ キャンセル ] ボタン


クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。


## 5.4.6 インラインフレームを配置する

インラインフレームを配置することで、URL で指定した外部サイトのコンテンツをガイド領域に表示できます。

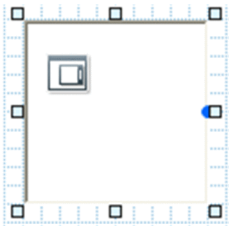
ここでは、インラインフレームを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。

### (1) 手順

1. [ Guide ] パレットの  ([ インラインフレーム ] ボタン) をクリックします。

 ([ インラインフレーム ] ボタン) が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。  
インラインフレームパーツが配置されます。



3. インラインフレームパーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。

4. リンク先の URL を入力します。

必要に応じて、フレーム枠を表示するかどうかを指定します。

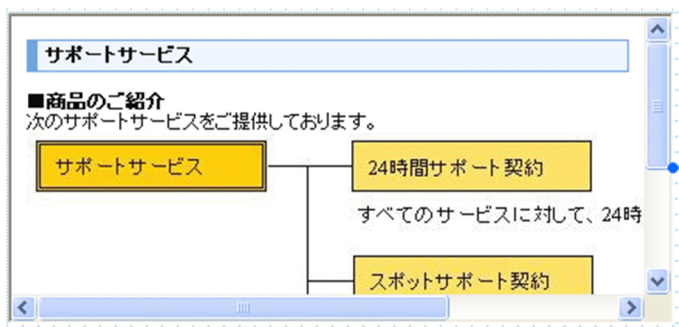
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。

#### 注意事項

認証が必要なコンテンツを指定した場合、インラインフレームを表示するときに認証が必要になることがあります。

5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。

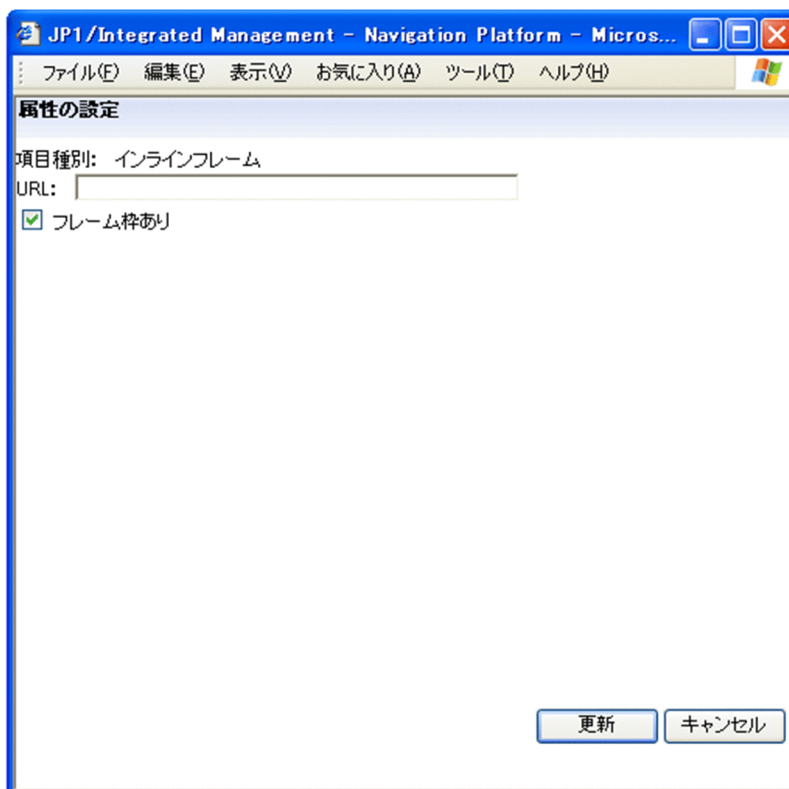
インラインフレームとして、指定したコンテンツが表示されます。



## (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次の図に示します。

図 5-18 [ 属性の設定 ] 画面 (インラインフレームパーツから表示させた場合)



[ 属性の設定 ] 画面の各項目について説明します。

### (a) [ URL ] テキストボックス

インラインフレームに表示させるコンテンツのリンク先の URL を入力します。

## 5. 業務コンテンツの作成

入力できる URL の形式を次に示します。リンク先がナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルへのリンクを指定する場合

- ファイルパス  
ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パス

例として、「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥html¥index.html」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /html/index.html

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバへのリンクを指定する場合

- プロトコル:// ホスト名: ポート番号/ ファイルパス  
プロトコル：http または https  
ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号：Web サーバのポート番号  
ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「html」フォルダにある、「index.html」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/html/index.html

テキストボックスに次に示す文字を指定した場合はエラーになります。

- 1,024 バイトを超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x1F と 0x7F を含む文字列を入力した場合

### 注意事項

- CSS を使用して、フォントサイズに 128 ピクセルより大きい数値が指定されている外部サイトを指定した場合、Web ブラウザの動作が著しく遅くなるおそれがあります。
- インラインフレーム内の文字がインラインフレームのフレーム枠からはみ出して表示される場合があります。文字がはみ出してしまうかどうかは、インラインフレームに表示されるコンテンツによって異なります。
- ガイド領域より大きいインラインフレームパーツが配置されている場合、業務実行画面の画面サイズをリサイズバーで変更する動作が遅くなる場合があります。
- Web ブラウザが URL と認識できない文字列（例えば「http://」だけなど）を [URL] テキストボックスに指定すると、ナビゲーション プラットフォームの画面全体がエラー画面に切り替わる場合があります。

## (b) [ フレーム枠あり ] チェックボックス

チェックすると、インラインフレームのフレーム枠が表示されます。デフォルトではチェックされています。

## (c) [ 更新 ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。

## (d) [ キャンセル ] ボタン

クリックすると、[ 属性の設定 ] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。


## 5.4.7 HTML パーツを配置する

ユーザが入力したソースコードを HTML コンテンツとしてガイド領域に表示できます。ガイド領域に表を表示したいときなどにお使いください。

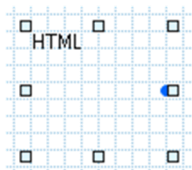
ここでは、HTML パーツを配置する手順、および [ 属性の設定 ] 画面について説明します。

### (1) 手順

1. [ Guide ] パレットの  ([ HTML ] ボタン) をクリックします。

 ([ HTML ] ボタン) が選択されます。

2. ガイド領域の任意の場所をクリックします。  
HTML パーツが配置されます。



3. HTML パーツの任意の場所をダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
4. ソースコードを入力します。  
[ 属性の設定 ] 画面の各項目の詳細は、「(2) [ 属性の設定 ] 画面の項目」を参照してください。
5. [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
入力したソースコードが HTML コンテンツとして表示されます。

## 5. 業務コンテンツの作成

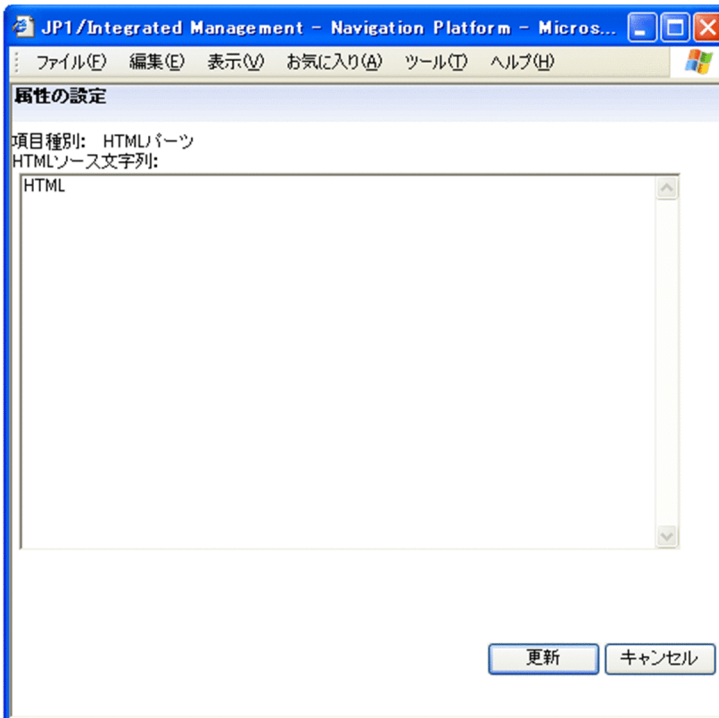


項目	契約情報
お客様氏名	XXXXXXXX
契約種別	XXXXXXXX
契約期間	XXXXXXXX
担当営業所	XXXXXXXX
電話番号	XXXXXXXX
E-Mail	XXXXXXXX
サポート情報の送付	XXXXXXXX
備考	XXXXXXXX

### (2) [ 属性の設定 ] 画面の項目

[ 属性の設定 ] 画面を次の図に示します。

図 5-19 [ 属性の設定 ] 画面 (HTML パーツから表示させた場合)



[ 属性の設定 ] 画面の項目について説明します。



## (a) [HTML ソース文字列] テキストボックス

HTML パーツに表示させるコンテンツのソースコードを入力します。デフォルトでは「HTML」が表示されます。

次の場合はエラーになります。

- 65,535 文字を超える文字列を入力した場合
- ASCII コードの 0x00 ~ 0x08, 0x0B ~ 0x0C, 0x0E ~ 0x1F または 0x7F を含む文字列を入力した場合

## 注意事項

- HTML 4.01 (厳密型) の文書型定義に従ってソースコードを入力してください。この文書型定義に基づいていない場合の動作は保証されません。
- [属性の設定] 画面ではタブを入力できません。タブを使用したい場合は、任意のテキストファイルなどに入力したソースコードをコピーして貼り付けてください。
- 入力内容はサニタイズされません。
- CSS を使用してフォントサイズを指定する場合は、128 ピクセル以下を設定してください。128 ピクセルより大きい数値を指定すると、Web ブラウザの動作が著しく遅くなるおそれがあります。

## (b) [更新] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面で入力された内容がパーツに設定されて、[属性の設定] 画面が閉じます。

## (c) [キャンセル] ボタン

クリックすると、[属性の設定] 画面が閉じます。この場合、画面で入力した内容は設定されません。

## (3) 使用できる HTML タグ

使用できる HTML タグと属性を次に示します。

表 5-5 HTML パーツで使用できる HTML タグと属性

項番	HTML タグ	属性
1	A	class, style, title, href, name, target ("_blank" だけ指定可)
2	BR	class, style, title
3	CAPTION	class, style, title
4	COL	class, style, title, span
5	COLGROUP	class, style, title, span
6	DIV	class, style, title
7	IMG	class, style, title, alt, src

## 5. 業務コンテンツの作成

項番	HTML タグ	属性
8	INPUT	class, style, title, checked, disabled, maxlength, name, readonly, size, type ("text", "checkbox", "radio", "hidden" を指定可), value
9	OPTGROUP	class, style, title, disabled, label
10	OPTION	class, style, title, disabled, label, selected, value
11	SELECT	class, style, title, disabled, name
12	SPAN	class, style, title
13	TABLE	class, style, title
14	TBODY	class, style, title
15	TD	class, style, title, colspan, rowspan
16	TEXTAREA	class, style, title, cols, disabled, name, readonly, rows
17	TFOOT	class, style, title
18	TH	class, style, title, colspan, rowspan
19	THEAD	class, style, title
20	TR	class, style, title

### 注

ここで示す HTML タグ以外の HTML タグを使用した場合の動作は保証されません。見映えなどの設定には、CSS を使用することを推奨します。

## (4) CSS の使用方法

HTML パーツで CSS を使用するには次の方法があります。

- ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS を利用する。
- 各要素の style 属性でスタイルを定義する。
- 外部 CSS ファイルを作成する。

これらの方法を組み合わせて使用した場合の表示は、CSS の仕様に準拠します。

### (a) ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS のクラス名

ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS を利用するには、各要素の class 属性で次のクラス名を指定してください。

表 5-6 ナビゲーション プラットフォームが提供する CSS のクラス名

項番	クラス名	対応するタグと属性	対応するガイドパーツ
1	ucnp_text	<INPUT type="text" />	-
2		<TEXTAREA>	-
3	ucnp_text_readonly	<INPUT type="text" readonly/>	-

項番	クラス名	対応するタグと属性	対応するガイドパーツ
4		<TEXTAREA readonly>	-
5	ucnp_checkbox_radio	<INPUT type="checkbox" />	チェックボックス
6		<INPUT type="radio" />	-
7	ucnp_select	<SELECT>	-
8	ucnp_anchor	<A>	ハイパーリンク

(凡例)

- : 対応するガイドパーツはありません。

注 固定テキストおよび画像は、class 属性の指定は不要です。

(b) ユーザがスタイルを定義する場合に使用できる CSS プロパティ

各要素の style 属性でスタイルを定義する場合、および外部 CSS ファイルを作成する場合に使用できる CSS プロパティを次に示します。ここに示していない CSS プロパティを使用したときの動作は保証されません。

表 5-7 使用できる CSS プロパティ

項番	分類	プロパティ	補足
1	色	color	-
2	背景	background	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>background-color</li> <li>background-image</li> <li>background-repeat</li> <li>background-attachment</li> <li>background-position</li> </ul>
3	テキスト	text-align	-
4	フォント	font	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>font-family</li> <li>font-style</li> <li>font-weight</li> <li>font-size</li> </ul>
5	視覚フォーマットモデル	width	-
6		min-width	-
7		max-width	-
8		height	-
9		min-height	-
10		max-height	-
11		line-height	-
12		vertical-align	-

## 5. 業務コンテンツの作成

項番	分類	プロパティ	補足
13	視覚効果	overflow	-
14	ボックス・モデル	margin	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• margin-top</li> <li>• margin-right</li> <li>• margin-bottom</li> <li>• margin-left</li> </ul>
15		padding	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• padding-top</li> <li>• padding-right</li> <li>• padding-bottom</li> <li>• padding-left</li> </ul>
16		border-width	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• border-top-width</li> <li>• border-right-width</li> <li>• border-bottom-width</li> <li>• border-left-width</li> </ul>
17		border-color	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• border-top-color</li> <li>• border-right-color</li> <li>• border-bottom-color</li> <li>• border-left-color</li> </ul>
18		border-style	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• border-top-style</li> <li>• border-right-style</li> <li>• border-bottom-style</li> <li>• border-left-style</li> </ul>
19		border	次のプロパティを設定できます。まとめて定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• border-top</li> <li>• border-right</li> <li>• border-bottom</li> <li>• border-left</li> </ul>
20	表	caption-side	-
21		table-layout	-
22		border-collapse	-
23		border-spacing	-
24		empty-cells	-

(凡例)

- : 補足説明はありません。

## (c) 外部 CSS ファイルの格納先

外部 CSS ファイルは、一つのシステムに一つだけ作成できます。

作成した CSS ファイルは、Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリに格納します。ファイルパスは、Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリを基点として、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.server.htmlpart.css プロパティで指定したパスに格納してください。ucnp.base.server.htmlpart.css プロパティの詳細は「7.4.4(14) HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス (ucnp.base.server.htmlpart.css)」を参照してください。

## (d) 外部 CSS ファイルを作成する場合の注意事項

外部 CSS ファイルを作成する場合の注意事項を次に示します。

- クラスセクタは、必ず「要素名. セクタ名」の形式で定義してください。要素名、ピリオドおよびセクタ名は省略できません。この形式で定義されていない場合の動作は保証しません。  
例えば「div.css\_sample」と定義した場合、div タグの class 属性に「css\_sample」と指定することで、定義した CSS を使用できます。
- クラスセクタの接頭辞に次の文字列を使用しないでください。
  - ucnp
  - hptl
  - access
- HTML パーツから外部 CSS ファイルへの参照は、自動で設定されます。ユーザが <LINK> タグを設定する必要はありません。

## (5) HTML パーツ使用時の注意事項

- 業務コンテンツに悪意のある第三者がアクセスできる状態だと、HTML パーツを悪用してクロスサイトスクリプティングを起こすようなスクリプトが埋め込まれるおそれがあります。業務編集画面にアクセスするための URL を不特定多数のユーザに教えないなど、不正なアクセスを防いでください。業務編集画面にアクセスするための URL については、「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。
- HTML パーツで大きな表やコンテンツを作成すると、処理対象のデータサイズが大きくなるため、ナビゲーション プラットフォームの動作が遅くなることがあります。
- 同じガイド領域内では、HTML タグに指定する name 属性を重複させないでください。

## (6) HTML パーツの使用例

HTML パーツの使用例を次に示します。

[ 属性の設定 ] 画面の [ HTML ソース文字列 ] テキストボックスへの入力例 (外部

## 5. 業務コンテンツの作成

CSS ファイルを作成する場合)

```
<table class="sample">
  <caption class="sample">注文管理表</caption>
  <thead>
    <tr>
      <th class="sample">注文番号</th>
      <th class="sample">注文日</th>
    </tr>
  </thead>
  <tbody>
    <tr>
      <td class="sample">00001-20101010-00001</td>
      <td class="sample">2010/10/10</td>
    </tr>
    <tr>
      <td class="sample">00001-20101010-00002</td>
      <td class="sample">2010/10/10</td>
    </tr>
  </tbody>
</table>
```

外部 CSS ファイルの作成例

```
table.sample {
  border:1px solid #777777;
  border-collapse:collapse;
  border-spacing:0;
  background-color:#ffffff;
}
caption.sample {
  font-size:14px; font-weight:bold;
}
th.sample {
  border-right:1px solid #777777;
  border-bottom:1px solid #777777;
  background-color:#e3e5e7;
  padding:0.3em 1em;
  text-align:center;
}
td.sample {
  border-right:1px solid #777777;
  border-bottom:1px solid #777777;
  padding:0.3em 1em;
}
```

HTML コンテンツの表示例

注文番号	注文日
00001-20101010-00001	2010/10/10
00001-20101010-00002	2010/10/10

### 5.4.8 ガイドパーツを変更する

ここでは、ガイドパーツの属性や大きさを変更する手順について説明します。

### (1) 手順 (ガイドパーツの属性を変更する場合)

1. 属性を変更したいガイドパーツをダブルクリックします。  
[ 属性の設定 ] 画面が表示されます。
2. ガイドパーツの属性を入力して, [ 更新 ] ボタンをクリックします。  
入力した属性が更新されます。  
ガイドパーツごとに, 表示される [ 属性の設定 ] 画面が異なります。各ガイドパーツから表示される [ 属性の設定 ] 画面の項目については, この節の各ガイドパーツの配置方法を説明している項を参照してください。

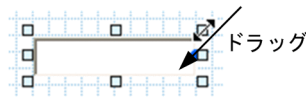
### (2) 手順 (ガイドパーツの大きさを変更する場合)

1. 大きさを変更するガイドパーツをクリックして選択します。  
複数のガイドパーツの大きさを変更する場合は, < Shift > キーを押しながら一つずつ該当するガイドパーツを選択します。
2. ガイドパーツの四隅・上下左右にあるハンドル ( □ ) をドラッグします。  
ガイドパーツが拡大, または縮小されます。

■ 拡大する場合



■ 縮小する場合



## 5.4.9 複数のガイドパーツを選択する

複数のガイドパーツを選択する場合は, < Shift > キーを押しながら一つずつ選択してください。

## 5.5 業務コンテンツの変更，複製，削除

---

作成した業務コンテンツを変更，複製，または削除する手順について説明します。

### 5.5.1 業務コンテンツの変更

ここでは，業務コンテンツを変更する手順について説明します。

#### (1) 手順

1. ナビゲーション プラットフォームにアクセスして，業務編集画面を表示します。  
アクセスする URL については，「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。
2. メニュー領域で変更したい業務コンテンツを選択します。
3. 業務コンテンツを変更します。  
操作手順については，次に示す節の該当する説明を参照してください。
  - 「5.3 業務フローの作成」
  - 「5.4 ガイドの作成」
4. 業務実行画面に切り替えて，業務コンテンツの動作を確認します。

### 5.5.2 業務コンテンツの複製

ここでは，業務コンテンツを複製する手順について説明します。

#### (1) 手順

1. ナビゲーション プラットフォームにアクセスして，業務編集画面を表示します。  
アクセスする URL については，「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。
2. メニュー領域で複製したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。  
複数の業務コンテンツを一度に複製したい場合は，複製したい業務コンテンツのチェックボックスをすべてチェックしてください。
3. [複製]メニューを選択します。  
業務コンテンツが複製されます。複製された業務コンテンツの名称は「複製元の業務コンテンツの名称のコピー」となります。ただし，ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティ (一意の業務コンテンツ名称の指定可否) が true の場合，「複製元の業務コンテンツの名称のコピー  $n$  」となります。  
注  $n$  は 1 以上の整数です。


#### 注意事項

編集集中の業務コンテンツを保存しないで [複製]メニューを選択すると，業務コン



コンテンツを削除してもよいかを確認するダイアログが表示されます。次のように対応してください。

- 編集中の業務コンテンツを保存しない場合  
ダイアログで [ OK ] ボタンをクリックしてください。
- 編集中の業務コンテンツを保存したい場合  
ダイアログで [ キャンセル ] ボタンをクリックしてください。

その後、ツールバーの  保存 ([ 保存 ] ボタン) をクリックして編集中の業務コンテンツを保存してから、再度実行してください。

### 5.5.3 業務コンテンツの削除

ここでは、業務コンテンツを削除する手順について説明します。

#### (1) 手順

1. ナビゲーション プラットフォームにアクセスして、業務編集画面を表示します。  
アクセスする URL については、「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。
2. メニュー領域で削除したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。  
複数の業務コンテンツを一度に削除したい場合は、削除したい業務コンテンツのチェックボックスをすべてチェックしてください。
3. [ 削除 ] メニューを選択します。  
業務コンテンツを削除してもよいかを確認するダイアログが表示されます。
4. ダイアログで [ OK ] ボタンをクリックします。  
業務コンテンツが削除されます。



# 6

## ナビゲーション プラット フォームの画面のカスタマ イズ

ナビゲーション プラットフォームの画面は、メニュー領域の表示形式を変更したり、特定の業務コンテンツだけを表示させたりするなど、ユーザが使いやすいようにカスタマイズできます。この章では、画面のカスタマイズ方法について説明します。

---

6.1 メニュー領域のカスタマイズ

---

6.2 その他のカスタマイズ

---

## 6.1 メニュー領域のカスタマイズ

メニュー領域は次のようにカスタマイズできます。

- メニュー領域の表示形式を変更する  
HTML ファイルを使って業務実行画面を見やすくカスタマイズしたり、JavaScript 関数を使って特定の業務コンテンツだけを業務実行画面に表示させたりできます。
- メニュー領域の表示幅を変更する  
ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) で、メニュー領域の表示幅を変更できます。

カスタマイズの詳細について次に示します。

### 6.1.1 メニュー領域の表示形式を変更する

業務実行画面のメニュー領域の表示形式をカスタマイズする手順を次に示します。

手順

1. テキストエディタで、メニュー領域に表示させる HTML ファイルを作成します。  
作成するファイルの記述形式を次に示します。  
なお、太字で示した行は必ず記述してください。

```
<html>
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8">
  <script type="text/javascript" src="/ucnpBase/adportlets/ucnp/js/tools/UcnpCustomTools.js"></script>
  <script type="text/javascript">
function menu_onload() {
  var IContentId = ucnp_menu_get_contentId();
  if (IContentId != null) {
    ucnp_menu_show_flow(IContentId);
  }
};
</script>
</head>

<body onload="menu_onload();">

この部分に、HTMLタグおよびナビゲーション プラットフォームで提供している
JavaScript関数を使用して、メニューの内容を記述します。

</body>
</html>
```

ナビゲーション プラットフォームで提供している JavaScript 関数の詳細は、「9. JavaScript 関数」を参照してください。

2. 作成したファイルをコンテンツ格納先ディレクトリに格納します。  
デフォルトのコンテンツ格納先ディレクトリを次に示します。  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥PP¥uCPSB¥httdocs

コンテンツ格納先ディレクトリの注意事項

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs の直下に、「ucnp」で始まるファイルまたはディレクトリを作成しないでください。「ucnp」はナビゲーション プラットフォームのシステムで予約されている名称のためです。この名称のファイルまたはディレクトリを作成した場合の動作は保証しません。

3. ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の

ucnp.base.server.custom.menu プロパティに、HTML ファイルの格納先のパスを指定します。

プロパティの詳細は、「7.4.4(13) カスタマイズしたメニューの HTML ファイルの相対パス (ucnp.base.server.custom.menu)」を参照してください。

(1) カスタマイズしたメニュー領域のソース例

カスタマイズしたメニュー領域のソース例を次に示します。

## 6. ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ

```
<html>
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8">
  <script type="text/javascript" src="/ucnpBase/adportlets/ucnp/js/tools/
UcnpCustomTools.js"></script>
  <script type="text/javascript">
    function menu_onload() {
      var lContentId = ucnp_menu_get_contentId();
      if (lContentId !== null) {
        ucnp_menu_show_flow(lContentId);
      }
    };
  </script>
</head>

<body onload="menu_onload();" >
  <table border="0" cellspacing="0" cellpadding="0" style="width:100%;">
    <tr bgcolor="#00ccff"><td><font size="4"><b>顧客対応業務</b></font></td></tr>

    <tr bgcolor="#0033ff"><td></td></tr>
    <tr bgcolor="#0033ff"><td></td></tr>
    <tr><td><br></td></tr>
    <tr><td style="padding-left:14px;">
      <li><a href="javascript:void(0);" onclick="ucnp_menu_show_flow('「契
約情報の確認」の業務コンテンツID'); return false;">契約情報の確認</a></li>
    </td></tr>
    <tr><td style="padding-left:14px;">
      <li><a href="javascript:void(0);" onclick="ucnp_menu_show_flow('「契
約への問い合わせ」の業務コンテンツID'); return false;">契約への問い合わせ</a></li>
    </td></tr>
    <tr><td style="padding-left:14px;">
      <li><a href="javascript:void(0);" onclick="ucnp_menu_show_flow('「新
規契約受付」の業務コンテンツID'); return false;">新規契約受付</a></li>
    </td></tr>
  </table>
  <br>
  <table border="0" cellspacing="0" cellpadding="0" style="width:100%;">
    <tr bgcolor="#00ccff"><td><font size="4"><b>社内業務</b></font></td></tr>
    <tr bgcolor="#0033ff"><td></td></tr>
    <tr bgcolor="#0033ff"><td></td></tr>
    <tr><td><br></td></tr>
    <tr><td style="padding-left:14px;"><li><a href="http://****/****/
****.***" target="_blank">出張申請</a></li></td></tr>
    <tr><td style="padding-left:14px;"><li><a href="http://****/****/
****.***" target="_blank">備品申請</a></li></td></tr>
  </table>
</body>
</html>
```

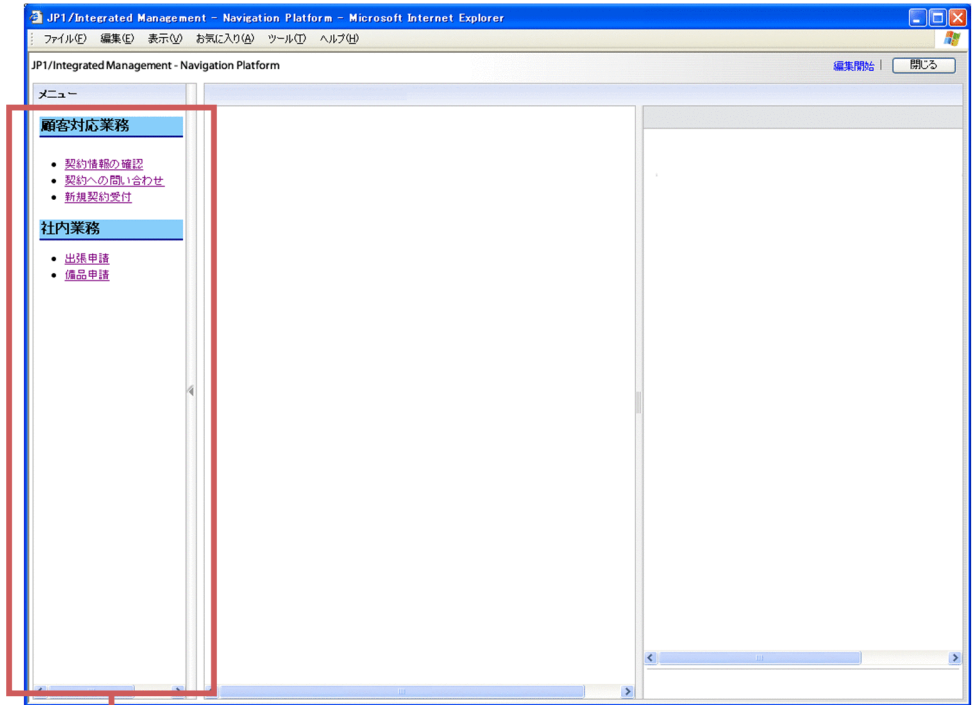
(凡例)

\*\*\*\* : 任意の文字列

### (2) カスタマイズしたメニュー領域の表示例

メニュー領域の表示形式をカスタマイズした場合の表示例を次に示します。

図 6-1 メニュー領域の表示形式をカスタマイズした場合の例



カスタマイズしたメニュー領域

### 6.1.2 メニュー領域の表示幅を変更する

業務実行画面のメニュー領域の表示幅は、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) でカスタマイズできます。カスタマイズに使用するプロパティや設定できる表示幅など、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の詳細については、「7.4 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の設定」を参照してください。

## 6.2 その他のカスタマイズ

---

ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の設定を変更することで、メニュー領域以外の領域もカスタマイズできます。カスタマイズの例を次に示します。

- 業務フロー領域、ガイド領域の表示幅を変更する
- ヘッダ領域に、HTML マニュアルを表示する [ヘルプ] メニューを追加する

カスタマイズに使用するプロパティや設定できる表示幅など、ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の詳細については、「7.4 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の設定」を参照してください。



# 7

## プロパティ

この章では、ナビゲーションプラットフォームのプロパティファイルについて説明します。プロパティファイルは、セットアップ時に作成します。

---

7.1 設定が必要なプロパティファイル

---

7.2 プロパティファイルの記述形式

---

7.3 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の設定

---

7.4 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の設定

---

## 7.1 設定が必要なプロパティファイル

システム構築時に設定が必要なプロパティファイルを次の表に示します。

ナビゲーション プラットフォームにはこのほかにプロパティファイルがありますが、ここで示したものの以外は編集しないでください。

また、サンプルファイルを基にプロパティファイルを作成することもできますが、この章で記載しているプロパティ以外は編集しないでください。

表 7-1 プロパティファイルの種類

種類	ファイル名	用途	参照先
ユーザセットアッププロパティファイル	ucnp_setup_user.properties	npsetup コマンド (セットアップ) の実行時に適用されるセットアップ情報を指定します。 • ポート番号	7.3
ユーザプロパティファイル	ucnp_user.properties	ナビゲーション プラットフォームの動作環境を指定します。 • リクエスト発信間隔 • 画面表示 など	7.4

### 注意事項

- 環境を構築する際、管理者としてプロパティファイルをコピーしてください。管理者としてコピーしないと、プロパティファイルがユーザフォルダにリダイレクトされるため、正しくコピーされません。また、設定値を変更するときには、エディタを [管理者として実行] で起動してから、プロパティファイルを編集してください。
- 画面などをカスタマイズするにはユーザプロパティファイルを編集します。プロパティの設定をナビゲーション プラットフォームに反映させるためには、ナビゲーション プラットフォームの再起動が必要です。npstop コマンド (停止) を実行したあと、npstart コマンド (起動) を実行してください。

## 7.2 プロパティファイルの記述形式

この節では、プロパティファイルの記述形式について説明します。記述形式は各プロパティファイルで共通です。

プロパティファイルは、Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。

### 7.2.1 プロパティファイルを記述する際の注意事項

プロパティファイルを記述する際の注意事項を次に示します。なお、説明中の「空白文字」は半角スペース、タブまたは改行を指します。

- プロパティキーと値の間には「:」または「=」を記述してください。
- プロパティキーの次の文字（空白文字を除く）が「:」または「=」の場合、その次の文字（空白文字を除く）から行末の文字までが値として解釈されます。
- プロパティキーの次の文字（空白文字を除く）が「:」または「=」でない場合、その文字から行末の文字までが値として解釈されます。
- 値の後ろに空白文字を付加した場合、値の一部と解釈されます。
- 値の中に「:」、「=」、「#」、または「!」が使用されている場合、値の一部と解釈されません。
- プロパティファイルの文字は、ISO 8859-1 (Latin1) でエンコードされます。ファイルの中に ISO 8859-1 以外の文字コードの文字が含まれる場合は、Java ツールの `native2ascii` などを使ってエンコードする必要があります。
- Windows の予約デバイス名 (CON, AUX, COM $n$  ( $n$ は 1 ~ 9), LPT $n$  ( $n$ は 1 ~ 9), PRN, NUL, CLOCK\$) は使用できません。
- 行頭文字に「#」または「!」を指定した場合、行全体がコメントと見なされます。
- 行頭に続く空白文字は無視されます。
- 指定した値の大文字と小文字は区別されます。

### 7.2.2 エスケープシーケンスの指定

指定できるエスケープシーケンスを次に示します。

表 7-2 エスケープシーケンス一覧

エスケープシーケンス	説明
¥t	タブ
¥n	ラインフィード (改行)
¥f	フォームフィード (改ページ)
¥r	キャリッジリターン (行頭復帰)
¥"	ダブル引用符 (" )

## 7. プロパティ

エスケープシーケンス	説明
¥'	シングル引用符 (')
¥¥	バックslash

エスケープシーケンスの注意事項を次に示します。

- 8進数の Unicode エスケープは認識されません。ただし、無効な Unicode エスケープを指定するとエラーになります。
- 無効なエスケープシーケンスを指定すると、「¥」を削除してその次の文字を通常文字と見なします。例えば、「¥v」というエスケープシーケンスを指定すると、「v」を指定したと見なされます。

## 7.3 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の設定

ユーザセットアッププロパティファイルの設定方法について説明します。

ユーザセットアッププロパティファイルを作成するには、サンプルファイルを所定のディレクトリにコピーして作成すると便利です。

### 7.3.1 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) のプロパティ一覧

ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 7-3 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の設定内容

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
1	ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port	Hitachi Web Server がリクエストを受け付けるポート番号	24700
2	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port	簡易 Web サーバのポート番号	24701
3	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port	J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号	24702
4	ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port	Web サーバとの通信に使用するポート番号	24703
5	ucnp.setup.server.db.port	データベースサーバのポート番号	24704
6	ucnp.setup.server.docb.osagent.port	スマートエージェントがリクエストを受け付けるポート番号	24709

### 7.3.2 ユーザセットアッププロパティファイルの格納先

ユーザセットアッププロパティファイルのサンプルファイルとプロパティファイルの格納先を次に示します。

- サンプルファイルの格納先  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥sample¥conf¥ucnp\_setup\_user.properties  
記述内容は、「7.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルの記述例」を参照してください。
- プロパティファイルの格納先  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥conf¥ucnp\_setup\_user.properties

### 7.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルの記述例

ユーザセットアッププロパティファイルの記述例を次に示します。

```
#####  
## All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, Hitachi, Ltd. ##  
## ##  
## Licensed Material of Hitachi, Ltd. ##  
## Reproduction, use, modification or disclosure otherwise than ##  
## permitted in the License Agreement is strictly prohibited. ##  
#####  
#ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port = 24700  
#ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port = 24701  
#ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port = 24702  
#ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port = 24703  
#ucnp.setup.server.db.port = 24704  
#ucnp.setup.server.docb.osagent.port = 24709
```

### 7.3.4 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細

ユーザセットアッププロパティファイルの各プロパティについて説明します。

#### プロパティで指定するポート番号の注意事項

ユーザセットアッププロパティファイルの各プロパティには、すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。ほかのアプリケーションのポート番号を変更するか、ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティを変更してください。

#### (1) Hitachi Web Server がリクエストを受け付けるポート番号 ( ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port )

Hitachi Web Server がリクエストを受け付けるポート番号を指定します。

指定できる値：1 ~ 65535 の整数値

デフォルト値：24700

#### (2) 簡易 Web サーバのポート番号 ( ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port )

簡易 Web サーバのポート番号を指定します。

指定できる値：1 ~ 65535 の整数値

デフォルト値：24701

- (3) J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号  
(ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port)
- J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号を指定します。
- 指定できる値 : 1 ~ 65535 の整数値
- デフォルト値 : 24702
- (4) Web サーバとの通信に使用するポート番号  
(ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port)
- Web サーバとの通信に使用するポート番号を指定します。
- 指定できる値 : 1 ~ 65535 の整数値
- デフォルト値 : 24703
- (5) データベースサーバのポート番号 (ucnp.setup.server.db.port)
- データベースサーバのポート番号を指定します。
- 指定できる値 : 5001 ~ 65535
- デフォルト値 : 24704
- (6) スマートエージェントがリクエストを受け付けるポート番号  
(ucnp.setup.server.docb.osagent.port)
- スマートエージェントがリクエストを受け付けるポート番号を指定します。
- 指定できる値 : 1 ~ 65535
- デフォルト値 : 24709

## 7.4 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の設定

ユーザプロパティファイルの設定方法について説明します。

### 7.4.1 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の プロパティ一覧

ユーザプロパティファイルのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 7-4 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の設定内容

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
1	ucnp.base.server.keepsession.interval	リクエスト発信間隔	240
2	ucnp.base.client.frame.resize.target	Web ブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域	guide
3	ucnp.base.client.menu.frame.width	メニュー領域の幅 (ピクセル単位)	190
4	ucnp.base.client.flow.frame.width	業務フロー領域の幅 (ピクセル単位)	500
5	ucnp.base.client.guide.frame.width	ガイド領域の幅 (ピクセル単位)	500
6	ucnp.base.client.editingarea.width	業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値 (ピクセル単位)	1500
7	ucnp.base.client.editingarea.height	業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値 (ピクセル単位)	1500
8	ucnp.base.server.custom.head.logo	ヘッダ領域のロゴ画像のパス	/ucnpBase/adportlets/ucnp/images/head_logo.gif
9	ucnp.base.server.custom.browser.title	Web ブラウザのタイトルバー文字列	JP1/Integrated Management - Navigation Platform
10	ucnp.base.server.custom.help	HTML マニュアルのパス	なし
11	ucnp.base.client.menu.frame.visible	業務実行画面のメニュー領域の表示有無	true
12	ucnp.base.client.flow.frame.visible	業務実行画面の業務フロー領域の表示有無	true
13	ucnp.base.server.custom.menu	カスタマイズしたメニューのHTML ファイルの相対パス	なし



項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
14	ucnp.base.server.htmlpart.css	HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス	なし
15	ucnp.base.client.terminal.display	業務実行画面のターミナルノードの表示有無	false
16	ucnp.base.client.directjump.enable	業務フローの直接遷移の設定	true
17	ucnp.base.client.currentnode.color	業務実行画面に表示する選択状態のプロセスノードの色	orange
18	ucnp.base.client.node.color	非選択状態 / 直接遷移可能状態のプロセスノードの色	gray
19	ucnp.base.client.directjump.design	直接遷移できるプロセスノードのデザイン	gradation
20	ucnp.base.client.autoscroll	業務フロー領域の自動スクロール可否	true
21	ucnp.base.client.complete.button.window.close	業務実行画面で [完了] ボタンをクリックしたときの Web ブラウザ動作	false
22	ucnp.base.client.back.button.width	業務実行画面の [戻る] ボタンの幅 (ピクセル単位)	60
23	ucnp.base.client.next.button.width	業務実行画面の [次へ] ボタンの幅 (ピクセル単位)	60
24	ucnp.base.client.complete.button.width	業務実行画面の [完了] ボタンの幅 (ピクセル単位)	60
25	ucnp.base.client.branch.button.width	業務実行画面で分岐合流ノードを経由して次のノードへ遷移するためのボタンの幅 (ピクセル単位)	130
26	ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable	一意の業務コンテンツ名称の指定可否	false
27	ucnp.base.client.grid.size	業務編集画面のグリッド間隔 (ピクセル単位)	10
28	ucnp.base.client.undo.max.count	[元に戻す] ボタンの対象操作履歴の最大保持数	10

## 7.4.2 ユーザプロパティファイルの格納先

ユーザプロパティファイルはセットアップ時に自動で作成されます。ユーザプロパティファイルの格納先を次に示します。

- プロパティファイルの格納先  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥conf¥ucnp\_user.properties

### 7.4.3 ユーザプロパティファイルの記述例

ユーザプロパティファイルの記述例を次に示します。

```
#####
## All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, Hitachi, Ltd.      ##
##                                                              ##
## Licensed Material of Hitachi, Ltd.                          ##
## Reproduction, use, modification or disclosure otherwise than ##
## permitted in the License Agreement is strictly prohibited.  ##
#####

#ucnp.base.server.keeptimeout.interval = 240
#ucnp.base.client.frame.resize.target = guide
#ucnp.base.client.menu.frame.width = 190
#ucnp.base.client.flow.frame.width = 500
#ucnp.base.client.guide.frame.width = 500
#ucnp.base.client.editingarea.width = 1500
#ucnp.base.client.editingarea.height = 1500
#ucnp.base.server.custom.head.logo = /custom/images/head_logo.gif
#ucnp.base.server.custom.browser.title = JP1/Integrated Management - Navigation
Platform
#ucnp.base.server.custom.help = http://localhost/custom/help/index.html
#ucnp.base.client.menu.frame.visible = true
#ucnp.base.client.flow.frame.visible = true
#ucnp.base.server.custom.menu = /menu/menu.html
#ucnp.base.server.htmlpart.css = /css/htmlpart.css
#ucnp.base.client.terminal.display = false
#ucnp.base.client.directjump.enable = true
#ucnp.base.client.currentnode.color = orange
#ucnp.base.client.node.color = gray
#ucnp.base.client.directjump.design = gradation
#ucnp.base.client.autoscroll = true
#ucnp.base.client.complete.button.window.close = false
#ucnp.base.client.back.button.width = 60
#ucnp.base.client.next.button.width = 60
#ucnp.base.client.complete.button.width = 60
#ucnp.base.client.branch.button.width = 130
#ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable = false
#ucnp.base.client.grid.size = 10
#ucnp.base.client.undo.max.count = 10
```

### 7.4.4 ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細

ユーザプロパティファイルの各プロパティについて説明します。

プロパティの値を変更する場合は、ユーザプロパティファイルのコメントアウトを外し、任意の値を指定してください。ここで説明しているデフォルト値は、セットアップ後にシステムで自動的に指定される値です。ファイル記載値は、ユーザプロパティファイルにコメントアウトで記載されている値で、デフォルト値とファイル記載値が異なる場合に記載しています。

#### (1) リクエスト発信間隔 (ucnp.base.server.keeptimeout.interval)

セッションを維持するために、リクエストを定期的に発信するリクエスト発信の間隔を指定します。

0 を指定すると、セッション維持のためのリクエストは発信されません。

指定できる値：0 または 60 ~ 3600 (単位：秒)

デフォルト値：240

## (2) Web ブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域 (ucnp.base.client.frame.resize.target)

Web ブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域を指定します。

指定できる値：

- flow：業務フロー領域の幅を変更する
- guide：ガイド領域の幅を変更する

デフォルト値：guide

### 補足事項

ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。この場合にプロパティで「flow」を指定しても、業務実行画面には業務フロー領域が表示されないため、ウィンドウサイズ変更時にはガイド領域の幅が変更されます。

## (3) メニュー領域の幅 (ucnp.base.client.menu.frame.width)

折りたたんでいない状態のメニュー領域の幅の初期値をピクセル単位で指定します。

なお、このプロパティに大きな値を指定すると、業務フロー領域またはガイド領域の幅の初期値が0 (ピクセル) となり、画面を起動したときに内容が表示されないことがあるので注意してください。

指定できる値：190 ~ 600 (単位：ピクセル)

デフォルト値：190 (単位：ピクセル)

### 補足事項

ucnp.base.client.menu.frame.visible プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。

## (4) 業務フロー領域の幅 (ucnp.base.client.flow.frame.width)

業務フロー領域の幅の初期値をピクセル単位で指定します。

このプロパティは、ucnp.base.client.frame.resize.target プロパティに「guide」を指定した場合だけ有効になります。ucnp.base.client.frame.resize.target プロパティに「flow」を指定した場合、業務フロー領域の幅の初期値は、Web ブラウザのウィンドウの幅、メニュー領域およびガイド領域の幅から自動計算され、このプロパティで指定され

## 7. プロパティ

た値は無視されます。

なお、このプロパティに大きな値を指定すると、ガイド領域の幅の初期値が0（ピクセル）となり、画面を起動したときに内容が表示されないことがあるので注意してください。

指定できる値：100 ~ 4000（単位：ピクセル）

デフォルト値：500（単位：ピクセル）

### 補足事項

`ucnp.base.client.flow.frame.visible` プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。

## (5) ガイド領域の幅（`ucnp.base.client.guide.frame.width`）

ガイド領域の幅の初期値をピクセル単位で指定します。

このプロパティは、`ucnp.base.client.frame.resize.target` プロパティに「flow」を指定した場合だけ有効になります。`ucnp.base.client.frame.resize.target` プロパティに「guide」を指定した場合、ガイド領域の幅の初期値は、Web ブラウザのウィンドウの幅、メニュー領域および業務フロー領域の幅から自動計算され、このプロパティで指定した値は無視されます。

なお、このプロパティに大きな値を指定すると、業務フロー領域の幅の初期値が0（ピクセル）となり、画面を起動したときに内容が表示されないことがあるので注意してください。

指定できる値：100 ~ 4000（単位：ピクセル）

デフォルト値：500（単位：ピクセル）

### 補足事項

`ucnp.base.client.flow.frame.visible` プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。

## (6) 業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値 （`ucnp.base.client.editingarea.width`）

業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値をピクセル単位で指定します。横に大きい業務コンテンツを作成する場合に、このプロパティの値を変更してください。

このプロパティで指定した値は業務フロー領域とガイド領域の両方に適用されます。各領域に対して、異なる値を設定することはできません。

指定できる値：1500 ~ 10000（単位：ピクセル）

デフォルト値：1500（単位：ピクセル）

## 補足事項

- 業務実行画面の業務フロー領域とガイド領域の幅は、このプロパティの値とパーツの配置によって変わります。
- このプロパティの値を小さくする場合は、変更後もすべてのパーツが業務フロー／ガイド領域内に収まることを確認してください。値の変更によって、既存のパーツが業務フロー／ガイド領域の外に配置された状態となった場合、そのパーツは画面に表示されないため、編集できなくなります。

## (7) 業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値

(ucnp.base.client.editingarea.height)

業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値をピクセル単位で指定します。縦に大きい業務コンテンツを作成する場合に、このプロパティの値を変更してください。

このプロパティで指定した値は業務フロー領域とガイド領域の両方に適用されます。各領域に対して、異なる値を設定することはできません。

指定できる値：1000 ~ 10000（単位：ピクセル）

デフォルト値：1500（単位：ピクセル）

## 補足事項

- 業務実行画面の業務フロー領域とガイド領域の高さは、このプロパティの値とパーツの配置によって変わります。
- このプロパティの値を小さくする場合は、変更後もすべてのパーツが業務フロー／ガイド領域内に収まることを確認してください。値の変更によって、既存のパーツが業務フロー／ガイド領域の外に配置された状態となった場合、そのパーツは画面に表示されないため、編集できなくなります。

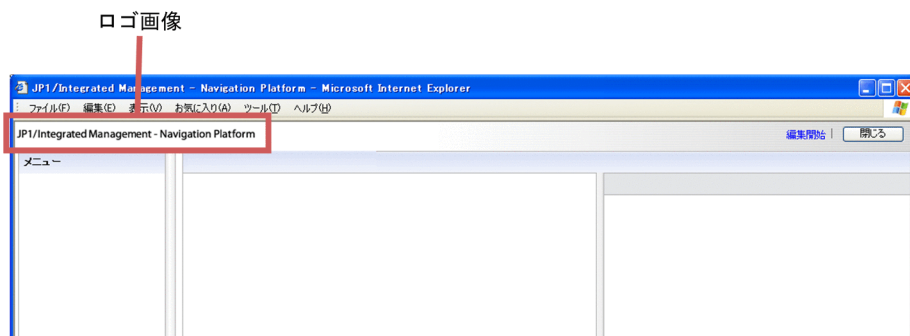
## (8) ヘッダ領域のロゴ画像のパス (ucnp.base.server.custom.head.logo)

ヘッダ領域のロゴ画像を変更する場合、画像のパスを指定します。Web ブラウザに表示できる形式のファイルで、高さ 30 × 幅 290 ピクセルの画像を指定してください。このプロパティを指定しない場合、ヘッダ領域のロゴ画像にはシステム標準の画像が表示されます。

システム標準のロゴ画像は次のとおりです。

## 7. プロパティ

図 7-1 ヘッダ領域のロゴ画像



### 指定できるパスの形式

使用するファイルの格納先が、ナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- ファイルパス  
ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パス

例として、「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥images¥ucnp.gif」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /images/ucnp.gif

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

- プロトコル:// ホスト名: ポート番号/ ファイルパス  
プロトコル：http または https  
ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号：Web サーバのポート番号  
ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「images」フォルダにある、「image1.gif」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/images/image1.gif

デフォルト値：なし

ファイル記載値：/custom/images/head\_logo.gif

補足事項

ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

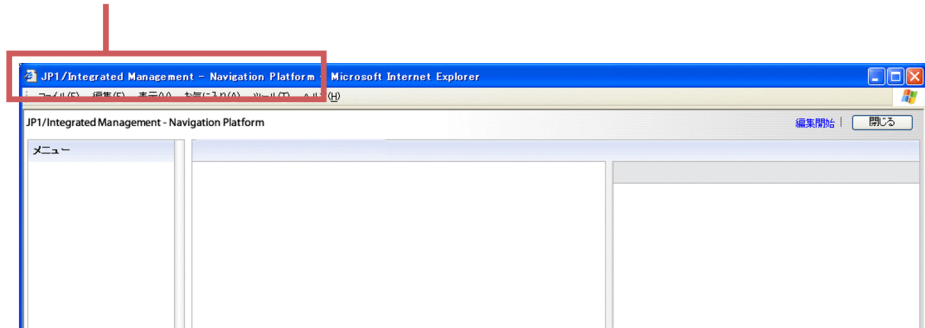
### (9) Web ブラウザのタイトルバー文字列 (ucnp.base.server.custom.browser.title)

Web ブラウザのタイトルバーに表示される文字列を指定します。文字列は引用符 (") で囲む必要はありません。このプロパティの値が空文字の場合、Web ブラウザのタイトルバーには URL が表示されます。

デフォルトのタイトルバー文字列は次のとおりです。

図 7-2 Web ブラウザのタイトルバー文字列

タイトルバー文字列



デフォルト値 : JP1/Integrated Management - Navigation Platform

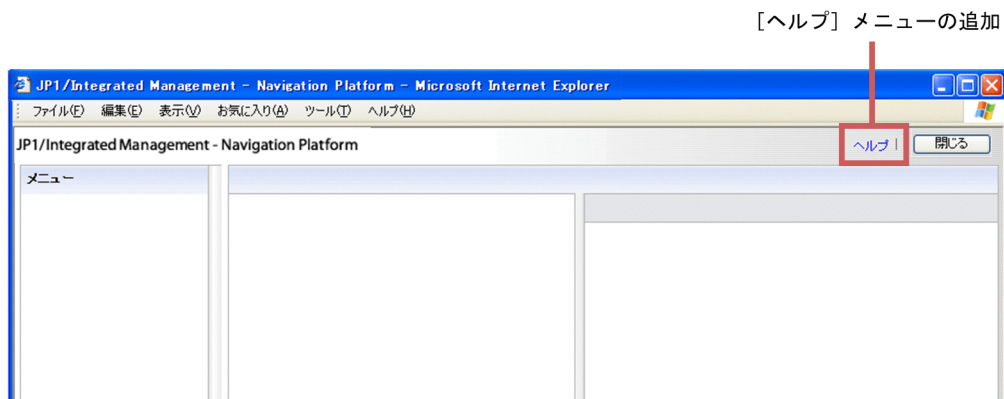
### (10) HTML マニュアルのパス (ucnp.base.server.custom.help)

画面に HTML マニュアルを登録したい場合、表示する HTML マニュアルのパスを指定します。パスを指定すると画面に [ヘルプ] メニューが表示され、そのメニューをクリックすると別ウィンドウで HTML マニュアルが参照できるようになります。

HTML マニュアルの登録画面は次のとおりです。

## 7. プロパティ

図 7-3 ヘッダ領域への HTML マニュアルの登録



### 指定できるパスの形式

HTML マニュアルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納した HTML マニュアルを指定する場合

- ファイルパス  
ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs）からの相対パス

例として、「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥help¥index.html」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /help/index.html

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納した HTML マニュアルを指定する場合

- プロトコル:// ホスト名: ポート番号/ ファイルパス  
プロトコル：http または https  
ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号：Web サーバのポート番号  
ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「help」フォルダにある、「index.html」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/help/index.html

デフォルト値：なし



ファイル記載値：http://localhost/custom/help/index.html

#### 補足事項

ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

### ( 11 ) 業務実行画面のメニュー領域の表示有無 ( ucnp.base.client.menu.frame.visible )

業務実行画面にメニュー領域を表示するかどうかを指定します。メニュー領域を非表示にすると、メニュー領域折りたたみボタンも非表示になります。

このプロパティで「false」を設定した場合、業務実行画面の利用者は業務コンテンツ ID を指定した URL でアクセスする必要があります。URL については、「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」を参照してください。

指定できる値：

- true：メニュー領域を表示する
- false：メニュー領域を表示しない

デフォルト値：true

### ( 12 ) 業務実行画面の業務フロー領域の表示有無 ( ucnp.base.client.flow.frame.visible )

業務実行画面に業務フロー領域を表示するかどうかを指定します。業務フロー領域を非表示にすると、リサイズバーも非表示になります。

指定できる値：

- true：業務フロー領域を表示する
- false：業務フロー領域を表示しない

デフォルト値：true

### ( 13 ) カスタマイズしたメニューの HTML ファイルの相対パス ( ucnp.base.server.custom.menu )

画面のメニュー領域をカスタマイズする場合、表示したい HTML ファイルを相対パスで指定します。このプロパティは、ucnp.base.client.menu.frame.visible プロパティに「true」を指定した場合だけ有効になります。

メニュー領域のカスタマイズについては、「6.1 メニュー領域のカスタマイズ」を参照してください。

設定できるパスの形式を次に示します。

- ファイルパス

## 7. プロパティ

ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs`）からの相対パス

例として、「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥menu¥menu.html`」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /menu/menu.html

デフォルト値：なし

ファイル記載値：/menu/menu.html

### 補足事項

ホスト名以外に「ucnp」を含むパスは設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

## (14) HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス (ucnp.base.server.htmlpart.css)

HTML パーツで使用する CSS ファイルのパスを指定します。

### 指定できるパスの形式

CSS ファイルへのパスを相対パスまたは絶対パスで指定できます。

#### 相対パスで指定する場合

- ファイルパス  
ファイルパス：Web サーバのコンテンツ格納先ディレクトリ（ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ `¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs`）からの相対パス

例として、「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥css¥htmlpart.css`」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- /css/htmlpart.css

#### 絶対パスで指定する場合

- プロトコル: // ホスト名: ポート番号 / ファイルパス  
プロトコル：http または https  
ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス  
ポート番号：Web サーバのポート番号  
ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

例として、プロトコルが「http」、ホスト名が「host1」、ポート番号が「55555」の Web サーバの「css」フォルダにある、「htmlpart.css」というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

- http://host1:55555/css/htmlpart.css

デフォルト値：なし

ファイル記載値：/css/htmlpart.css

補足事項

- CSS ファイルが指定したパスに存在しない場合、ユーザ定義の CSS ファイルは適用されません。また、Web サーバのアクセスログに「404」が出力されます。
- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定しないでください。設定した場合の動作は保証されません。

(15) 業務実行画面のターミナルノードの表示有無  
(ucnp.base.client.terminal.display)

業務実行画面にターミナルノードを表示するかどうかを指定します。

ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティに「true」を指定しても無視されるため、「false」を指定することを推奨します。「false」を指定すれば、「true」を指定するよりも処理速度が向上します。

指定できる値：

- true：ターミナルノードを表示する
- false：ターミナルノードを表示しない

デフォルト値：false

(16) 業務フローの直接遷移の設定 (ucnp.base.client.directjump.enable)

業務実行画面でプロセスノードをクリックした時、そのプロセスノードへ遷移するかどうかを指定します。また、遷移できる範囲についても選択できます。

ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティに「true」または「all」を指定しても無視されるため、「false」を指定することを推奨します。「false」を指定すれば、「true」または「all」を指定するよりも処理速度が向上します。

指定できる値：

- true：一度遷移したことがあるプロセスノードにだけ直接遷移する
- all：すべてのプロセスノードに直接遷移する
- false：直接遷移しない

デフォルト値：true

補足事項

プロパティに「true」を指定した場合

- 業務フローを戻って別の分岐へ遷移したとき、元の分岐のプロセスノードには遷移できません。
- 終点のターミナルノードへ遷移すると、すべてのプロセスノードに遷移でき

## 7. プロパティ

なくなります。

プロパティに「all」を指定した場合

- ガイド領域の [ 戻る ] ボタンが表示されなくなります。
- 終点のターミナルノードへ遷移しても、すべてのプロセスノードに遷移できません。

### (17) 業務実行画面に表示する選択状態のプロセスノードの色 (ucnp.base.client.currentnode.color)

業務実行画面に表示する選択状態のプロセスノードの色を指定します。どのノードが選択状態かをわかりやすくするために、このプロパティには、ucnp.base.client.node.color プロパティの値と異なる値を設定することを推奨します。

指定できる値：

- orange



- pink



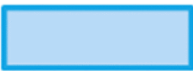
- green



- purple



- blue



- gray



デフォルト値：orange

(18) 非選択状態 / 直接遷移可能状態のプロセスノードの色  
(ucnp.base.client.node.color)

業務実行画面および業務編集画面に表示するプロセスノードの色を指定します。どのノードが選択状態かをわかりやすくするために、このプロパティには、ucnp.base.client.currentnode.color プロパティの値と異なる値を設定することを推奨します。

指定できる値：

- orange



- pink



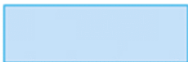
- green



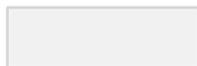
- purple



- blue



- gray



デフォルト値：gray

(19) 直接遷移できるプロセスノードのデザイン  
(ucnp.base.client.directjump.design)

直接遷移できるプロセスノードのデザインを指定します。

指定できる値：

- gradation：プロセスノードの色をグラデーションありにする

## 7. プロパティ



- flat : プロセスノードの色をグラデーションなしにする



デフォルト値 : gradation

### 補足事項

- 画像を配置したプロセスノードは、このプロパティの指定値に関係なく、次のように「flat」のデザインになります。



- 業務フローの中に画像を配置したプロセスノードと画像を配置しないプロセスノードが混在する場合、全体のデザインを統一したいときは、「flat」を指定してください。
- 業務フローの中に画像を配置したプロセスノードと画像を配置しないプロセスノードが混在しない場合でも、このプロパティは有効です。
- ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「true」を指定した場合だけ有効になります。

## (20) 業務フロー領域の自動スクロール可否 (ucnp.base.client.autoscroll)

業務フロー領域を自動的にスクロールするかどうかを指定します。

ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティに「true」を指定しても無視されるため、「false」を指定することを推奨します。

「false」を指定すれば、「true」を指定するよりも処理速度が向上します。

このプロパティで「true」を設定した場合、業務フロー領域が自動的にスクロールされ、常に現在の工程が表示されるようになります。

指定できる値 :

- true : 自動スクロールをする
- false : 自動スクロールをしない

デフォルト値 : true

(21) 業務実行画面で [ 完了 ] ボタンをクリックしたときの Web ブラウザ動作  
(ucnp.base.client.complete.button.window.close)

業務実行画面で [ 完了 ] ボタンをクリックしたときに Web ブラウザを閉じるかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：Web ブラウザを閉じる
- false：Web ブラウザを閉じない

デフォルト値：false

補足事項

- Web ブラウザを閉じるかどうかの確認メッセージは表示されません。
- Internet Explorer 7, Internet Explorer 8 または Internet Explorer 9 で複数のタブを表示している場合は, [ 完了 ] ボタンをクリックした業務実行画面のタブだけが閉じます。
- このプロパティで「true」を設定していても, 業務実行画面で印刷プレビューを実行すると, Web ブラウザが閉じないことがあります。その場合は手動で Web ブラウザを閉じる必要があります。

(22) 業務実行画面の [ 戻る ] ボタンの幅 (ucnp.base.client.back.button.width)

業務実行画面の [ 戻る ] ボタンの幅をピクセル単位で指定します。

指定できる値：30 ~ 260 (単位：ピクセル)

デフォルト値：60 (単位：ピクセル)

補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合, ボタン名は途中までしか表示されません。

(23) 業務実行画面の [ 次へ ] ボタンの幅 (ucnp.base.client.next.button.width)

業務実行画面の [ 次へ ] ボタンの幅をピクセル単位で指定します。

指定できる値：30 ~ 260 (単位：ピクセル)

デフォルト値：60 (単位：ピクセル)

補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合, ボタン名は途中までしか表示されません。

## 7. プロパティ

### (24) 業務実行画面の [ 完了 ] ボタンの幅 ( ucnp.base.client.complete.button.width )

業務実行画面の [ 完了 ] ボタンの幅をピクセル単位で指定します。

指定できる値：30 ~ 260 ( 単位：ピクセル )

デフォルト値：60 ( 単位：ピクセル )

#### 補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合、ボタン名は途中までしか表示されません。

### (25) 業務実行画面で分岐合流ノードを経由して次のノードへ遷移するためのボタンの幅 ( ucnp.base.client.branch.button.width )

業務実行画面で分岐合流ノードの前のプロセスノードを選択した場合に表示される、次のノードへ遷移するためのボタンの幅をピクセル単位で指定します。なお、このプロパティは、分岐先が一つしかないプロセスノードに対しては適用されません。

指定できる値：30 ~ 260 ( 単位：ピクセル )

デフォルト値：130 ( 単位：ピクセル )

#### 補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合、ボタン名は途中までしか表示されません。

### (26) 一意の業務コンテンツ名称の指定可否 ( ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable )

次の場合に、業務コンテンツの名称を一意にするかどうかを指定します。

- 業務編集画面で業務コンテンツを作成または複製する場合
- 業務編集画面で業務コンテンツの名称を変更する場合
- 業務コンテンツをインポートする場合

指定できる値：

- true：業務コンテンツの名称を一意にする
- false：業務コンテンツ名称の重複を許容する

デフォルト値：false

#### 補足事項

業務コンテンツ名称の重複を許容する環境から、許容しない環境に変更する場合、業務編集画面で業務コンテンツの名称が重複していないかをチェックする必要があります。業務コンテンツ名称の重複を許容する環境から許容しない環境に変更する手順を次に示します。

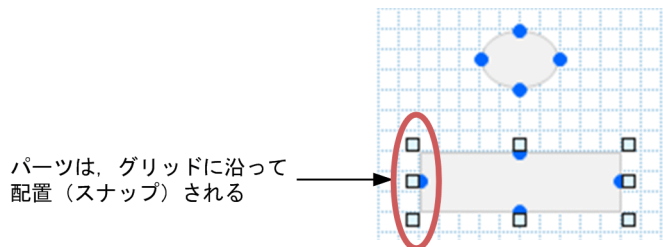


## 手順

1. 業務コンテンツ名称の重複を許容しない環境に変更します。  
ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティを true に変更します。そのあと、ナビゲーション プラットフォームを再起動してください。
2. 業務コンテンツの名称を一意に変更します。  
ナビゲーション プラットフォームにアクセスし、業務編集画面を表示します。そのあと、業務コンテンツの名称を変更してください。
3. 業務コンテンツの名称が重複していないかチェックします。  
npexport コマンドですべての業務コンテンツをエクスポートしてください。そのあと、同じ環境で npimport コマンドに -d オプションを指定して、エクスポートしたコンテンツをインポートします。  
インポート時に業務コンテンツの名称が重複していないかがチェックされます。エラーが発生した場合、手順 2. からやり直してください。

## (27) 業務編集画面のグリッド間隔 (ucnp.base.client.grid.size)

業務編集画面のグリッド間隔を指定します。業務編集画面に配置したパーツは、このグリッド間隔を基準にスナップされます。



指定できる値：

- 0：スナップ処理は実行されない
- 5：5 ピクセル
- 10：10 ピクセル
- 20：20 ピクセル

デフォルト値：10（単位：ピクセル）

## (28) [元に戻す] ボタンの対象操作履歴の最大保持数 (ucnp.base.client.undo.max.count)

[元に戻す] ボタンの対象操作履歴の最大保持数を指定します。つまり、このプロパティで指定した値は、[元に戻す] ボタンが有効になる最大の回数になります。

指定できる値：1 ~ 100

デフォルト値：10



# 8

## コマンド

この章では、ナビゲーションプラットフォームのコマンドについて説明します。

---

8.1 コマンドの概要

---

8.2 npdatabackup コマンド (環境退避)

---

8.3 npdatarestore コマンド (環境復元)

---

8.4 npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート)

---

8.5 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)

---

8.6 npreorg コマンド (データベース再編成)

---

8.7 npsetup コマンド (セットアップ)

---

8.8 npstart コマンド (起動)

---

8.9 npstop コマンド (停止)

---

8.10 npunsetup コマンド (アンセットアップ)

---

8.11 npsnapshotlog コマンド (トラブルシュート情報の収集)

---

## 8.1 コマンドの概要

ここでは、ナビゲーション プラットフォームのコマンドの一覧を示します。また、コマンドを実行するに当たっての注意事項について説明します。

### 8.1.1 コマンド一覧

ナビゲーション プラットフォームのコマンドを次の表に示します。

表 8-1 ナビゲーション プラットフォームのコマンド一覧

項番	種類	コマンド名	機能概要
1	セットアップ時に使用するコマンド	npsetup コマンド	ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。
2		npunsetup コマンド	ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。
3	システム運用時に使用するコマンド	npstart コマンド	ナビゲーション プラットフォームを起動します。
4		npstop コマンド	ナビゲーション プラットフォームを停止します。
5		npreorg コマンド	ナビゲーション プラットフォームのデータベースを再編成します。
6		npdatabackup コマンド	ナビゲーション プラットフォームに関するデータのバックアップを取得します。
7		npdatarestore コマンド	バックアップされたデータを基にナビゲーション プラットフォームの環境を再構築します。
8		npexport コマンド	保存済みの業務コンテンツを ZIP 形式でエクスポートします。
9		npimport コマンド	npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）でエクスポートした業務コンテンツをインポートします。
10		npsnapshotlog コマンド	ナビゲーション プラットフォームに関するログおよび環境設定ファイルを取得します。

### 8.1.2 全コマンド共通の注意事項

ここでは、全コマンド共通の注意事項を説明します。次に示す内容を守らなかった場合、エラーが発生していなくても動作は保証されません。

- Windows の管理者権限を持つユーザで、コマンドプロンプトを [ 管理者として実行 ] で実行してください。
- npsnapshotlog コマンド（トラブルシュート情報の収集）以外のコマンドは、複数同時に実行しないでください。ただし、npsnapshotlog コマンドの場合も、複数の

npsnapshotlog コマンドを同時に実行することはできません。

- コマンド実行時に表示されるコマンドプロンプトを停止したり、コマンドを強制的に終了したりしないでください。
- ナビゲーション プラットフォームをインストールしたときに自動的に設定された環境変数以外の環境変数には、「UCNP」で始まる名称を付けしないでください。

## 8.2 npdatabackup コマンド（環境退避）

### 機能

ナビゲーション プラットフォームの環境を退避（バックアップ）します。このコマンドはシステムが停止している状態で実行する必要があります。

このコマンドで退避できるデータを次に示します。

表 8-2 バックアップされるデータ

項番	データ	格納先
1	業務コンテンツのデータ	バックアップ先ディレクトリ¥contents.zip
2	業務コンテンツのデータの一覧	バックアップ先ディレクトリ¥contentslist.txt
3	業務コンテンツやメニュー領域のカスタマイズなどで使用している静的ファイル	バックアップ先ディレクトリ ¥JP1IMNP¥PP¥uCPsB¥httpsd¥htdocs¥
4	ナビゲーション プラットフォームに関する設定ファイル（プロパティファイルなど）	バックアップ先ディレクトリ¥JP1IMNP¥conf¥
5	ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリのパス情報	バックアップ先ディレクトリ¥installpath.txt
6	ナビゲーション プラットフォームのバージョン情報	バックアップ先ディレクトリ ¥JP1IMNP¥sysconf¥ucnpversion.properties

### 注

- バックアップ先ディレクトリには、この表に示した以外のディレクトリやファイルも格納されますが、編集しないでください。
- バックアップされたファイルおよびディレクトリは、元のデータの属性（読み取り属性など）を引き継ぎます。ただし、ファイルのアーカイブ属性、ファイルおよびディレクトリの非インデックス対象ファイル属性は引き継がれません。

### 形式

npdatabackup バックアップ先ディレクトリのパス

ディレクトリは、絶対パス・相対パスのどちらでも指定できます。パスが長過ぎると処理に失敗することがあるため、パスの長さはナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリよりも短くなるように指定することを推奨します。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン（:）と相対パスを表す半角ピリオド（.）だけです。

### 注意事項

- バックアップ先には、30MB 以上の空き容量がある、空のディレクトリを指定する必要があります。
- 必要な空き容量は、業務コンテンツの数および内容によって異なります。業務コンテ

ツで静的ファイルを使用している場合は、ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs 以下の容量分も加えて、空き容量を確保する必要があります。

- バックアップ先ディレクトリのパスには、ネットワークドライブ以外を指定してください。
- バックアップ先ディレクトリのパスに、ショートネームは使用できません。
- コマンドが正常終了した場合（戻り値が0の場合）も、ナビゲーションプラットフォームは停止したままとなるため、npstart コマンド（起動）でナビゲーションプラットフォームを起動してください。
- バックアップ処理完了後は、バックアップ先ディレクトリ内のディレクトリおよびファイルの内容や属性を変更しないでください。変更した場合、環境復元（リストア）の動作は保証されません。

#### 戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーションプラットフォームの環境退避（バックアップ）に成功した。
1	ナビゲーションプラットフォームの環境退避（バックアップ）に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

#### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

#### 使用例

バックアップ先ディレクトリが「C:¥temp¥backupdata」の場合の例です。

```
> ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatabackup
C:¥temp¥backupdata
```

## 8.3 npdatarestore コマンド（環境復元）

### 機能

npdatabackup コマンド（環境退避）でバックアップしたデータを利用して、ナビゲーション プラットフォームの環境を復元（リストア）します。このコマンドはシステムが停止している状態で実行する必要があります。

このコマンドを実行すると、既存のデータが削除または上書きされて、npdatabackup コマンドでバックアップしたデータに置き換わります。npdatabackup コマンドでバックアップされるデータについては、表 8-2 を参照してください。

### 形式

npdatarestore *バックアップデータの格納ディレクトリのパス*

npdatabackup コマンド実行時に指定したバックアップ先ディレクトリを、そのままバックアップデータの格納ディレクトリ（リストア元ディレクトリ）として使用することを推奨します。

ディレクトリは、絶対パス・相対パスのどちらでも指定できます。パスが長過ぎると処理に失敗することがあるため、パスの長さはナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリよりも短くなるように指定することを推奨します。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン（:）と相対パスを表す半角ピリオド（.）だけです。

### 注意事項

- リストアする環境に必要な空き容量は、業務コンテンツの数および内容によって異なります。業務コンテンツで静的ファイルを使用している場合は、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥htpsd¥htdocs 以下の容量以上の空き容量を確保する必要があります。
- リストア元ディレクトリのパスには、ネットワークドライブ以外を指定してください。
- リストア元ディレクトリのパスに、ショートネームは使用できません。
- リストア元に、npdatabackup コマンドで取得したデータ以外のデータが格納されたディレクトリを指定した場合は、エラーとなります。
- バックアップ時とリストア時のナビゲーション プラットフォームのバージョン、リビジョン、および限定コードは、すべて同じである必要があります。  
バックアップ時のバージョン情報については、バックアップ先ディレクトリ ¥JP1IMNP¥sysconf¥ucnpversion.properties で確認できます。
- バックアップ時とリストア時のナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリは、同じである必要があります。  
バックアップ時のインストールディレクトリは、バックアップ先ディレクトリ ¥installpath.txt で確認できます。



- コマンドが正常終了した場合（戻り値が0の場合）、ナビゲーションプラットフォームは自動的に起動するため、npstart コマンド（起動）を実行する必要はありません。
- このコマンドの標準出力および標準エラー出力は、ファイルにリダイレクトしないでください。リダイレクトすると、システムを停止するまでそのファイルを更新または削除できません。また、このコマンドを実行後に同じファイルにリダイレクトすると、処理に失敗してエラーメッセージが表示されます。

#### 戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーションプラットフォームの環境復元（リストア）に成功した。
1	ナビゲーションプラットフォームの環境復元（リストア）に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

#### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

#### 使用例

リストア元ディレクトリが「C:¥temp¥backupdata」の場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatarestore
C:¥temp¥backupdata
```

## 8.4 npexport コマンド ( 業務コンテンツのエクスポート )

---

### 機能

保存された業務コンテンツを ZIP 形式でエクスポートします。

このコマンドは、セットアップ完了後、システムが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは、管理者として開いてください。

なお、業務コンテンツが作成されていない状態でこのコマンドを実行した場合、業務コンテンツ数が 0 のファイルがエクスポートされます。

### 形式

```
npexport [-c エクスポートしたい業務コンテンツID] [-I エクスポート一覧ファイルのパス] エクスポート先のファイルのパス
```

エクスポート先のファイルのパスは、200 文字以内の絶対パスまたは相対パスで指定します。出力されるファイルの形式は ZIP 形式です。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン(:)と相対パスを表す半角ピリオド(.)だけです。

なお、誤操作で重要なシステムファイルを削除することを防止するために、エクスポート先には、ドライブ直下ではないディレクトリを指定することを推奨します。

### オプション

#### -c エクスポートしたい業務コンテンツ ID

特定の業務コンテンツだけエクスポートしたい場合は、エクスポートしたい業務コンテンツの業務コンテンツ ID を指定します。省略すると、登録されているすべての業務コンテンツがエクスポートされます。

#### -I エクスポート一覧ファイルのパス

エクスポート一覧ファイルのパスを絶対パスまたは相対パスで指定します。このオプションを指定すると、エクスポートされた業務コンテンツの一覧がテキストファイルとして出力されます。

#### エクスポート一覧ファイルの形式

ファイルの先頭にヘッダ情報が出力され、続いて、次の形式でメッセージが出力されません。

```
[結果種別]<T>[業務コンテンツID]<T>[業務コンテンツの更新日時]<T>[業務コンテンツ名称]<CR><LF>
```

<T> : タブ文字

<CR><LF> : 終端文字 ( 0x0D , 0x0A )

メッセージの詳細を次の表に示します。

表 8-3 エクスポート一覧ファイルに出力されるメッセージの詳細

項目	説明
結果種別	npexport コマンド ( 業務コンテンツのエクスポート ) の実行結果の種別が出力されます。 exported 業務コンテンツがエクスポートされました。
業務コンテンツ ID	エクスポートした業務コンテンツ ID が出力されます。
業務コンテンツの更新日時	エクスポートした業務コンテンツの最終更新日時が出力されます。 形式 : YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS
業務コンテンツ名称	エクスポートした業務コンテンツの名称が出力されます。

#### 注意事項

- 出力先として指定したファイルと同じ名前のファイルがすでにそのディレクトリに存在している場合はエラーとなり、エクスポートできません。存在していないファイルを指定してください。
- ファイルのパスは、ネットワークドライブ以外を指定してください。
- エクスポートする業務コンテンツの容量に対して、エクスポート先のディスクの空き容量が不十分だった場合、このコマンドは異常終了します。
- 出力したファイルの内容を変更しないでください。出力したファイルの内容を変更してインポートした場合、動作は保証されません。

#### 戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。または、エクスポート対象の業務コンテンツが存在しなかったため警告終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

#### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 ( < Ctrl > キーと < C > キーを同時に押して強制終了した場合など ) の戻り値は不定となります。

#### 使用例

##### 例 1

エクスポート先のファイルのパスが「C:\repository.zip」の場合に、業務コンテンツをエクスポートする例を次に示します。

## 8. コマンド

```
> ナビゲーション      プラットフォームインストールディレクトリ %bin%\npexport  
C:%repository.zip
```

### 例 2

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:%repository.zip」である。
- 指定した業務コンテンツ ID ( d93ffb81-011e-1000-8000-00000ad23cb0-0 ) の業務コンテンツをエクスポートする。

```
> ナビゲーション      プラットフォームインストールディレクトリ %bin%\npexport      -c  
d93ffb81-011e-1000-8000-00000ad23cb0-0 C:%repository.zip
```

### 例 3

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:%repository.zip」である。
- エクスポート後に出力するエクスポート一覧ファイルのパスを「C:%list.txt」とする。

```
> ナビゲーション      プラットフォームインストールディレクトリ %bin%\npexport      -l C:%list.txt  
C:%repository.zip
```

## 8.5 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)

---

### 機能

npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) でエクスポートした業務コンテンツをインポートします。デフォルトではインポート対象の業務コンテンツを既存の業務コンテンツに追加します。既存の業務コンテンツの中に、インポート対象の業務コンテンツがすでに存在する場合はエラーとなります。

既存データへの追加ではなくインポートするデータで置き換える場合には、`-d` オプションを指定してください。

業務コンテンツを強制登録する場合は、`-f` オプションを指定してください。

なお、このコマンドは、セットアップ完了後、システムが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは、管理者として開いてください。

### 形式

```
npimport [-d] [-f] [-i インポート一覧ファイルのパス] インポートしたいファイルのパス
```

インポートしたいファイルのパスは、200 文字以内の絶対パスまたは相対パスで指定します。必ず、npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) でエクスポートしたファイル (ZIP 形式) を指定してください。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン (:) と相対パスを表す半角ピリオド (.) だけです。

### オプション

`-d`

インポートする前に、すべての業務コンテンツを削除します。

このオプションを指定しない場合は、既存の業務コンテンツにインポートした業務コンテンツを追加します。既存の業務コンテンツをインポートした業務コンテンツで置き換える場合は、このオプションを指定してください。

オプション「`-d`」「`-f`」を同時に指定した場合、「`-f` (強制登録)」は実行されません。

### ポイント

---

このオプションを指定して、業務コンテンツ数が 0 の ZIP ファイルをインポートすると、登録されているすべての業務コンテンツが削除されます。多数の業務コンテンツを一括で削除したい場合に便利です。

---

`-f`

## 8. コマンド

インポート元の業務コンテンツのデータが上書きされます（強制登録）。ID が同じ業務コンテンツがすでに保存されている場合は、必ずこのオプションを指定してください。指定しないと、ID が同じ業務コンテンツがすでに保存されている場合はエラーとなり、インポートに失敗します。

なお、オプション「-d」「-f」を同時に指定した場合、「-f（強制登録）」は実行されません。

---

### ポイント

npimport コマンドを実行する場合は、業務コンテンツの名称ではなく、ID を意識する必要があります。業務コンテンツの ID は、次の方法で確認できます。

- オプション「-l」を指定して npexport コマンドを実行して、出力される一覧ファイルを確認する。
- 業務編集画面で ID を確認したい業務コンテンツを表示し、メニュー領域の [ ID 取得 ] メニューをクリックする。

業務コンテンツを名称で管理したい場合は、ユーザプロパティファイル（ucnp\_user.properties）の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティに「true」を設定すると、重複した名称を設定できなくなるため、業務コンテンツを名称で管理しやすくなります。

---

### ┆ インポート一覧ファイルのパス

インポート一覧ファイルのパスを絶対パスまたは相対パスで指定します。

このオプションを指定すると、追加、更新、または削除された業務コンテンツの一覧がテキストファイルとして出力されます。

### インポート一覧ファイルの形式

ファイルの先頭にヘッダ情報が出力され、続いて、次の形式でメッセージが出力されません。

```
[結果種別]<T>[業務コンテンツID]<T>[業務コンテンツの更新日時]<T>[業務コンテンツ名称]<CR><LF>
```

<T>：タブ文字

<CR><LF>：終端文字（0x0D，0x0A）

メッセージの詳細を次の表に示します。

表 8-4 インポート一覧ファイルに出力されるメッセージの詳細

項目	説明
結果種別	npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）の実行結果の種別が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• added 業務コンテンツが新規に追加されました。</li> <li>• modified 業務コンテンツが更新されました。</li> <li>• deleted 業務コンテンツが削除されました。</li> </ul>
業務コンテンツ ID	インポートした業務コンテンツ ID が出力されます。
業務コンテンツの更新日時	インポートした業務コンテンツの最終更新日時が出力されます。 形式：YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS
業務コンテンツ名称	インポートした業務コンテンツの名称が出力されます。

## 注

同じ業務コンテンツ ID の業務コンテンツを、-d オプションの指定によって削除してからインポートした場合、結果種別は「modified」となります。

## 注意事項

- このコマンドを実行する前に、npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）で自環境の業務コンテンツのバックアップを取得しておくことを推奨します。
- ファイルのパスは、ネットワークドライブ以外を指定してください。
- インポートする業務コンテンツの容量に対して、インポート先のディスクの空き容量が不十分だった場合、このコマンドは異常終了します。
- サーバ運用中にこのコマンドを実行すると、コマンドのデータ処理がサーバのデータ処理をブロックするため、性能が低下します。
- コマンド実行時にエラーが発生した場合は、インポート処理が一部だけ反映された状態になっています。エラーの原因を取り除いて再度コマンドを実行してください。  
-d オプション、-f オプションを指定してコマンドを実行した場合は、同じオプションを指定して、再度コマンドを実行してください。-d オプション、-f オプションの両方とも指定していなかった場合は、-f オプションを指定して、再度コマンドを実行してください。
- -l オプションを指定してコマンドを実行し、エラーが発生した場合は、エラー発生時に出力されたインポート一覧ファイルの内容と、エラーの原因を取り除いて再度コマンドを実行したときに出力されたインポート一覧ファイルの内容を合わせて、インポート一覧ファイルとして利用してください。
- ユーザプロパティファイル（ucnp\_user.properties）の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティ（一意の業務コンテンツ名称の指定可否）が true の場合、業務フローの名称が一意にならないときはエラーとなります。

## 8. コマンド

### 戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

### 使用例

#### 例 1

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥repository.zip」である。
- 同じ業務コンテンツがすでに保存されている場合、強制登録しない。

```
> ナビゲーション      プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npimport  
C:¥repository.zip
```

#### 例 2

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥repository.zip」である。
- 同じ業務コンテンツがすでに保存されている場合、強制登録する。

```
> ナビゲーション      プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npimport      -f  
C:¥repository.zip
```

#### 例 3

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥repository.zip」である。
- すべての業務コンテンツを削除してからインポートする。

```
> ナビゲーション      プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npimport      -d  
C:¥repository.zip
```

#### 例 4

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥repository.zip」である。
- インポート後に出力するインポート一覧ファイルのパスを「C:¥list.txt」とする。



```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %bin%\npimport -l C:%list.txt  
C:%repository.zip
```

## 8.6 npreorg コマンド (データベース再編成)

### 機能

ナビゲーション プラットフォームのデータベースを再編成します。

### 形式

npreorg

### 注意事項

- このコマンドを実行する前に、次のことを実施してください。
  - npstop コマンド (停止) でナビゲーション プラットフォームを停止させる。
  - ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリのドライブに 1,200MB 以上の空き容量を確保する。
- コマンドが異常終了した場合 (戻り値が 0 以外の場合) は、ほかの操作をする前に再度 npreorg コマンドを実行してください。ほかの操作をしてしまうと、データベースの状態が不正になるおそれがあります。

### 戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームのデータベース再編成に成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームのデータベース再編成に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl > キーと < C > キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

### 使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npreorg
```

## 8.7 npsetup コマンド ( セットアップ )

### 機能

ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。セットアップ完了後は、自動的にナビゲーション プラットフォームが起動します。

### 形式

npsetup

### 注意事項

- ポート番号を変更する場合は、このコマンドを実行する前に、ユーザセットアッププロパティファイルを編集してください。ユーザセットアッププロパティファイルの詳細は、「7.3 ユーザセットアッププロパティファイル ( ucnp\_setup\_user.properties ) の設定」を参照してください。
- このコマンドを実行すると、デフォルト値のユーザプロパティファイル ( ucnp\_user.properties ) の設定されます。そのため、ユーザプロパティファイルの編集はこのコマンドの実行後に実施してください。再セットアップの場合は、あらかじめ既存のユーザプロパティファイルのバックアップを取得しておくことをお勧めします。ユーザプロパティファイルの詳細は、「7.4 ユーザプロパティファイル ( ucnp\_user.properties ) の設定」を参照してください。
- インストール後に、セットアップ対象のナビゲーション プラットフォームのディレクトリおよびファイルが移動、編集または削除されていないことを確認してください。
- セットアップに失敗した場合は、npunsetup コマンド ( アンセットアップ ) を実行し、要因を取り除いてからコマンドを再実行してください。
- このコマンドの標準出力および標準エラー出力は、ファイルにリダイレクトしないでください。リダイレクトすると、システムを停止するまでそのファイルを更新または削除できません。また、このコマンドを実行後に同じファイルにリダイレクトすると、処理に失敗してエラーメッセージが表示されます。

### 戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームのセットアップに成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームのセットアップに失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 ( < Ctrl > キーと < C > キーを同時に押して強制終了した場合など ) の戻り値は不定となります。

## 8. コマンド

### 使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsetup
```

## 8.8 npstart コマンド（起動）

### 機能

ナビゲーション プラットフォームを起動します。

### 形式

npstart

### 注意事項

このコマンドの標準出力および標準エラー出力は、ファイルにリダイレクトしないでください。リダイレクトすると、システムを停止するまでそのファイルを更新または削除できません。また、このコマンドを実行後に同じファイルにリダイレクトすると、処理に失敗してエラーメッセージが表示されます。

### 戻り値

戻り値	説明
0	起動に成功した。
1	起動に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

### 使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstart
```

## 8.9 npstop コマンド (停止)

### 機能

ナビゲーション プラットフォームを停止します。このコマンドは、ナビゲーション プラットフォームの起動または停止に失敗した状態で使用することもできます。

### 形式

npstop [-f]

### オプション

#### -f

ナビゲーション プラットフォームを強制的に停止します。このオプションを指定すると、処理中にエラーが発生していても、コマンドは正常終了します。

ただし、ナビゲーション プラットフォームの状態が不正な場合、または「8.1.2 全コマンド共通の注意事項」に従っていない場合は、このオプションを指定していてもコマンドが異常終了することがあります。

### 注意事項

オプションなしでこのコマンドを実行してもナビゲーション プラットフォームを停止できない場合だけ、-f オプションを使用するようにしてください。

### 戻り値

戻り値	説明
0	停止に成功した。
1	停止に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl > キーと < C > キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

### 使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop
```

## 8.10 npunsetup コマンド (アンセットアップ)

### 機能

ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。

### 形式

npunsetup

### 戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップに成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップに失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

### 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl > キーと < C > キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

### 使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npunsetup
```

## 8.11 npsnapshotlog コマンド (トラブルシューティング情報の収集)

### 機能

トラブルの対処に必要な情報 (トラブルシューティング情報) をまとめて、ZIP ファイル形式で取得します。トラブルシューティング情報は、1 次資料と 2 次資料に分類されます。1 次資料と 2 次資料は、それぞれ別の ZIP ファイルに出力されます。

#### 1 次資料の ZIP ファイル

```
npsnapshotlog_yyyymmddhhmmssSSS_1.zip
```

#### 2 次資料の ZIP ファイル

```
npsnapshotlog_yyyymmddhhmmssSSS_2.zip
```

このコマンドで取得できるトラブルシューティング情報のうち、1 次資料として取得される情報を次の表に示します。

表 8-5 トラブルシューティング情報 (1 次資料)

項番	トラブルシューティング情報	内容
1	OS のイベントログ (システム、アプリケーション、およびセキュリティのイベントログを含む)	wevtutil の実行結果です。テキスト形式とバイナリ形式のデータを、それぞれ次の指定で取得します。 テキスト形式 wevtutil qe Application /rd:true /f:text バイナリ形式 wevtutil epl Application
2	マシンのホスト名	OS のインストールディレクトリ ¥system32¥drivers¥etc¥hosts
3	マシンのサービスとポート	OS のインストールディレクトリ ¥system32¥drivers¥etc¥services
4	プロセスの一覧	tasklist /V の実行結果です。
5	マシンのシステム情報	systeminfo の実行結果です。
6	バインド状況	netstat -ao の実行結果です。
7	NIC の実装状況	ipconfig /all の実行結果です。
8	起動サービス一覧	net start の実行結果です。
9	環境変数の一覧	set の実行結果です。



項番	トラブルシューティング情報	内容
10	各種設定ファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥conf 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥sysconf 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥setup¥conf 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPF¥conf 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Server¥etc 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Runtime¥etc 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Runtime¥java¥etc 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥hirdb_e_EP0¥CONF 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB 以下の各種設定ファイル情報</li> </ul>
11	各種ログファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥logs 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPF¥log 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Server¥spool 以下のファイル</li> <li>• ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB 以下の各種ログファイル情報</li> </ul>
12	ナビゲーション プラットフォームの状態	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥spool 以下のファイル

このコマンドで取得できるトラブルシューティング情報のうち、2次資料として取得される情報を次の表に示します。

表 8-6 トラブルシューティング情報（2次資料）

項番	トラブルシューティング情報	内容
1	レジストリの一覧	reg query HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI /s の実行結果です。 なお、Windows Server 2008 R2 (x64) または Windows Server 2008 (x64) の場合は、 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITA CHI の実行結果となります。
2	各種設定ファイル	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB 以下の各種設定ファイル情報

## 8. コマンド

項番	トラブルシュート情報	内容
3	各種ログファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Server¥tmp 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Runtime¥spool 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Runtime¥tmp 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Runtime¥java¥log 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥Runtime¥java¥errlog 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥ECMPKG¥PP¥hirdb_e_EP0¥SPOOL 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥TPB¥log 以下のファイル</li> <li>・ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB 以下の各種ログファイル情報</li> </ul>
4	npreorg コマンド (データベース再編成) の構成ファイル	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥setup¥work¥npreorg 以下のファイル

### 形式

npsnapshotlog *トラブルシュート情報を出力するディレクトリ*

ディレクトリは、絶対パス・相対パスのどちらでも指定できます。パスが長くなり過ぎないように、200文字以内で指定することを推奨します。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン(:)と相対パスを表す半角ピリオド(.)だけです。

### 注意事項

- ・ トラブルシュート情報を出力するディレクトリは、次の条件を満たしている必要があります。
  - ・ 200MB以上の空き容量がある。
  - ・ ネットワークドライブではない。
- ・ サポートサービスをご利用の場合、障害の原因を調査するために、表 8-5 および表 8-6 に出力されるトラブルシュート情報を送付していただく必要があります。送付されたトラブルシュート情報は、障害の原因調査以外の目的に使用することはありません。

### 戻り値

戻り値	説明
0	トラブルシュート情報の取得に成功した、または警告レベルのエラーが発生してコマンドが正常に終了した。
1	トラブルシュート情報の取得に失敗した。

戻り値	説明
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

## 注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

## 使用例

トラブルシュート情報の出力先ディレクトリが「C:¥temp¥npsnapshotlog」の場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsnapshotlog
C:¥temp¥npsnapshotlog
```



# 9

## JavaScript 関数

業務実行画面のメニュー領域のカスタマイズには、JavaScript 関数を使用できます。この章では、ナビゲーションプラットフォームで提供している JavaScript 関数について説明します。

---

9.1 ucnp\_menu\_show\_flow

---

9.2 ucnp\_menu\_get\_contentId

---

## 9.1 ucnp\_menu\_show\_flow

---

関数名

ucnp\_menu\_show\_flow(*id*)

機能

引数に指定した ID の業務コンテンツを表示します。

引数

id :

業務コンテンツ ID を指定します。業務コンテンツ ID の取得方法を次に示します。

1. 業務編集画面のメニュー領域で、ID を取得したい業務コンテンツのチェックボックスをチェックします。
2. [ ID 取得 ] メニューをクリックします。  
チェックボックスをチェックした業務コンテンツの業務コンテンツ ID がクリップボードにコピーされます。

戻り値

false

使用例

ID が 111111 , 名称が「契約内容の確認」の業務コンテンツを表示する場合の記述例を次に示します。

```
<a href="javascript:void(0);" onclick="ucnp_menu_show_flow('111111');return false;">
```

```
契約内容の確認 </a>
```

## 9.2 ucnp\_menu\_get\_contentId

---

関数名

ucnp\_menu\_get\_contentId()

機能

ナビゲーション プラットフォームを呼び出すときに URL に指定した業務コンテンツ ID を取得します。

メニュー領域の表示形式をカスタマイズしてナビゲーション プラットフォームを運用する場合、カスタマイズしたメニューから URL に指定した業務コンテンツ ID を取得したいときに使用します。例えば、利用者に特定の業務コンテンツを表示した状態でナビゲーション プラットフォームを使用させたいときなどに使用します。

引数

なし

戻り値

- ナビゲーション プラットフォームを呼び出すときに利用した URL の contentId パラメタの値
- URL に contentId パラメタを指定しなかった場合は null





# 10 メッセージ

この章では、ナビゲーション プラットフォームが出力するメッセージについて説明します。

---

10.1 メッセージの出力先と形式

---

10.2 KDCZ00000 ~ KDCZ09999 のメッセージ

---

10.3 KDCZ10000 ~ KDCZ19999 のメッセージ

---

10.4 KDCZ50000 ~ KDCZ79999 のメッセージ

---

## 10.1 メッセージの出力先と形式

---

ここでは、メッセージの出力先、出力形式、および記載形式について説明します。メッセージはトレースファイルに出力される場合もあります。このトレースファイルについても合わせて説明します。

### 10.1.1 出力先

メッセージ、およびトレースファイルの出力先を次に示します。

#### (1) Web ブラウザの操作で出力されるメッセージの出力先

Web ブラウザの操作で出力されるメッセージの出力先を次に示します。

- メッセージボックス
- Web ブラウザのウィンドウ内
- トレースファイル

#### (2) Web ブラウザの操作以外で出力されるメッセージの出力先

Web ブラウザの操作以外（コマンドの実行など）で出力されるメッセージの出力先を次に示します。

- 標準出力
- 標準エラー出力
- トレースファイル

#### (3) トレースファイルの出力先

トレースファイルの出力先を次に示します。出力先のパスにある  $[N]$  は、ファイル面数を示します。

- npdatabackup コマンド（環境退避）のトレースファイル  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥logs¥ucnp\_databackup\_trace/[N].log
- npdatarestore コマンド（環境復元）のトレースファイル  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥logs¥ucnp\_datarestore\_trace/[N].log
- npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）および npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）のトレースファイル  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥logs¥ucnp\_cmd\_trace/[N].log
- npreorg コマンド（データベース再編成）のトレースファイル  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥logs¥ucnp\_reorg\_trace/[N].log

- npsetup コマンド ( セットアップ ) など , セットアップ関連のコマンドのトレースファイル  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
¥logs¥ucnp\_setup\_trace/[N].log  
このトレースファイルには , npsetup コマンド ( セットアップ ) , npstart コマンド ( 起動 ) , npstop コマンド ( 停止 ) , および npunsetup コマンド ( アンセットアップ ) の実行結果が出力されます。
- npsnapshotlog コマンド ( トラブルシュート情報の収集 ) のトレースファイル  
トラブルシュート情報の出力先ディレクトリ  
¥npsnapshotlog\_yyyyMMddhhmmssSSS.log
- そのほかのトレースファイル  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥logs

## 10.1.2 形式

このマニュアルでは、次に示す形式でメッセージを説明します。説明する内容がない場合は項目を省略します。

メッセージ ID

メッセージテキスト

要因

メッセージの要因または意味を説明します。

対処

メッセージを確認したあとにユーザがする処理を説明します。この説明に従って対処してください。メッセージによっては対処が不要な場合があります。なお、「問い合わせ窓口に連絡してください。」とは、購入時の契約に基づいて、弊社問い合わせ窓口に連絡することを示します。

注

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

KDCZ

ナビゲーション プラットフォームのメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。

x

メッセージの種類を示します。

E : エラーメッセージであることを示します。

W : 警告メッセージであることを示します。

I : 通知メッセージであることを示します。

Q : 確認メッセージであることを示します。

## 10.2 KDCZ00000 ~ KDCZ09999 のメッセージ

---

### KDCZ00101-E

---

ノードの名称の設定内容に誤りがあります。ノードの名称に制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00102-E

---

表示文字列の設定内容に誤りがあります。表示文字列に改行以外の制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x09, 0x0B, 0x0C, 0x0E ~ 0x1F, および 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00103-E

---

文字列の色の設定内容に誤りがあります。指定可能な文字は半角英数字および「#」です。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定できる文字 (半角英数字および「#」記号) 以外の文字を含んでいる
- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00104-E

---

URL の設定内容に誤りがあります。URL に制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00105-E

---

ツールチップの設定内容に誤りがあります。ツールチップに制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00110-E

---

アンカーの文字列の設定内容に誤りがあります。アンカーの文字列に制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00111-E

---

URL の設定内容に誤りがあります。URL に制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00112-E

---

ツールチップの設定内容に誤りがあります。ツールチップに制御文字 (タブなど) は指定できません。

## 10. メッセージ

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が制御文字（ASCIIコード上の0x00～0x1Fと0x7F）を含んでいる

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00114-E

---

パーツはこれ以上配置できません。（パーツの上限数 = 領域内に配置できるパーツの上限数）

### 要因

業務編集画面の業務フロー領域またはガイド領域で、領域単位で配置できるパーツの上限数を超過しています。

### 対処

不要なパーツを削除してください。

## KDCZ00116-E

---

取得した業務コンテンツ一覧データに誤りがあります。

### 要因

取得した業務コンテンツ一覧データが NULL です。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ00117-E

---

取得したメニューデータに誤りがあります。

### 要因

取得したメニュー領域の情報が NULL です。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ00119-Q

---

保存していない業務コンテンツがあります。破棄してもよろしいですか？

### 要因

業務編集画面で編集途中の業務コンテンツがあります。

### 対処

編集途中の業務コンテンツを保存したい場合は [キャンセル] ボタンをクリックしたあと、保存してください。保存する必要がない場合は [OK] ボタンをクリックし

てください。

## KDCZ00122-I

---

業務コンテンツ ID をクリップボードにコピーしました。フローを複数選択した場合は、一番上のフローの業務コンテンツ ID を取得します。(詳細情報:業務コンテンツ ID= 業務コンテンツ ID)

### 要因

選択されたフローの業務コンテンツ ID をクリップボードにコピーしました。

## KDCZ00124-Q

---

業務コンテンツの名称は省略できません。もう一度入力しますか？

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 業務コンテンツの名称を入力していない
- 業務コンテンツの名称に全角または半角のスペースだけを入力した

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00125-E

---

業務コンテンツの名称が最大文字数を超えています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

### 要因

入力した設定内容が、最大文字数(引数で出力されている最大文字数)を超えています。

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00128-E

---

業務コンテンツの名称に誤りがあります。名称に制御文字(タブなど)は指定できません。

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字(ASCIIコード上の0x00 ~ 0x1Fと0x7F)を含んでいる

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00129-Q

---

選択されている業務コンテンツを削除します。よろしいですか？

要因

業務編集画面で業務コンテンツを削除しようとした。

対処

選択した業務コンテンツを削除したい場合は [ OK ] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は [ キャンセル ] ボタンをクリックしてください。

## KDCZ00131-Q

---

ガイドコンテンツも同時に削除します。よろしいですか？

要因

業務編集画面でプロセスノードを削除しようとした。

対処

プロセスノードと、対応するガイドコンテンツを削除したい場合は [ OK ] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は [ キャンセル ] ボタンをクリックしてください。

## KDCZ00132-I

---

業務コンテンツを保存しました。

要因

業務コンテンツを保存しました。

## KDCZ00133-E

---

業務コンテンツ ID をクリップボードにコピーできませんでした。

要因

業務コンテンツ ID の取得で、業務コンテンツ ID をクリップボードにコピーできません。

対処

再度実行してください。問題が解決しない場合、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ00134-Q

---

業務コンテンツが他のユーザにより変更されています。業務コンテンツを上書き保存しますか？



**要因**

編集または保存しようとした業務コンテンツは、別のユーザによってすでに変更されています。

**対処**

業務コンテンツを上書きしたい場合は [ OK ] ボタンをクリックしてください。上書きしない場合は [ キャンセル ] ボタンをクリックしてください。

## KDCZ00147-E

---

ノードの名称が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 128 バイトよりも大きい

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00148-E

---

表示文字列が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が最大文字数より大きい

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00149-E

---

文字列の色が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 128 バイトよりも大きい

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00150-E

---

URL が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

## 10. メッセージ

- 設定内容が UTF-8 換算で 1,024 バイトよりも大きい

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00151-E

---

ツールチップが最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 128 バイトよりも大きい

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00153-E

---

値が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 128 バイトよりも大きい

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00155-E

---

アンカーの文字列が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 1,024 バイトよりも大きい

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00156-E

---

URL が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 1,024 バイトよりも大きい

対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00157-E

---

ツールチップが最大文字数を超えています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 128 バイトよりも大きい

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00160-E

---

アンカーの文字列は省略できません。

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- アンカーの文字列を入力していない
- アンカーの文字列として全角または半角のスペースだけを入力した

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00165-E

---

文字のサイズの設定内容に誤りがあります。文字のサイズは 1 ~ 128 の範囲で設定してください。

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が 1 ~ 128 以外である

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00166-W

---

一部のコネクタがコピーできませんでした。それらの選択状態を解除します。コネクタをコピーする場合は接続元 / 接続先パーツも同時に選択してください。

### 要因

業務編集画面でツールバーの [ コピー ] ボタンをクリックしたときに、コピーできないコネクタ ( 関連線 ) が存在します。

### 対処

コピーできなかったコネクタ（関連線）もコピーしたい場合は、接続元 / 接続先パーツも同時に選択して、再度 [ コピー ] ボタンをクリックしてください。複数のパーツやコネクタ（関連線）を複製する場合は、 < Shift > キーを押しながら一つずつ該当するパーツを選択して [ コピー ] ボタンをクリックしてください。

## KDCZ00167-E

---

配置できるパーツ数の上限を超えて貼り付けようとしています。（対象領域 = 貼り付けの対象領域（業務フローまたはガイド）、現在のパーツ数 = 現在のパーツ数、貼り付けようとしたパーツ数 = 貼り付けようとしたパーツ数、パーツの上限数 = パーツの上限数（100））

### 要因

配置できるパーツの上限数を超えて、貼り付けようとしています。

### 対処

不要なパーツを削除するか、コピーするパーツ数を減らしてから貼り付けてください。

## KDCZ00169-E

---

表示文字列の設定内容に誤りがあります。表示文字列に制御文字（タブなど）は指定できません。

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字（ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F）を含んでいる

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00170-E

---

表示文字列が最大文字数を超えています。（最大文字数 = 最大文字数バイト）

### 要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 1,024 バイトよりも大きい

### 対処

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00171-E

---

ノード ID の設定内容に誤りがあります。指定可能な文字は半角英数字、半角ハイフン「-」および半角アンダースコア「\_」です。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 半角英数字，半角ハイフン「-」，および半角アンダースコア「\_」以外の文字を使用している

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00172-E

---

業務フロー内の他のノードと同じノード ID が設定されています。異なるノード ID を設定してください。(同じノード ID を持つノードの名称 = 同じノード ID を持つノードの名称)

**要因**

業務フロー内に重複するノード ID を持つノードが存在します。

**対処**

ノード ID は，業務フロー内で一意になるように設定してください。

## KDCZ00173-E

---

URL の設定内容に誤りがあります。URL に制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00174-E

---

URL が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数バイト)

**要因**

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容が UTF-8 換算で 1,024 バイトよりも大きい

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ00207-E

---

このノードの「戻る」ボタンの名称，前のノードの「次へ」ボタン名称，前のノードの「完了」ボタン名称の設定内容に誤りがあります。制御文字 (タブなど) は指定できません。

**要因**

## 10. メッセージ

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F) を含んでいる

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00209-E

---

HTML ソース文字列が最大文字数を超過しています。(最大文字数 = 最大文字数)

要因

入力した設定内容が最大文字数 (引数で出力されている文字数) を超過しています。

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00210-E

---

HTML ソース文字列の設定内容に誤りがあります。HTML ソース文字列に改行タブ文字以外の制御文字は指定できません。

要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 設定内容に制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x08, 0x0B ~ 0x0C, 0x0E ~ 0x1F, および 0x7F) を含んでいる

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00211-E

---

前面 / 背面の並び順の設定内容に誤りがあります。前面 / 背面の並び順は半角数字で 1 ~ 100 の範囲を設定してください。

要因

入力した表示順が不正です。次の要因が考えられます。

- 半角数字 1 ~ 100 以外の数値を入力している

対処

入力した設定内容を見直してください。

### KDCZ00212-E

---

前面 / 背面の並び順は省略できません。

要因

入力した設定内容が不正です。次の要因が考えられます。

- 前面 / 背面の並び順を入力していない

**対処**

入力した設定内容を見直してください。

## KDCZ08001-E

---

通信中にエラーが発生しました。(詳細: エラーメッセージ)

**要因**

通信でエラーが発生しました。

**対処**

次のように対処してください。

- 利用者  
失敗した操作を再実行してください。問題が解決しない場合、システム管理者に連絡してください。
- システム管理者  
サーバが正しく動作しているか確認してください。

## KDCZ08002-E

---

通信中にエラーが発生しました。

**要因**

通信でエラーが発生しました。

**対処**

次のように対処してください。

- 利用者  
失敗した操作を再実行してください。問題が解決しない場合、システム管理者に連絡してください。
- システム管理者  
サーバが正しく動作しているか確認してください。

## KDCZ09001-E

---

処理に不整合が発生しました。(機能 ID: 保守情報)

**要因**

内部データに不整合がありました。

**対処**

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ09002-E

---

業務コンテンツ一覧データの業務コンテンツ ID に誤りがあります。(機能 ID: 保守情報)

要因

業務コンテンツ ID が NULL です。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ09007-E

---

引数が不正です。

要因

カスタマイズメニューで使用する JavaScript の `ucnp_menu_show_flow` 関数の引数に、空文字または `null` が指定されました。

対処

カスタマイズメニューの内容を確認してください。



## 10.3 KDCZ10000 ~ KDCZ19999 のメッセージ

---

KDCZ10000 ~ KDCZ19999 のメッセージの要因と対処について説明します。

### KDCZ10006-E

---

指定された業務コンテンツは存在しません。(詳細情報: 業務コンテンツ ID= 業務コンテンツ ID)

**要因**

対象の業務コンテンツが存在しません。

**対処**

メニューを再表示し、メニューから読み込み直してください。

### KDCZ10011-E

---

操作対象の業務コンテンツが存在しません。(詳細情報: 業務コンテンツ ID= 業務コンテンツ ID)

**要因**

保存・削除対象の業務コンテンツがリポジトリに存在しません。

**対処**

ほかのユーザによって業務コンテンツが削除されたおそれがあります。最新の業務コンテンツを再度取得してください。

### KDCZ10015-E

---

指定された ZIP ファイルが存在しません。(詳細情報: ZIP ファイルパス = ZIP ファイルパス)

**要因**

npimport コマンドのパラメタに指定されたパスに ZIP ファイルがないか、または ZIP ファイルへの参照権限がありません。

**対処**

次のように対処してください。

- ZIP ファイルへの参照権限があることを確認する
- パスの指定が正しいことを確認する

## KDCZ10016-E

---

指定されたパスに、既に ZIP ファイルが存在しています。(詳細情報 :ZIP ファイルパス =ZIP ファイルパス)

**要因**

npexport コマンドのパラメタに指定されたパスに、ZIP ファイルがすでに存在しています。

**対処**

別のパスを指定するか、既存ファイルを移動または削除してください。

## KDCZ10018-I

---

インポートコマンドが正常に終了しました。

**要因**

npimport コマンドの実行に成功しました。

## KDCZ10019-I

---

エクスポートコマンドが正常に終了しました。

**要因**

npexport コマンドの実行に成功しました。

## KDCZ10020-E

---

入力 ZIP ファイルに、不正なファイルパスが指定されました。

**要因**

npimport コマンドのパラメタに指定されたパスに、予約デバイスなどの指定できないパスが指定されました。

**対処**

正しいファイルパスを指定してください。

## KDCZ10021-E

---

ZIP ファイル出力先に、不正なファイルパスが指定されました。

**要因**

npexport コマンドのパラメタに指定されたパスに問題があります。例えば、次の要因が考えられます。

- 予約デバイスなどの指定できないパスが指定された
- 存在しないパスが指定された

- 指定したパスへの書き込み権限がない

対処

正しいファイルパスを指定してください。

## KDCZ10030-E

---

指定した業務コンテンツ ID の文書が存在しません。( 詳細情報 : エラー = 業務コンテンツ ID )

要因

npexport コマンドに指定した業務コンテンツ ID の業務コンテンツが、登録されていません。

対処

正しい業務コンテンツ ID を指定してください。

## KDCZ10048-E

---

リポジトリに追加可能な業務コンテンツ件数の上限を超過しています。

要因

リポジトリに追加できる業務コンテンツの件数 ( 上限 500 件 ) を超過しています。

対処

不要な業務コンテンツを削除したあと、業務コンテンツを再登録してください。  
業務コンテンツの複製時にこのエラーが発生した場合には、複製が完了している業務コンテンツを確認し、不要な業務コンテンツは削除して再度複製してください。

## KDCZ10060-I

---

完了しました。

要因

[ 完了 ] ボタンをクリックしました。

## KDCZ10066-E

---

セッションが無効です。ウィンドウを閉じて、再度アクセスしてください。

要因

タイムアウトなどでセッションが無効になっています。

対処

ウィンドウを閉じたあと、再度アクセスしてください。

## KDCZ10068-E

---

インポートするデータが存在しません。

**要因**

npimport コマンドのオプションに指定した ZIP ファイルが、npexport コマンドで作成したファイルではありません。

**対処**

指定したファイルが、npexport コマンドで作成した正しいファイルかどうか確認してください。

## KDCZ10069-I

---

Usage: npexport [-c contentsId] [-l listFile] outputFile

**要因**

npexport コマンドの指定に誤りがあったため、正しいコマンド構文をメッセージで通知します。

**対処**

コマンドの構文を見直したあと、コマンドを再実行してください。

## KDCZ10070-I

---

Usage: npimport [-d] [-f] [-l listFile] inputFile

**要因**

npimport コマンドの指定に誤りがあったため、正しいコマンド構文をメッセージで通知します。

**対処**

コマンドの構文を見直したあと、コマンドを再実行してください。

## KDCZ10071-E

---

ファイルのアクセスに失敗しました。(詳細情報: エラー = 発生した例外のメッセージ)

**要因**

npimport コマンドまたは npexport コマンドを実行しようとしたところ、ファイルの入出力処理でエラーが発生しました。

**対処**

詳細情報を基に、原因を取り除いてください。問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ10087-E

---

指定された一覧ファイルは既に存在しています。ファイルを削除するか、別のファイル名を指定してください。(詳細情報: ファイルパス = 指定された一覧ファイルの絶対パス)

### 要因

指定された一覧ファイルはすでに存在します。  
一覧ファイルを上書きで出力することはできません。

### 対処

次のうち、どれかを実行してください。

- 指定したパスに存在するファイルを削除する
- 指定したパスに存在するファイルの名前を変更する
- 別の一覧ファイルのパスを指定する

## KDCZ10088-E

---

指定された一覧ファイル名に予約デバイス名が含まれています。(詳細情報: ファイルパス = 指定された一覧ファイルの絶対パス)

### 要因

指定したパスに予約デバイス名が含まれています。

### 対処

予約デバイス名が含まれないパスを指定してください。

## KDCZ10089-E

---

指定された一覧ファイルが作成できませんでした。出力先のフォルダが存在することとアクセス権があることを確認してください。(詳細情報: ファイルパス = 指定された一覧ファイルの絶対パス)

### 要因

出力先のフォルダが存在しないか、アクセス権がありません。

### 対処

出力先のフォルダが存在するかどうか確認してください。フォルダが存在する場合は、そのフォルダにアクセス権があるかどうかを確認してください。

## KDCZ10090-I

---

### コマンド名 引数情報

### 要因

npimport コマンド, または npexport コマンドが実行されました。

## KDCZ10091-E

---

一覧ファイル作成中にエラーが発生しました。(詳細情報: ファイルパス = 指定された一覧ファイルの絶対パス, エラー = 発生したエラーのメッセージ)

要因

ファイルの入出力処理中にエラーが発生しました。

対処

詳細情報に出力されたエラー要因を基に対処してください。問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ10095-W

---

一時ファイルの削除に失敗しました。(詳細情報: ファイルパス = 削除できなかった一時ファイルの絶対パス)

要因

一時ファイルを削除できません。

対処

出力されたメッセージの詳細情報に書いてあるファイルを削除してください。

## KDCZ10096-W

---

一時ディレクトリの削除に失敗しました。(詳細情報: ディレクトリパス = 削除できなかった一時ディレクトリの絶対パス)

要因

一時ディレクトリを削除できません。

対処

出力されたメッセージの詳細情報に書いてあるディレクトリを削除してください。

## KDCZ10122-E

---

ほかの処理を実行中です。しばらく待ってから再度実行してください。

要因

次の要因が考えられます。

- npimport コマンドによるインポート処理中に、さらに npimport コマンドを実行した
- 業務コンテンツの新規作成、複製、または名称変更の処理中に npimport コマンドを実行した

対処

実行中の処理が終了してから、再度コマンドを実行してください。

## KDCZ10123-E

---

業務コンテンツをインポート中です。しばらく待ってから再度実行してください。

### 要因

npimport コマンドによるインポート処理中に業務コンテンツの新規作成、複製、または名称変更の操作を実行しました。

### 対処

実行中の処理が終了してから、再度操作を実行してください。

## KDCZ10125-E

---

インポートするファイル内で業務コンテンツの名称が重複しています。(名称 = 重複した業務コンテンツの名称)

### 要因

業務コンテンツの名称の重複を許可しない環境にファイルをインポートしようとしたが、インポートするファイル内に重複する名称の業務コンテンツが含まれているため実行できませんでした。

### 対処

次のどちらかの対処を実施してください。

- インポート先の環境のユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティの指定を「false」に変更する
- 重複する名称の業務コンテンツを除外してエクスポートをやり直す

## KDCZ10126-E

---

指定されたファイルをインポートすると、サーバ内の業務コンテンツの名称が重複します。(名称 = 重複した業務コンテンツの名称)

### 要因

指定されたファイルをインポートすると、サーバ内の業務コンテンツの名称が重複します。

### 対処

次のどちらかの対処を実施してください。

- インポート先の環境のユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) の ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable プロパティの指定を「false」に変更する
- 重複する名称の業務コンテンツを除外してエクスポートをやり直す

## KDCZ10127-E

---

指定した業務コンテンツ名称はすでに使用されています。別の名称を指定してください。(名称 = 重複した業務コンテンツの名称)

**要因**

すでに存在する業務コンテンツの名称と同じ名称を指定しました。

**対処**

業務コンテンツの名称が一意になるように、設定内容を見直してください。

## KDCZ10137-E

---

インポートコマンドでエラーが発生しました。エラーの要因を取り除き、*-d* または *-f* オプションを指定して再度インポートコマンドを実行してください。

**要因**

インポート処理が一部だけ反映された状態で、エラーが発生しました。

**対処**

エラーの要因を取り除いてから、メッセージに表示されているオプションを指定して、再度 `npimport` コマンド（業務コンテンツのインポート）を実行してください。なお、メッセージに表示されるオプションは、`npimport` コマンド（業務コンテンツのインポート）を実行したときに指定したオプションによって次のように異なります。

- *-d* オプションだけ指定した場合、または *-d* オプションと *-f* オプションの両方を指定した場合、メッセージには「*-d* オプション」と表示される
- *-f* オプションだけ指定した場合、または *-d* オプションも *-f* オプションも指定しなかった場合、メッセージには「*-f* オプション」と表示される

## KDCZ10205-E

---

HTML パーツの入力パラメタの変換処理でエラーが発生しました。

**要因**

HTML パーツの入力パラメタ以外のデータを変換しようとしたおそれがあります。HTML パーツから入力されたエンコード文字列を変換する API は、HTML パーツの入力パラメタ以外のデータを変換しようとするエラーになります。

**対処**

HTML パーツの入力パラメタ以外のデータを変換しようとしていないか確認してください。



## KDCZ10229-E

---

URL の指定が不正またはセッションが無効です。ウィンドウを閉じて、再度アクセスしてください。

### 要因

次の要因が考えられます。

- 「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」に示されている URL 以外の URL を指定した
- タイムアウトなどセッションが無効の状態です、[ 編集開始 ] メニューまたは [ 編集終了 ] メニューを選択した

### 対処

「4.1 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL」に示されている URL 以外の URL を指定している場合は、ウィンドウを閉じたあと、URL を確認して再度アクセスしてください。

セッションが無効の状態の場合は、ウィンドウを閉じたあと、再度アクセスしてください。

## KDCZ18001-E

---

業務コンテンツのリポジトリ登録に失敗しました。( 詳細情報 : エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ )

### 要因

内部エラーが発生しました。次の要因が考えられます。

- データベースの容量が不足している

### 対処

詳細情報に KMBJ00030-E が出力されている場合は、データベースの容量が不足しているおそれがあります。npreorg コマンドを実行し、データベースを再編成してください。

問題が解決しない場合は、業務コンテンツを削除してデータベースの空き容量を確保してください。

それでも問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18002-E

---

リポジトリから業務コンテンツの取得に失敗しました。( 詳細情報 : エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ )

### 要因

内部エラーが発生しました。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18003-E

---

リポジトリに登録されている業務コンテンツの更新に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18004-E

---

リポジトリに登録されている業務コンテンツの削除に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18005-E

---

リポジトリに登録されている業務コンテンツの検索に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18006-E

---

リポジトリの初期化に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18007-E

---

リポジトリへのログインに失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

### 要因

内部エラーが発生しました。次の要因が考えられます。

- 文書管理サーバへの同時接続数が 500 を超えている
- 文書管理サーバが起動していない

### 対処

文書管理サーバへの同時接続数が 500 を超えている場合は、しばらく待ってから再度操作してください。

文書管理サーバが起動していない場合は、次の手順でナビゲーション プラットフォームを起動し直してください。

### 手順

1. npstop コマンドを実行します。
2. npstart コマンドを実行します。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18008-E

---

業務コンテンツのリポジトリ登録に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

### 要因

内部エラーが発生しました。次の要因が考えられます。

- データベースの容量が不足している

### 対処

詳細情報に KMBJ00030-E が出力されている場合は、データベースの容量が不足しているおそれがあります。npreorg コマンドを実行し、データベースを再編成してください。

問題が解決しない場合は、業務コンテンツを削除してデータベースの空き容量を確保してください。

それでも問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18009-E

---

リポジトリから業務コンテンツの取得に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

### 要因

内部エラーが発生しました。

## 10. メッセージ

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ18010-E

---

リポジトリへのログインに失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ18011-E

---

リポジトリに登録されている業務コンテンツの取得に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ18021-E

---

トランザクションの開始に失敗しました。

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ18022-E

---

トランザクションのコミットに失敗しました。

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ18023-E

---

トランザクションのロールバックに失敗しました。

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ18024-E

---

リポジトリへのアクセスに失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ18025-E

---

リポジトリに登録されている業務コンテンツの削除に失敗しました。(詳細情報: エラー = 文書管理サーバから返却されたエラーメッセージ)

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ19003-E

---

受信したデータが不正です。

要因

受信した通信形式データが NULL です。

対処

問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ19004-E

---

受信した HTTP セッションが不正です。

要因

受信した HTTP セッションが NULL です。

## 10. メッセージ

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ19005-E

---

受信した通信形式データの長さが 0 です。

要因

受信したデータの長さが 0 です。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ19006-E

---

受信したデータの構文が正しくありません。

要因

受信したデータの構文が正しくありません。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ19008-E

---

サーバ側機能呼出し ID が不正です。

要因

サーバ側機能呼び出し ID が NULL です。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ19009-E

---

サーバ側機能呼出し ID に対応した実装クラスが不正です。

要因

サーバ側機能呼び出し ID に対応した実装クラスの取得に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ19013-E

---

トレースの初期化処理に失敗しました。(詳細情報: エラー = エラーメッセージ)

要因

トレースの初期化処理に失敗しました。

対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs に書き込み権限があることを確認してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19014-E

---

トレースの出力処理に失敗しました。(詳細情報: エラー = エラーメッセージ)

要因

トレース出力機能で、予期しないエラーが発生しました。

対処

トレースファイル出力先に、ファイルが出力できるかどうか確認してください。

## KDCZ19016-E

---

データ変換に失敗しました。

要因

XML データからコンテンツエンティティへの変換に失敗しました。

対処

リポジトリの XML データが壊れているおそれがあります。XML データを修復または再作成してください。

## KDCZ19035-E

---

既に同じ業務コンテンツ ID の文書が存在します。

要因

同じ業務コンテンツ ID の業務コンテンツがすでに存在します。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19036-E

---

リポジトリに登録するためのデータ変換に失敗しました。

要因

コンテンツエンティティの XML データ変換に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19037-E

---

リポジトリから取得した業務コンテンツのデータ変換に失敗しました。

**要因**

XML データのエンティティ変換に失敗しました。

**対処**

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19039-E

---

既に同じ業務コンテンツ ID の文書が存在します。( 詳細情報 : 業務コンテンツ ID= 業務コンテンツ ID )

**要因**

npimport コマンドを実行したところ、インポートしようとしているリポジトリに、同じ業務コンテンツ ID の業務コンテンツがすでに存在します。

**対処**

npimport コマンドに、「-f」または「-d」のオプションを指定してください。

**注**

該当する業務コンテンツが複数存在する場合、コンマ区切りですべての業務コンテンツ ID が出力されます。

## KDCZ19045-E

---

メニューデータの取得に失敗しました。( 詳細情報 : エラー = メッセージ KDCZ18005-E)

**要因**

内部エラーが発生しました。

**対処**

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19047-E

---

クライアントタイプが不正です。( 詳細情報 : ClientType= クライアント側から渡された Type)

**要因**

クライアントタイプとサーバ側で保持しているタイプが不整合でした。

**対処**

問い合わせ窓口に連絡してください。



## KDCZ19048-E

---

モデルインスタンスの生成に失敗しました。

要因

内部エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19052-E

---

予期しないエラーが発生しました。( 詳細情報 = 詳細情報 )

要因

予期しないファイルアクセスエラーか、I/O エラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19054-E

---

Failed to initialize system message.

要因

システムメッセージの読み込みに失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19055-E

---

Failed to initialize user property.

要因

ユーザプロパティファイル ( ucnp\_user.properties ) の読み込みに失敗しました。例えば、次の要因が考えられます。

- ファイルがない
- 無効なプロパティを指定していた

対処

ユーザプロパティファイル ( ucnp\_user.properties ) が存在するか確認してください。存在している場合は、プロパティファイルを見直してください。

## KDCZ19056-E

---

モデルインスタンスの生成時にアクセス違反が発生しました。

## 10. メッセージ

### 要因

内部エラーが発生しました。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19060-E

---

インスタンスの生成に失敗しました。

### 要因

newInstance するときに失敗しました。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19061-E

---

インスタンスの生成時にアクセス違反が発生しました。

### 要因

newInstance するときに失敗しました。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19069-E

---

受信したパラメタが不正です。ウィンドウを閉じて、再度操作を行ってください。

### 要因

受信したパラメタに不正を検出しました。

### 対処

エラーが発生したウィンドウを閉じて、再度操作してください。

## KDCZ19070-E

---

指定したプロパティ名の値が不正です。

### 要因

業務コンテンツの検索時に指定したプロパティ名に誤りがあります。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ19072-E

---

XML スキーマファイルの読み込みに失敗しました。

要因

XML スキーマファイルの読み込みに失敗しました。

対処

問い合わせ窓口ご連絡してください。

## KDCZ19073-E

---

URL の取得に失敗しました。( 詳細情報 = URL 取得に失敗する原因となった例外のメッセージ)

要因

URL の取得に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口ご連絡してください。

## KDCZ19077-E

---

URL からのデータ読み込みに失敗しました。( 詳細情報 = 読み込みに失敗した URL 情報)

要因

指定された JavaScript , または CSS の URL から , ファイルを読み込むことができません。

対処

plugin.xml の JavaScript や CSS の設定を確認してください。

## KDCZ19078-E

---

PP プロパティファイルのロードに失敗しました。( パス = PP プロパティファイルのファイルパス , 原因 = 原因となった例外のメッセージ)

要因

内部ファイル ( PP プロパティファイル ) のロードに失敗しました。

対処

問い合わせ窓口ご連絡してください。

## KDCZ19079-E

---

PP プロパティファイルのクローズに失敗しました。( パス = PP プロパティファイルのファイルパス , 原因 = 原因となった例外のメッセージ)

## 10. メッセージ

### 要因

内部ファイル (PP プロパティファイル) のクローズに失敗しました。

### 対処

問い合わせ窓口ご連絡してください。

## KDCZ19080-E

---

PP プロパティファイルに必須のプロパティが指定されていません。(パス =PP プロパティファイルのファイルパス, キー = プロパティのキー)

### 要因

内部ファイル (PP プロパティファイル) が不正です。

### 対処

問い合わせ窓口ご連絡してください。

## KDCZ19081-E

---

PP プロパティファイルのプロパティ値が不正です。(パス =PP プロパティファイルのファイルパス, キー = プロパティのキー)

### 要因

内部ファイル (PP プロパティファイル) が不正です。

### 対処

問い合わせ窓口ご連絡してください。

## 10.4 KDCZ50000 ~ KDCZ79999 のメッセージ

---

### KDCZ50801-E

---

管理者権限が無いためコマンドを実行できません。

要因

コマンドを実行したユーザに Windows の管理者権限がないため、処理できません。

対処

Windows の管理者権限を持ったユーザでコマンドを実行してください。

### KDCZ50805-I

---

Usage:npsetup

要因

npsetup コマンドの書式を示します。

対処

表示された書式に従ってコマンドを実行してください。

### KDCZ50806-I

---

Usage:npunsetup

要因

npunsetup コマンドの書式を示します。

対処

表示された書式に従ってコマンドを実行してください。

### KDCZ50807-I

---

Usage:npstart

要因

npstart コマンドの書式を示します。

対処

表示された書式に従ってコマンドを実行してください。

## KDCZ50846-I

---

ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。

要因

ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。

## KDCZ50847-Q

---

処理を続行しますか？(Y/N)

要因

処理を続行してもよいかどうかを確認します。

対処

処理を続行してもよい場合は Y または y , 処理を中断する場合は N または n を入力してください。

## KDCZ50848-I

---

セットアップコマンドが正常に終了しました。

要因

npsetup コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ50849-I

---

アンセットアップコマンドが正常に終了しました。

要因

npunsetup コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ50850-I

---

起動コマンドが正常に終了しました。

要因

npstart コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ50851-I

---

停止コマンドが正常に終了しました。

要因

npstop コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ50852-I

---

Usage: npstop [-f]

### 要因

npstop コマンドの書式を示します。

### 対処

書式に従ってコマンドを実行してください。

## KDCZ50853-E

---

ナビゲーション プラットフォームの動作に必要な環境変数が設定されていません。

### 要因

ナビゲーション プラットフォームの動作に必要な環境変数が設定されていません。

### 対処

ナビゲーション プラットフォームのインストーラが設定する環境変数が、OS の環境変数にすべて設定されていることを確認してから、再度コマンドを実行してください。

ナビゲーション プラットフォームのインストーラが設定する環境変数を次に示します。

- UCNP\_HOME
- \_HIEDMS\_FTPDIR
- \_HIEDMS\_TRACE\_KEEP\_DAYS
- \_HIEDMS\_TRACE\_LEVEL
- \_HIEDMS\_TRACE\_NUM
- \_HIEDMS\_TRACE\_SIZE
- DBJ\_CONF\_PATH
- DBRTOOLS DIR
- TEXTINDEXDIR
- Path
- DOCBROKERDIR
- ECMPKG\_HOME
- PATH

設定されていない環境変数がある場合、ナビゲーション プラットフォームをインストールし直してください。すべての環境変数が設定されていても同じエラーが発生する場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ50855-E

---

ユーザセットアッププロパティファイルの読み込みに失敗しました。表示されたパスにアクセス権限があることを確認してください。(ユーザセットアッププロパティファイルのパス = ユーザセットアッププロパティファイルの絶対パス)

要因

ユーザセットアッププロパティファイルの読み込みに失敗しました。

対処

メッセージに表示されたパスに、アクセス権限があることを確認してから再度コマンドを実行してください。

## KDCZ50856-E

---

ユーザセットアッププロパティが不正です。プロパティの値を指定できる値に修正してください。(プロパティ = 値が不正なユーザセットアッププロパティのキー, 指定された値 = 指定された値, 指定できる値 = 指定できる値)

要因

ユーザセットアッププロパティファイルに指定された値が、指定できる値ではありません。

対処

メッセージに表示されたプロパティの値を、指定できる値に修正してから再度コマンドを実行してください。

## KDCZ50857-E

---

ナビゲーション プラットフォームのセットアップに失敗しました。

要因

ナビゲーション プラットフォームのセットアップ処理中にエラーが発生しました。

対処

一緒に出力されているエラーメッセージを基にエラー原因を解消したあと、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップしてから、再度 npsetup コマンドを実行してください。

エラー原因を解消できない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ50858-E

---

ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップに失敗しました。

要因

ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップ処理中にエラーが発生しまし



た。

#### 対処

次の手順で、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップしてください。

#### 手順

1. OS を再起動します。
2. ナビゲーション プラットフォームをアンインストールします。
3. ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリを削除します。

## KDCZ50859-E

---

ナビゲーション プラットフォームの起動に失敗しました。

#### 要因

ナビゲーション プラットフォームの起動処理中にエラーが発生しました。

#### 対処

一緒に出力されているエラーメッセージを基にエラー原因を解消したあと、ナビゲーション プラットフォームを停止してから、再度 npstart コマンドを実行してください。

エラー原因を解消できない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ50860-E

---

ナビゲーション プラットフォームの停止に失敗しました。

#### 要因

ナビゲーション プラットフォームの停止処理中にエラーが発生しました。

#### 対処

一緒に出力されているエラーメッセージを基にエラー原因を解消してから、再度 npstop コマンドを実行してください。

エラー原因を解消できない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ58803-E

---

フレームワークの処理でエラーが発生しました。(エラー = フレームワークで発生したエラーの情報)

#### 要因

フレームワークの処理でエラーが発生しました。

#### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ58804-E

---

コマンド実行中に発生したエラーのメッセージ

要因

コマンド実行中にエラーが発生しました。

対処

一緒に表示されたメッセージを基にエラーの原因を解消してください。  
問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ59801-E

---

実行権限のチェック中にエラーが発生しました。

要因

実行権限のチェック中にエラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ59820-E

---

システムセットアップメッセージファイルの読み込みに失敗しました。

要因

システムセットアップメッセージファイルの読み込みに失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ59821-E

---

システムセットアッププロパティファイルの読み込みに失敗しました。

要因

システムセットアッププロパティファイルの読み込みに失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ59822-E

---

セットアップ結果ファイルの出力に失敗しました。表示されたファイルパスに書き込み権限があることを確認してください。(セットアップ結果ファイルのパス = セットアップ結果ファイルの絶対パス)

要因

セットアップ結果ファイルの出力に失敗しました。

対処

メッセージに表示されたパスに書き込み権限があることを確認してから、再度コマンドを実行してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ59823-E

---

ナビゲーション プラットフォーム状態ファイルの削除に失敗しました。(ナビゲーション プラットフォーム状態ファイルのパス = ナビゲーション プラットフォーム状態ファイルの絶対パス)

要因

ナビゲーション プラットフォーム状態ファイルの削除に失敗しました。

対処

メッセージに表示されたパスのファイルを削除してください。

## KDCZ59824-E

---

予期しないエラーが発生しました。(エラー = エラー情報)

要因

予期しないエラーが発生しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ59825-E

---

ホスト名の取得に失敗しました。

要因

ホスト名の取得に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ60001-I

---

コマンド名 コマンドの引数

要因

実行したコマンドの名称と引数を出力します。

## KDCZ60101-I

---

データベースをセットアップします。

要因

データベースをセットアップします。

## KDCZ60102-I

---

文書管理サーバをセットアップします。

要因

文書管理サーバをセットアップします。

## KDCZ60103-I

---

J2EE サーバをセットアップします。

要因

J2EE サーバをセットアップします。

## KDCZ60104-I

---

ナビゲーション プラットフォームを初期設定します。

要因

ナビゲーション プラットフォームを初期設定します。

## KDCZ60105-I

---

Web サーバをセットアップします。

要因

Web サーバをセットアップします。

## KDCZ60121-I

---

J2EE サーバをアンセットアップします。

要因

J2EE サーバをアンセットアップします。

## KDCZ60122-I

---

文書管理サーバをアンセットアップします。

## 要因

文書管理サーバをアンセットアップします。

## KDCZ60123-I

---

データベースをアンセットアップします。

## 要因

データベースをアンセットアップします。

## KDCZ60141-I

---

データベースサービスを起動します。

## 要因

データベースサービスを起動します。

## KDCZ60142-I

---

データベースを起動します。

## 要因

データベースを起動します。

## KDCZ60143-I

---

スマートエージェントを起動します。

## 要因

スマートエージェントを起動します。

## KDCZ60144-I

---

文書管理サーバを起動します。

## 要因

文書管理サーバを起動します。

## KDCZ60145-I

---

PRF デーモンを起動します。

## 要因

PRF デーモンを起動します。

## KDCZ60146-I

---

J2EE サーバを起動します。

要因

J2EE サーバを起動します。

## KDCZ60147-I

---

ナビゲーション プラットフォームのアプリケーションを起動します。

要因

ナビゲーション プラットフォームのアプリケーションを起動します。

## KDCZ60148-I

---

Web サーバを起動します。

要因

Web サーバを起動します。

## KDCZ60161-I

---

Web サーバを停止します。

要因

Web サーバを停止します。

## KDCZ60162-I

---

J2EE サーバを停止します。

要因

J2EE サーバを停止します。

## KDCZ60163-I

---

PRF デーモンを停止します。

要因

PRF デーモンを停止します。

## KDCZ60164-I

---

文書管理サーバを停止します。

## 要因

文書管理サーバを停止します。

## KDCZ60165-I

---

スマートエージェントを停止します。

## 要因

スマートエージェントを停止します。

## KDCZ60166-I

---

データベースを停止します。

## 要因

データベースを停止します。

## KDCZ60167-I

---

データベースサービスを停止します。

## 要因

データベースサービスを停止します。

## KDCZ68101-E

---

データベースのセットアップに失敗しました。

## 要因

データベースのセットアップに失敗しました。

## 対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥PP¥ECMPKG¥PP¥hirdb\_e\_EP0¥PDISTUP¥spool¥pdi\_err.txt にメッセージが出力されている場合は、ファイルに出力されているメッセージに応じて、次の対処を実施してください。

- KFPX29612-E、または KFPX29613-E のメッセージが出力されている場合  
ディスクの空き容量が不足しています。ナビゲーション プラットフォームをインストールしたドライブに 10GB 以上の空き容量を確保してください。
- KFPX29618-E のメッセージに続いて、KFPS01812-E のメッセージが出力されている場合  
ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の ucnp.setup.server.db.port プロパティに指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。使用中のポート番号を解放するか、ucnp.setup.server.db.port プロパティの値を変更してください。

ファイルが出力されていない場合は、KDCZ58804-E のメッセージに従い、エラーの原因を解消してください。  
問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68102-E

---

文書管理サーバのセットアップに失敗しました。

### 要因

文書管理サーバのセットアップに失敗しました。

### 対処

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の ucnp.setup.server.docb.osagent.port プロパティに指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。使用中のポート番号を解放してください。

そのほかの要因でエラーが発生している場合は、一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68103-E

---

J2EE サーバのセットアップに失敗しました。

### 要因

J2EE サーバのセットアップに失敗しました。

### 対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

次のメッセージが出力されている場合は、ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) で指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。出力されているメッセージに応じて、使用中のポート番号を解放してください。

- KDJE39017-E のメッセージが出力されている場合

ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port プロパティに指定したポート番号が、使用中のおそれがあります。

- KDJE30061-E のメッセージが出力されている場合

ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port プロパティに指定したポート番号が、使用中のおそれがあります。

- KDCZ58804-E のメッセージが出力されている場合

ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port プロパティに指定したポート番号が、使用中のおそれがあります。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。



## KDCZ68104-E

---

ナビゲーション プラットフォームの初期設定に失敗しました。

**要因**

ナビゲーション プラットフォームの初期設定に失敗しました。

**対処**

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68105-E

---

Web サーバのセットアップに失敗しました。

**要因**

Web サーバのセットアップに失敗しました。

**対処**

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティに指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。使用中のポート番号を解放してください。

そのほかの要因でエラーが発生している場合は、一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68121-E

---

J2EE サーバのアンセットアップに失敗しました。

**要因**

J2EE サーバのアンセットアップに失敗しました。

**対処**

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68122-E

---

文書管理サーバのアンセットアップに失敗しました。

**要因**

文書管理サーバのアンセットアップに失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68123-E

---

データベースのアンセットアップに失敗しました。

要因

データベースのアンセットアップに失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68141-E

---

データベースサービスの起動に失敗しました。

要因

データベースサービスの起動に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68142-E

---

データベースの起動に失敗しました。

要因

データベースの起動に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

- KFPS01812-E のメッセージが出力されている場合  
ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の ucnp.setup.server.db.port プロパティに指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。使用中のポート番号を解放してください。
- KFPS05074-E のメッセージが出力されている場合

データベースが使用中のため、通常停止できません。-f オプションを指定して npstop コマンドを実行し、強制停止してください。

## KDCZ68143-E

---

スマートエージェントの起動に失敗しました。

### 要因

スマートエージェントの起動に失敗しました。

### 対処

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の ucnp.setup.server.docb.osagent.port プロパティに指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。使用中のポート番号を解放してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68144-E

---

文書管理サーバの起動に失敗しました。

### 要因

文書管理サーバの起動に失敗しました。

### 対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68145-E

---

PRF デーモンの起動に失敗しました。

### 要因

PRF デーモンの起動に失敗しました。

### 対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68146-E

---

J2EE サーバの起動に失敗しました。

### 要因

J2EE サーバの起動に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。

次のメッセージが出力されている場合は、ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) で指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。出力されているメッセージに応じて、使用中のポート番号を解放してください。

- KDJE39017-E のメッセージが出力されている場合

ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port プロパティに指定したポート番号が、使用中のおそれがあります。

- KDJE30061-E のメッセージが出力されている場合

ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port プロパティに指定したポート番号が、使用中のおそれがあります。

- KDCZ58804-E のメッセージが出力されている場合

ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port プロパティに指定したポート番号が、使用中のおそれがあります。

## KDCZ68147-E

---

ナビゲーション プラットフォームのアプリケーションの起動に失敗しました。

要因

ナビゲーション プラットフォームのアプリケーションの起動に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ68148-E

---

Web サーバの起動に失敗しました。

要因

Web サーバの起動に失敗しました。

対処

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティに指定したポート番号が、ほかのアプリケーションなどで使用中のおそれがあります。使用中のポート番号を解放してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ68161-E

---

Web サーバの停止に失敗しました。

**要因**

Web サーバの停止に失敗しました。

**対処**

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68162-E

---

J2EE サーバの停止に失敗しました。

**要因**

J2EE サーバの停止に失敗しました。

**対処**

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68163-E

---

PRF デーモンの停止に失敗しました。

**要因**

PRF デーモンの停止に失敗しました。

**対処**

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68164-E

---

文書管理サーバの停止に失敗しました。

**要因**

文書管理サーバの停止に失敗しました。

**対処**

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ68165-E

---

スマートエージェントの停止に失敗しました。

要因

スマートエージェントの停止に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ68166-E

---

データベースの停止に失敗しました。

要因

データベースの停止に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ68167-E

---

データベースサービスの停止に失敗しました。

要因

データベースサービスの停止に失敗しました。

対処

一緒に表示された KDCZ58804-E のメッセージを基にエラーの原因を解消してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。

## KDCZ70001-I

---

データベース再編成コマンドが正常に終了しました。

要因

npreorg コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ70002-I

---

Usage: npreorg

**要因**

npreorg コマンドの書式を示します。

**対処**

書式に従ってコマンドを実行してください。

## KDCZ70003-E

---

トレースファイルの出力に失敗しました。トレースファイルパスのアクセス権限を確認してください。(トレースファイルのパス = *トレースファイルの絶対パス*)

**要因**

トレースファイルの出力に失敗しました。

**対処**

トレースファイルパスのアクセス権限を確認してください。なお、トレースファイルを参照している場合は、参照を解除してください。

## KDCZ70004-I

---

表の再編成処理を開始します。

**要因**

npreorg コマンドでデータベースの表の再編成処理を開始します。

## KDCZ70005-I

---

データベースと文書管理サーバの起動処理を開始します。

**要因**

データベースと文書管理サーバの起動処理を開始します。

## KDCZ70006-E

---

データベースと文書管理サーバの起動処理に失敗しました。

**要因**

データベースと文書管理サーバの起動処理に失敗しました。

**対処**

*ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ*

¥logs¥ucnp\_reorg\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてください。その後、npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止してから、npreorg コマンドを再度実行してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70007-I

---

データベースと文書管理サーバの停止処理を開始します。

要因

データベースと文書管理サーバの停止処理を開始します。

## KDCZ70008-E

---

データベースと文書管理サーバの停止処理に失敗しました。表の再編成処理自体は正常に終了しています。

要因

データベースと文書管理サーバの停止処理に失敗しました。データベースの表の再編成処理自体は正常に終了しています。

対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_reorg\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてから npstop コマンドで停止してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70009-I

---

業務コンテンツのエクスポート処理を開始します。(業務コンテンツのエクスポートファイルのパス = 業務コンテンツのエクスポートファイルの絶対パス)

要因

業務コンテンツのエクスポート処理を開始します。

## KDCZ70010-E

---

業務コンテンツのエクスポート処理に失敗しました。(業務コンテンツのエクスポートファイルのパス = 業務コンテンツのエクスポートファイルの絶対パス)

要因

npreorg コマンドで業務コンテンツのエクスポート処理に失敗しました。

対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_reorg\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) にエラーメッセージが出力されている場合は、参考にして対処してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。



## KDCZ70021-I

---

Usage: npdatabackup outputDirectory

### 要因

npdatabackup コマンドの書式を示します。

### 対処

書式に従ってコマンドを実行してください。

## KDCZ70022-E

---

データベースと文書管理サーバの起動処理に失敗しました。

### 要因

データベースと文書管理サーバの起動処理に失敗しました。

### 対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_databackup\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてください。その後、npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止してから、npdatabackup コマンドを再度実行してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70023-E

---

設定ファイルまたは静的ファイルのバックアップに失敗しました。

### 要因

設定ファイルまたは静的ファイルのバックアップに失敗しました。

### 対処

バックアップ元のファイルにアクセス権限がない、またはバックアップ先のディスクの空き容量が不足している可能性があります。次のように対処してください。

- バックアップ元のファイルにアクセス権がない場合

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_databackup\_trace/[N].log ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてから、npdatabackup コマンドを再度実行してください。

- バックアップ先のディスクの空き容量が不足している場合

バックアップ先のディスクの空き容量を確保してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70024-E

---

データベースと文書管理サーバの停止処理に失敗しました。バックアップ処理は正常に終了しています。

### 要因

データベースと文書管理サーバの停止処理に失敗しました。バックアップ処理は正常に終了しています。

### 対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_databackup\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてから npstop コマンドで停止してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70025-I

---

データバックアップコマンドが正常に終了しました。

### 要因

npdatabackup コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ70026-E

---

指定されたデータバックアップ先ディレクトリのパスが存在しません。(データバックアップ先ディレクトリのパス = パラメタに指定されたデータバックアップ先ディレクトリの絶対パス)

### 要因

指定されたデータバックアップ先ディレクトリのパスが存在しません。

### 対処

メッセージに表示されているディレクトリのパスが存在することを確認してください。存在しない場合、ディレクトリを作成し、再度 npdatabackup コマンドを実行してください。

## KDCZ70027-I

---

設定ファイルおよび静的ファイルのバックアップを開始します。

### 要因

設定ファイルおよび静的ファイルのバックアップを開始します。

## KDCZ70028-E

---

指定されたデータバックアップ先ディレクトリにファイルまたはディレクトリが存在します。ディレクトリ内のファイルを全て削除し、再度データバックアップコマンドを実行してください。(データバックアップ先ディレクトリのパス = パラメタに指定されたデータバックアップ先ディレクトリの絶対パス)

### 要因

指定されたデータバックアップ先ディレクトリに、ファイルまたはディレクトリが存在します。

### 対処

メッセージに表示されているディレクトリのパス内のファイルまたはフォルダをすべて削除し、再度 npdatabackup コマンドを実行してください。

## KDCZ70029-E

---

業務コンテンツのエクスポート処理に失敗しました。(業務コンテンツのエクスポートファイルのパス = 業務コンテンツのエクスポートファイルの絶対パス)

### 要因

npdatabackup コマンドで業務コンテンツのエクスポート処理に失敗しました。

### 対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_databackup\_trace/[N].log ファイル ( [N] : ファイル面数 ) にエラーメッセージが出力されている場合は、参考にして対処してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70030-I

---

インストール先情報ファイルの作成を開始します。

### 要因

インストール先情報ファイルの作成を開始します。

## KDCZ70031-E

---

インストール先情報ファイルの作成に失敗しました。(作成に失敗したインストール先情報ファイルのパス = 作成に失敗したインストール先情報ファイルの絶対パス)

### 要因

インストール先情報ファイルの作成に失敗しました。

### 対処

メッセージに表示されているディレクトリにアクセス権がない可能性があります。

アクセス権の設定を見直して、再度コマンドを実行してください。  
問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70041-I

---

Usage: npdatarestore inputDirectory

**要因**

npdatarestore コマンドの書式を示します。

**対処**

書式に従ってコマンドを実行してください。

## KDCZ70042-E

---

指定されたデータバックアップディレクトリに業務コンテンツデータが存在しません。(ディレクトリのパス = パラメタに指定されたデータバックアップディレクトリの絶対パス)

**要因**

指定されたデータバックアップディレクトリに業務コンテンツデータが存在しません。

**対処**

メッセージに表示されているディレクトリパスが存在することを確認してください。  
存在しない場合、npdatabackup コマンドで作成したディレクトリを指定し、再度 npdatarestore コマンドを実行してください。

## KDCZ70043-E

---

指定されたデータバックアップディレクトリに設定ファイルが存在しません。(データバックアップディレクトリのパス = パラメタに指定されたデータバックアップディレクトリの絶対パス)

**要因**

指定されたデータバックアップディレクトリに設定ファイルが存在しません。

**対処**

メッセージに表示されているディレクトリパスが存在することを確認してください。  
存在しない場合、npdatabackup コマンドで作成したディレクトリを指定し、再度 npdatarestore コマンドを実行してください。

## KDCZ70044-E

---

バックアップ元と復元先のナビゲーション プラットフォームのバージョンが異なるため、データリストアコマンドを実行できません。(バックアップ元のバージョン = バックアップ元のナビ

ゲーション プラットフォームのバージョン, 復元先のバージョン = 復元先のナビゲーション プラットフォームのバージョン)

#### 要因

npdatabackup コマンドを実行した環境と npdatarestore コマンドを実行した環境のナビゲーション プラットフォームのバージョンが異なっているため、npdatarestore コマンドで環境を復元できません。

#### 対処

npdatabackup コマンドと npdatarestore コマンドを実行する環境のナビゲーション プラットフォームのバージョンを同じにしてください。

npdatarestore コマンドを実行した環境に、業務コンテンツおよび静的ファイルの復元だけを行いたい場合は、次の手順を実行してください。

#### 手順

1. データバックアップディレクトリ `¥JP1IMNP¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs` のフォルダおよびファイルを、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs` にコピーします。
2. npstart コマンドを実行し、ナビゲーション プラットフォームを起動します。  
コマンドのパス  
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥bin¥npstart`
3. npimport コマンドを実行し、データバックアップディレクトリ `¥contents.zip` をインポートします。

#### コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ `¥bin¥npimport`

npdatabackup コマンドを実行した環境と同じか、それより上のバージョン、リビジョン、および限定コードのナビゲーション プラットフォームが、復元先の環境にインストールされていない場合、npimport コマンドを実行しないでください。npdatabackup コマンドを実行した環境より下のバージョン、リビジョン、および限定コードのナビゲーション プラットフォームで npimport コマンドを実行した場合、インポートした業務コンテンツが正しく動作しないおそれがあります。

## KDCZ70045-I

---

設定ファイルおよび静的ファイルの復元を開始します。

#### 要因

設定ファイルおよび静的ファイルの復元を開始します。

## KDCZ70046-E

---

設定ファイルまたは静的ファイルの復元に失敗しました。

#### 要因

設定ファイルまたは静的ファイルの復元に失敗しました。

対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ以下のファイルが参照されている可能性があります。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_datarestore\_trace[N].log ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてから、npdatarestore コマンドを再度実行してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70047-E

---

データベースと文書管理サーバの起動処理に失敗しました。

要因

データベースと文書管理サーバの起動処理に失敗しました。

対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ

¥logs¥ucnp\_datarestore\_trace[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) に出力されているエラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてください。

その後、npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止してから、npstart コマンドを再度実行し、npimport コマンドで npdatabackup コマンド実行時に指定したディレクトリのパスの下にある contents.zip をインポートしてください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70048-I

---

業務コンテンツのインポート処理を開始します。(業務コンテンツのインポートファイルのパス = 業務コンテンツのインポートファイルの絶対パス)

要因

業務コンテンツのインポート処理を開始します。

## KDCZ70049-E

---

業務コンテンツのインポート処理に失敗しました。(業務コンテンツのインポートファイルのパス = 業務コンテンツのインポートファイルの絶対パス)

要因

npdatarestore コマンドで業務コンテンツのインポート処理に失敗しました。

対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
 ¥logs¥ucnp\_datarestore\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) にエラーメッ  
 セージが出力されている場合は、参考にして対処してください。  
 問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70050-I

---

ナビゲーション プラットフォームの起動処理を開始します。

### 要因

ナビゲーション プラットフォームの起動処理を開始します。

## KDCZ70051-E

---

ナビゲーション プラットフォームの起動処理に失敗しました。

### 要因

ナビゲーション プラットフォームの起動処理に失敗しました。

### 対処

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ  
 ¥logs¥ucnp\_setup\_trace/[N].log ファイル ( [N]: ファイル面数 ) に出力されている  
 エラーメッセージの内容を参照して、失敗の原因を取り除いてください。  
 その後、npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止してから、  
 npstart コマンドを実行してナビゲーション プラットフォームを起動し、バック  
 アップデータが正しく復元されていることを確認してください。  
 問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70052-I

---

データリストアコマンドが正常に終了しました。

### 要因

npdatarestore コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ70053-E

---

バックアップ元と復元先のナビゲーション プラットフォームのインストール先が異なるため、  
 データリストアコマンドを実行できません。(バックアップ元のインストールディレクトリのパス = バックアップ元のナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリの絶対パス、復元先のインストールディレクトリのパス = 復元先のナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリの絶対パス)

### 要因

npdatabackup コマンドを実行した環境と npdatarestore コマンドを実行した環境のナビゲーション プラットフォームのインストール先が異なります。

対処

npdatabackup コマンドと npdatarestore コマンドを実行する環境のナビゲーション プラットフォームのバージョンを同じにしてください。

npdatarestore コマンドを実行した環境に、業務コンテンツおよび静的ファイルの復元だけを行いたい場合は、次の手順を実行してください。

手順

1. データバックアップディレクトリ ¥JP1IMNP¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs のフォルダおよびファイルを、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs にコピーします。

2. npstart コマンドを実行し、ナビゲーション プラットフォームを起動します。  
コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npstart

3. npimport コマンドを実行し、データバックアップディレクトリ ¥contents.zip をインポートします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥bin¥npimport

npdatabackup コマンドを実行した環境と同じか、それより上のバージョン、リビジョン、および限定コードのナビゲーション プラットフォームが、復元先の環境にインストールされていない場合、npimport コマンドを実行しないでください。npdatabackup コマンドを実行した環境より下のバージョン、リビジョン、および限定コードのナビゲーション プラットフォームで npimport コマンドを実行した場合、インポートした業務コンテンツが正しく動作しないおそれがあります。

## KDCZ70054-E

---

指定されたデータバックアップディレクトリにインストール先情報ファイルが存在しません。(ディレクトリのパス = パラメタに指定されたデータバックアップディレクトリの絶対パス)

要因

指定されたデータバックアップディレクトリにインストール先情報ファイルが存在しません。

対処

メッセージに表示されているディレクトリパスが存在することを確認してください。存在しない場合、npdatabackup コマンドで作成したディレクトリを指定し、再度 npdatarestore コマンドを実行してください。



## KDCZ70081-E

---

他のナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行中です。実行中のコマンドがない場合は、排他ロックディレクトリを削除してからコマンドを再度実行してください。(排他ロックディレクトリのパス = 排他ロックディレクトリの絶対パス)

### 要因

ほかのナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行中です。

### 対処

実行中のコマンドの終了を待ってから、コマンドを再度実行してください。実行中のコマンドがない場合は、メッセージに表示されている排他ロックディレクトリを削除してからコマンドを再度実行してください。

## KDCZ70082-E

---

ナビゲーション プラットフォームが現在のナビゲーションプラットフォームの状態状態のため、コマンド種別コマンドを実行できません。ナビゲーション プラットフォームを停止してから、再度コマンドを実行してください。

### 要因

現在のナビゲーション プラットフォームの状態では実行できないコマンドを実行しました。

### 対処

ナビゲーション プラットフォームを停止してから、再度コマンドを実行してください。

## KDCZ70083-E

---

ナビゲーション プラットフォームが現在のナビゲーションプラットフォームの状態状態のため、コマンド種別コマンドを実行できません。ナビゲーション プラットフォームをセットアップしてから、再度コマンドを実行してください。

### 要因

現在のナビゲーション プラットフォームの状態では実行できないコマンドを実行しました。

### 対処

現在のナビゲーション プラットフォームの状態に応じて、次のどれかの対処を実施してください。

#### セットアップが完了していない場合

ナビゲーション プラットフォームをセットアップしてから、コマンドを再度実行してください。

#### セットアップエラーの場合

npsetup コマンドが異常終了したときに出力されたエラーメッセージに応じて、次のとおり対処してください。

- KDCZ50857-E で異常終了した場合  
エラーメッセージを基にエラーの原因を解決してください。その後、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップしてから、再度セットアップしてください。  
エラーの原因を解決できない場合は、問い合わせ窓口にご連絡してください。
- KDCZ50857-E 以外で異常終了した場合  
エラーメッセージを基にエラーの原因を解決し、再度 npsetup コマンドを実行してください。

#### アンセットアップエラーの場合

npunsetup コマンドが異常終了したときに出力されたエラーメッセージに応じて、次のとおり対処してください。

- KDCZ50858-E で異常終了した場合  
次の手順でナビゲーション プラットフォームをアンインストールしてください。その後、ナビゲーション プラットフォームを再度インストールしてセットアップしてください。
  1. OS を再起動する。
  2. ナビゲーション プラットフォームをアンインストールする。
  3. ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリを削除する。
- KDCZ50858-E 以外で異常終了した場合  
エラーメッセージを基にエラーの原因を解決し、再度 npunsetup コマンドを実行してください。

## KDCZ70084-E

---

ナビゲーション プラットフォームが現在のナビゲーションプラットフォームの状態のため、コマンド種別コマンドを実行できません。ナビゲーション プラットフォームを起動してから、再度コマンドを実行してください。

#### 要因

現在のナビゲーション プラットフォームの状態では実行できないコマンドを実行しました。

#### 対処

ナビゲーションプラットフォームの状態に応じて、次のどれかの対処を実施してください。

#### 停止または部分起動の場合

npstart コマンドで起動してから、コマンドを再度実行してください。

#### 起動エラーの場合

- KDCZ50859-E で異常終了した場合

エラーメッセージを基にエラーの原因を解決してください。その後、npstop コマンドでナビゲーション プラットフォームを停止してから、再度 npstart コマンドで起動してください。もしエラーの原因を解決できない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

- KDCZ50859-E 以外で異常終了した場合  
エラーメッセージを基にエラーの原因を解決し、再度 npstart コマンドを実行してください。

#### 停止エラーの場合

- KDCZ50860-E で異常終了した場合  
エラーメッセージを基にエラーの原因を解決してから、再度 npstop コマンドを実行してください。エラーの原因を解決できない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。  
ナビゲーション プラットフォームを起動させ続けることでリソースが枯渇するおそれがあるなど、強制的にナビゲーション プラットフォームを停止する必要がある場合は、`-f` オプションを指定して npstop コマンドを実行し、強制的に停止してください。
- KDCZ50860-E 以外で異常終了した場合  
エラーメッセージを基にエラーの原因を解決し、再度 npstop コマンドを実行してください。

## KDCZ70085-E

---

ナビゲーション プラットフォームが現在のナビゲーション プラットフォームの状態のため、セットアップコマンドを実行できません。ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップしてから、再度コマンドを実行してください。

#### 要因

現在のナビゲーション プラットフォームの状態では、npsetup コマンドは実行できません。

#### 対処

ナビゲーション プラットフォームをセットアップし直す場合は、いったんアンセットアップしてから再度セットアップしてください。

## KDCZ70086-E

---

ナビゲーション プラットフォームが現在のナビゲーション プラットフォームの状態のため、コマンド種別コマンドを実行できません。

#### 要因

現在のナビゲーション プラットフォームの状態では実行できないコマンドを実行しました。

#### 対処

現在のナビゲーション プラットフォームの状態に応じて、次のどれかの対処を実施してください。

セットアップが完了していない場合

ナビゲーション プラットフォームをセットアップしてから、コマンドを再度実行してください。

アンセットアップエラーの場合

npunsetup コマンドが異常終了したときに出力されたエラーメッセージに応じて、次のとおり対処してください。

- KDCZ50858-E で異常終了した場合

次の手順でナビゲーション プラットフォームをアンインストールしてください。その後、ナビゲーション プラットフォームを再度インストールしてセットアップしてください。

1. OS を再起動する。
2. ナビゲーション プラットフォームをアンインストールする。
3. ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリを削除する。

- KDCZ50858-E 以外で異常終了した場合

エラーメッセージを基にエラーの原因を解決し、再度 npunsetup コマンドを実行してください。

## KDCZ70087-E

---

引数で指定したパスに誤りがあります。パスに特殊文字および制御文字は指定できません。

要因

引数で指定したパスに誤りがあります。パスに次の文字は指定できません。

- 記号 (「&」、「|」、「!」、「<」、「>」、「^」、「%」、「\*」、「?」)
- 制御文字 (ASCII コード上の 0x00 ~ 0x1F と 0x7F)

対処

指定するパスを見直してから、再度コマンドを実行してください。半角の引用符 (") については、対応づけを見直してください。また、次の記号については、ディレクトリ名およびファイル名に指定できない文字です。

- 「|」、「<」、「>」、「\*」、「?」

## KDCZ70702-I

---

トラブルシュート情報一括収集コマンドが正常に終了しました。

要因

npsnapshotlog コマンドが正常に終了しました。

## KDCZ70704-I

---

Usage: npsnapshotlog outputDirectory

### 要因

npsnapshotlog コマンドの書式を示します。

### 対処

書式に従ってコマンドを実行してください。

## KDCZ70705-E

---

すでにトラブルシューティング情報一括収集コマンドが起動しています。

### 要因

すでに npsnapshotlog コマンドが起動しています。

### 対処

すでに npsnapshotlog コマンドを実行中の場合は、実行中のコマンドが終了してから、再度コマンドを実行してください。

コマンドを実行中でない場合は、ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥spool¥lock¥npsnapshotlog¥running ディレクトリを削除してから、再度コマンドを実行してください。

コマンドが実行されているかどうかは、Windows のタスク マネージャの [アプリケーション] タブで、「管理者: Command Prompt」から始まるタスクが npsnapshotlog コマンドのタスクかどうかで確認できます。

## KDCZ70706-E

---

トラブルシューティング情報一括収集コマンドの設定ファイルの読み込みに失敗しました。(設定ファイルのパス = *トラブルシューティング情報一括収集コマンドの設定ファイルの絶対パス*)

### 要因

npsnapshotlog コマンドの設定ファイルの読み込みに失敗しました。

### 対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ70707-E

---

指定されたパラメタの出力先ディレクトリに、すでにファイルが存在しています。(ファイルパス = *絶対ファイルパス*)

### 要因

指定されたパラメタの出力先ディレクトリに、すでにファイルが存在しています。

### 対処

## 10. メッセージ

別のディレクトリを指定するか、すでにあるファイルを移動または削除してください。

### KDCZ70708-W

---

トラブルシューティング情報の取得に失敗しました。(失敗した処理 = 失敗した処理)

要因

トラブルシューティング情報の取得に失敗しましたが、処理を続行します。

### KDCZ70710-E

---

作業用ディレクトリが存在しません。(作業用ディレクトリのパス = 作業用ディレクトリの絶対パス)

要因

作業用ディレクトリが存在しません。

対処

作業用ディレクトリのパスにディレクトリが存在することを確認してください。  
ディレクトリが存在しない場合、ディレクトリを作成してから、再度コマンドを実行してください。問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

### KDCZ70711-I

---

一次、二次資料の取得が完了しました。

要因

資料の取得が完了しました。

### KDCZ70712-W

---

一部、一次、二次資料の取得に失敗しました。

要因

一部のトラブルシューティング情報資料の取得に失敗しましたが、処理を続行します。

### KDCZ70713-W

---

内部ファイルの削除に失敗しました。(ファイルパス = 削除に失敗したファイルの絶対パス)

要因

内部ファイルの削除に失敗しましたが、処理を続行します。

対処

ファイルパスに表示されたファイルを手動で削除してください。

## KDCZ70714-E

---

指定された出力先ディレクトリのパスが存在しません。(出力先ディレクトリのパス = 出力先ディレクトリの絶対パス)

要因

指定された出力先ディレクトリのパスが存在しません。

対処

出力先ディレクトリのパスを作成してから、再度コマンドを実行してください。

## KDCZ70715-W

---

トラブルシューティング情報一括収集コマンドを終了しました。一部、トラブルシューティング情報の取得に失敗しました。

要因

一部のトラブルシューティング情報の取得に失敗しましたが、処理を終了します。

対処

取得したトラブルシューティング情報と一緒に、npsnapshotlog コマンドのトレースファイルを問い合わせ窓口へ送付してください。

## KDCZ70716-E

---

トラブルシューティング情報の取得に失敗しました。

要因

トラブルシューティング情報の取得に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口へ連絡してください。

## KDCZ70717-W

---

一次、二次資料の取得に失敗しました。

要因

トラブルシューティング情報資料の取得に失敗しましたが、処理を続行します。

## KDCZ78001-E

---

RD エリアの閉塞処理に失敗しました。

要因

npreorg コマンドで RD エリアの閉塞処理に失敗しました。

対処

npreorg コマンドを再度実行してください。再度失敗する場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ78002-E

---

表の再編成処理に失敗しました。

要因

npreorg コマンドでデータベースの表の再編成処理に失敗しました。

対処

npreorg コマンドを再度実行してください。再度失敗する場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ78003-E

---

RD エリアの閉塞解除処理に失敗しました。

要因

npreorg コマンドで RD エリアの閉塞解除処理に失敗しました。

対処

npreorg コマンドを再度実行してください。再度失敗する場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ79001-E

---

ファイルの作成に失敗しました。(ファイルパス = 作成しようとしたファイルの絶対パス)

要因

ファイルの作成に失敗しました。ファイルパスに、書き込みできない可能性があります。

対処

ファイルパスに、書き込みできることを確認してください。また、ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ  $\%logs\%ucnp\_reorg\_trace\{N\}.log$  ファイル ( $\{N\}$ : ファイル面数) にエラーメッセージが出力されている場合は、参考にして対処してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ79002-E

---

ファイルの削除に失敗しました。表の再編成処理自体は正常に終了しています。(ファイルパス = 削除しようとしたファイルの絶対パス)

要因



ファイルの削除に失敗しました。データベースの表の再編成処理自体は正常に終了しています。

対処

ファイルを手動で削除してください。

また、データベースの表の再編成処理のために起動したプロセスが起動状態のままになっています。プロセスを停止するため、npstop コマンドでシステムを停止してください。

## KDCZ79056-E

---

ディレクトリまたはファイルの削除に失敗しました。(削除に失敗したディレクトリまたはファイルのパス = *削除に失敗したディレクトリまたはファイルの絶対パス*)

要因

ディレクトリまたはファイルの削除に失敗しました。

対処

メッセージに表示されているディレクトリ内のファイルまたはディレクトリが参照されている可能性があります。

ツールなどでメッセージに表示されたディレクトリまたはファイルにアクセスしていないか確認してください。ツールなどでアクセスしている場合は、ツールを終了してから再度コマンドを実行してください。

問題が解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ79081-E

---

ナビゲーション プラットフォームの状態の取得に失敗しました。

要因

ナビゲーション プラットフォームの状態の取得に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ79082-E

---

ナビゲーション プラットフォームの状態の更新に失敗しました。

要因

ナビゲーション プラットフォームの状態の更新に失敗しました。

対処

問い合わせ窓口に連絡してください。

## KDCZ79083-W

---

排他ロックディレクトリの削除に失敗しました。排他ロックディレクトリを手動で削除してください。(排他ロックディレクトリのパス = 排他ロックディレクトリの絶対パス)

**要因**

排他ロックディレクトリの削除に失敗しましたが、処理を続行します。

**対処**

メッセージに表示されている排他ロックディレクトリを手動で削除してください。

# 付録

---

付録 A このマニュアルの参考情報

---

付録 B 用語解説

---

## 付録 A このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

### 付録 A.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R)用) (3020-3-S81)

### 付録 A.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	正式名称
JP1/IM	JP1/Integrated Management - Manager
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM Client
	JP1/NETM/DM Client - Base
	JP1/NETM/DM Manager
インテル Core2 Duo	インテル (R) Core™2 Duo プロセッサ
ナビゲーション プラットフォーム	JP1/Integrated Management - Navigation Platform

### 付録 A.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
J2EE	Java 2 Platform, Enterprise Edition
Java	Java
JIS	Japanese Industrial Standards
NIC	Network Interface Card
PRF	Cosminexus Performance Tracer
RMI	Remote Method Invocation
UTF	UCS Transformation Format
VM	Virtual Machine
WOW64	Windows On Windows 64

## 付録 A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ  $1,024$  バイト,  $1,024^2$  バイト,  $1,024^3$  バイト,  $1,024^4$  バイトです。

---

## 付録 B 用語解説

### (英字)

---

#### JP1/IM

システム全体の一元的な監視と操作を実現し、システムを統合管理するためのプログラムです。

#### JP1/NETM/DM

ソフトウェアの配布およびクライアントの管理を、ネットワークを利用し一括して行うシステムの総称です。

### (ア行)

---

#### インポート

エクスポートされた業務コンテンツのデータを環境に取り込むことです。

#### エクスポート

業務コンテンツのデータを ZIP 形式で出力することです。エクスポートしたデータは、ほかの環境にインポートできます。

### (カ行)

---

#### ガイド

業務コンテンツのうち、業務で実施する個々の作業の説明のことです。

#### ガイドパーツ

ガイドを作成するための部品です。[ Guide ] パレットから選択して、ガイド領域に配置します。

#### 業務コンテンツ

業務を遂行するために必要な情報のことです。業務コンテンツは、ナビゲーションプラットフォームの画面で作成、表示できます。

#### 業務実行画面

業務コンテンツを利用して業務を実行するための画面です。

#### 業務フロー

業務コンテンツのうち、業務の流れをフローチャート化した図のことです。

#### 業務編集画面

ナビゲーションプラットフォームで、業務コンテンツの作成・変更・複製・削除を実施するための画面です。

## (タ行)

---

### ターミナルノード

業務の開始または終了を表すノードです。業務フローの最初と最後には必ずターミナルノードを配置します。ナビゲーションプラットフォームの画面では、丸で表示されます。

## (ナ行)

---

### ノード

業務の工程を表す部品であり、業務フローに表示されます。ノードには、ターミナルノード、プロセスノード、および分岐合流ノードの3種類があります。

## (ハ行)

---

### パーツ

ナビゲーションプラットフォームの画面に配置する部品です。

### フローパーツ

業務フローを作成するための部品です。[ Flow ] パレットから選択して、フロー領域に配置します。

### プロセスノード

業務の途中の工程を表すノードです。ターミナルノードの間には1個以上のプロセスノードが必要です。画面上では長方形で表示されます。

### 分岐合流ノード

業務の工程が分岐する場合に必要なノードです。ナビゲーションプラットフォームの画面では、ひし形で表示されます。

## (ヤ行)

---

### ユーザセットアッププロパティファイル

セットアップを実行する場合に、ポート番号を定義するファイルです。

### ユーザプロパティファイル

ナビゲーションプラットフォームの動作環境を定義するファイルです。画面の見映えに関する情報、セッションを維持するためのリクエスト発信の間隔などを定義します。





---

# 索引

## 数字

---

- 1 次資料〔トラブルシュート情報〕 37
- 1 次資料の ZIP ファイル 162
- 2 次資料〔トラブルシュート情報〕 37
- 2 次資料の ZIP ファイル 162

## F

---

[Flow] パレット 51

## G

---

[Guide] パレット 80

## H

---

- Hitachi Web Server がリクエストを受け付けるポート番号 120
- HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス 132
- HTML パーツを配置する 97
- HTML マニュアルのパス 129

## I

---

- [ID 取得] メニュー 43
- [ID 非表示] ボタン 45
- [ID 表示] ボタン 45
- IPv4 16

## J

---

- J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号 121
- JavaScript 関数 167

## N

---

- npdatabackup コマンド 144
- npdatarestore コマンド 146
- npexport コマンド 148
- npimport コマンド 151
- npreorg コマンド 156

- npsetup コマンド 157
- npsnapshotlog コマンド 162
- npstart コマンド 159
- npstop コマンド 160
- npunsetup コマンド 161

## U

---

- ucnp.base.client.autoscroll 136
- ucnp.base.client.back.button.width 137
- ucnp.base.client.branch.button.width 138
- ucnp.base.client.complete.button.width 138
- ucnp.base.client.complete.button.window.close 137
- ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable 138
- ucnp.base.client.currentnode.color 134
- ucnp.base.client.directjump.design 135
- ucnp.base.client.directjump.enable 133
- ucnp.base.client.editingarea.height 127
- ucnp.base.client.editingarea.width 126
- ucnp.base.client.flow.frame.visible 131
- ucnp.base.client.flow.frame.width 125
- ucnp.base.client.frame.resize.target 125
- ucnp.base.client.grid.size 139
- ucnp.base.client.guide.frame.width 126
- ucnp.base.client.menu.frame.visible 131
- ucnp.base.client.menu.frame.width 125
- ucnp.base.client.next.button.width 137
- ucnp.base.client.node.color 135
- ucnp.base.client.terminal.display 133
- ucnp.base.client.undo.max.count 139
- ucnp.base.server.custom.browser.title 129
- ucnp.base.server.custom.head.logo 127
- ucnp.base.server.custom.help 129
- ucnp.base.server.custom.menu 131
- ucnp.base.server.htmlpart.css 132
- ucnp.base.server.keepsession.interval 124
- ucnp.setup.server.cosminexus.ejbsserver.http.port 120

ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port 121  
 ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port 120  
 ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port 121  
 ucnp.setup.server.db.port 121  
 ucnp.setup.server.docb.osagent.port 121  
 ucnp\_menu\_get\_contentId [JavaScript 関数] 169  
 ucnp\_menu\_show\_flow [JavaScript 関数] 168  
 ucnp\_setup\_user.properties 119  
 ucnp\_setup\_user.properties [プロパティ一覧] 119  
 ucnp\_user.properties 122  
 ucnp\_user.properties [プロパティ一覧] 122  
 URL 26

## W

---

Web サーバとの通信に使用するポート番号 121  
 Web ブラウザ動作 [[完了] ボタンをクリックしたとき] 137  
 Web ブラウザのウィンドウサイズ変更時, およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域 125  
 Web ブラウザのタイトルバー文字列 129

## Z

---

ZIP ファイル [トラブルシュート情報] 162

## あ

---

空き容量 [インストールディレクトリ] 16  
 空き容量 [インストールディレクトリ (データベース再編成時)] 35  
 空き容量 [バックアップ先ディレクトリ] 32  
 アクティブスクリプト 13  
 アンインストール 19  
 アンセットアップ 24  
 アンセットアップ [コマンド] 161

## い

---

一意の業務コンテンツ名称の指定可否 138  
 インストール 17  
 インストールする前に 9  
 インストールの流れ 10  
 インストールを始める前に 16  
 インポート [コマンド] 151  
 インポート [用語解説] 248  
 インラインフレームを配置する 94

## え

---

エクスポート [コマンド] 148  
 エクスポート [用語解説] 248  
 エスケープシーケンスの指定 117

## お

---

大きさを変更する [ガイドパーツ] 105  
 大きさを変更する [ノード, フローパーツ] 76

## か

---

ガイド 3  
 ガイド [用語解説] 248  
 ガイドの作成 79  
 ガイドパーツ [用語解説] 248  
 ガイド領域の幅 126  
 カスタマイズしたメニューの HTML ファイルの相対パス 131  
 画像を配置する [ガイド領域] 83  
 画像を配置する [業務フロー領域] 71  
 簡易 Web サーバのポート番号 120  
 環境退避 [コマンド] 144  
 環境復元 [コマンド] 146  
 関連線 50  
 関連線を引く 62

## き

---

起動 [コマンド] 159  
 起動 [自動] 28  
 起動 [手動] 28  
 機能 3

業務コンテンツ 3  
 業務コンテンツ〔用語解説〕 248  
 業務コンテンツのインポート〔コマンド〕  
 151  
 業務コンテンツのエクスポート〔コマンド〕  
 148  
 業務コンテンツの削除 107  
 業務コンテンツの作成 40  
 業務コンテンツの上限値 40  
 業務コンテンツの複製 106  
 業務コンテンツの変更 106  
 業務実行画面 3  
 業務実行画面〔用語解説〕 248  
 業務実行画面にアクセスするための URL 26  
 業務フロー 3  
 業務フロー〔用語解説〕 248  
 業務フローの作成 50  
 業務フローの直接遷移 133  
 業務フローの名称を変更する 49  
 業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値  
 127  
 業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値  
 126  
 業務フロー領域の自動スクロール可否 136  
 業務フロー領域の幅 125  
 業務フロー領域の表示有無 131  
 業務フローを新規に追加する 48  
 業務編集画面 3  
 業務編集画面〔用語解説〕 248  
 業務編集画面にアクセスするための URL 26  
 業務編集画面のグリッド間隔 139

---

## く

クライアントマシン 11

---

## け

限定コード 146

---

## こ

合流ノード 66  
 固定テキストを配置する〔ガイド領域〕 80

固定テキストを配置する〔業務フロー領域〕  
 68  
 [コピー] ボタン 45  
 コマンド一覧 142  
 コマンドの概要 142  
 コンテンツ ID を取得 27  
 コンテンツ格納先ディレクトリ 110

---

## さ

サーバマシン 11  
 再編成 35  
 [削除] ボタン 45  
 [削除] メニュー 43  
 サンプルの業務コンテンツ 40

---

## し

システム管理者 11  
 システム構成 11  
 システムフォントのサイズ 13

---

## す

スクロール 136  
 スペック 12  
 スマートエージェントがリクエストを受け付  
 けるポート番号 121

---

## せ

セットアップ 22  
 セットアップ〔コマンド〕 157  
 セットアップ完了後 157  
 選択状態のプロセスノードの色 134  
 前提条件 12  
 前面 / 背面へ移動する〔ノード, フローパー  
 ツ〕 76

---

## そ

ソース例〔メニュー領域の表示形式〕 111  
 [属性の設定] 画面〔HTML パーツ〕 98  
 [属性の設定] 画面〔インラインフレーム  
 パーツ〕 95

[属性の設定]画面〔ガイド領域の画像パーツ〕85  
[属性の設定]画面〔ガイド領域の固定テキストパーツ〕82  
[属性の設定]画面〔業務フロー領域の画像パーツ〕73  
[属性の設定]画面〔業務フロー領域の固定テキストパーツ〕70  
[属性の設定]画面〔ターミナルノード〕53  
[属性の設定]画面〔チェックボックスパーツ〕88  
[属性の設定]画面〔ハイパーリンクパーツ〕91  
[属性の設定]画面〔プロセスノード〕57  
[属性の設定]画面〔分岐合流ノード〕67  
属性を変更する〔ガイドパーツ〕105  
属性を変更する〔ノード, フローパーツ〕76

## た

---

ターミナルノード 51  
ターミナルノード〔用語解説〕249  
ターミナルノードの表示有無 133  
ターミナルノードを配置する 52

## ち

---

チェックボックスを配置する 87  
注意事項〔Web ブラウザ操作時〕12  
注意事項〔全コマンド共通〕142  
注意事項〔プロパティファイル〕117  
直接遷移できるプロセスノードのデザイン 135

## つ

---

[追加]メニュー 43  
ツールチップ〔ガイド領域の画像パーツ〕87  
ツールチップ〔業務フロー領域の画像パーツ〕75  
ツールバー 44

## て

---

停止 29

停止〔コマンド〕160  
データベースサーバのポート番号 121  
データベース再編成〔コマンド〕156  
データベースの運用 35

## と

---

特長 2  
特定の業務コンテンツに直接アクセスするための URL 26  
[閉じる]ボタン 42  
トラブルが発生した場合の対処 37  
トラブルシューティング情報(1次資料)162  
トラブルシューティング情報(2次資料)163  
トラブルシューティング情報の収集〔コマンド〕162

## な

---

ナビゲーションプラットフォームとは 2

## の

---

ノード 50  
ノード〔用語解説〕249

## は

---

バージョン 146  
パーツ〔用語解説〕249  
ハイパーリンクを配置する 90  
バックアップ 31  
バックアップ先ディレクトリ 144  
[貼り付け]ボタン 45

## ひ

---

非選択状態 / 直接遷移可能状態のプロセスノードの色 135

## ふ

---

フォントのサイズ 13  
[複製]メニュー 43  
フローパーツ〔用語解説〕249

プログラムと機能〔Windows のコントロールパネル〕 19  
 プロセスノード 51  
 プロセスノード〔用語解説〕 249  
 プロセスノードを配置する 56  
 プロパティファイル 116  
 プロパティファイルの記述形式 117  
 分岐合流ノード 51  
 分岐合流ノード〔用語解説〕 249  
 分岐合流ノードを配置する 65  
 分岐ノード 66

---

## へ

ヘッダ領域 41  
 ヘッダ領域のロゴ画像のパス 127  
 [ヘルプ]メニュー 42  
 [編集開始]メニュー 42  
 [編集終了]メニュー 42

---

## ほ

ポート番号〔簡易 Web サーバ用〕 120  
 ポート番号〔データベース〕 121  
 ポート番号〔デフォルト〕 22  
 ホスト名を変更した場合 30  
 [保存]ボタン 44  
 ボタンの幅〔[完了]ボタン〕 138  
 ボタンの幅〔[次へ]ボタン〕 137  
 ボタンの幅〔分岐合流ノードを経由して次のノードへ遷移するためのボタン〕 138  
 ボタンの幅〔[戻る]ボタン〕 137

---

## ま

マシンスペック 12

---

## め

[名称変更]メニュー 43  
 メニュー領域 42  
 メニュー領域折りたたみボタン 44  
 メニュー領域の幅 125  
 メニュー領域の表示有無 131

---

## も

文字サイズ〔Web ブラウザ〕 13  
 [元に戻す]ボタン 44  
 [元に戻す]ボタンの対象操作履歴の最大保持数 139

---

## や

[やり直す]ボタン 44

---

## ゆ

有効期限切れ〔Web ブラウザ〕 13  
 ユーザセットアッププロパティファイル〔用語解説〕 249  
 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp\_setup\_user.properties) のプロパティ一覧 119  
 ユーザセットアッププロパティファイルの格納先 119  
 ユーザセットアッププロパティファイルの記述例 120  
 ユーザセットアッププロパティファイルの設定〔ucnp\_setup\_user.properties〕 119  
 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細 120  
 ユーザプロパティファイル〔用語解説〕 249  
 ユーザプロパティファイル (ucnp\_user.properties) のプロパティ一覧 122  
 ユーザプロパティファイルの格納先 123  
 ユーザプロパティファイルの記述例 124  
 ユーザプロパティファイルの設定〔ucnp\_user.properties〕 122  
 ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細 124

---

## り

リクエスト発信間隔 124  
 リストア 32  
 リビジョン 146  
 リモートインストール 17